

を行わない点や鱗付円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪を欠く点は岩崎山4号墳資料との重要な相違点である。また胎土の特徴もこれとは異なる。

2 b 類：屈曲口縁・貼付口縁等の口縁部形態は今岡古墳以降の特徴の一つである。また最下段半円形透かし孔例は今岡古墳資料においても豊富に確認することができる。この点に加え、胎土の特徴も、肉眼観察および第4章に掲載された蛍光X線分析で今岡古墳のそれとの完全な一致を確認している。したがって本類は今岡古墳に供給された可能性が高いものと考える。

3 類：上記した中期前半以前の埴輪類の様相とは大きく異なる。無黒斑焼成の可能性が高い点と連続的なヨコハケ調整を重視すれば中期後半ないしは後期初頭に位置づけるべきであろう。

1 類円筒埴輪の存在は同様の横立山経塚古墳円筒埴輪などと共に、初期の円筒埴輪の製作と供給の問題について興味深い材料を提供するであろう。このことは古墳時代前期段階における石清尾山古墳群被葬者を中心とした高松平野諸地域首長間の関係について重要な示唆を与えるものであろう。

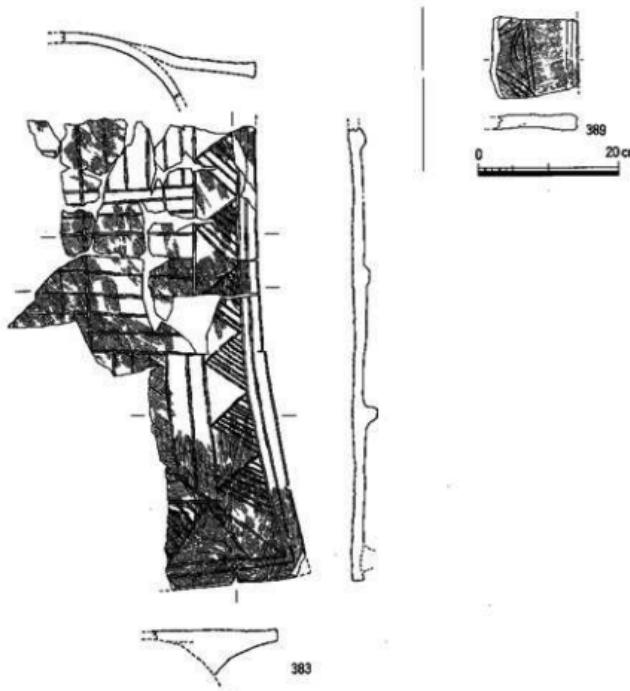
また少なくとも2 b 類が今岡古墳に供給された可能性を指摘した。不十分な資料で即断は危険であるが、確認した中間西井坪遺跡2 b 類円筒埴輪とその共伴器財形埴輪類の組成は今岡古墳のそれに完全に一致するわけではなさそうである。したがって中間西井坪遺跡は今岡古墳の円筒埴輪を準備した複数製作拠点の一つに位置づけられる可能性がある。また先に示したようにこれより古い様相を有する2 a 類円筒埴輪が今岡古墳で確認できないとすれば、本遺跡の埴輪等生産は今岡古墳築造を契機としたものではない可能性が高くなる。今のところ、この点はあくまでも一つの見通しでしか過ぎない。他に2 a 類円筒埴輪を樹立した可能性のある古墳を指摘できないし、今岡古墳資料の様相把握についても決して完璧ではない。中間西井坪遺跡の埴輪生産を理解するにあたって重要な問題を含むため、今後とも追求する必要がある問題である。

### 第3節 器財形埴輪

器種ないしは形態の概要を知りうる器財形埴輪には盾形、家形、蓋形、船形、半裁器台形がある。この他器種不明の飾り板片多数等が見られる。3号墳から出土した形状の異なる家形埴輪1点を除き、肉眼観察・蛍光X線分析で共伴する円筒埴輪類と同質の胎土に依ることが確認できており、本遺跡で製作されたものと考えられる。なお焼成土坑など丘陵西部では家形・蓋形・半裁器台形が出土し、大形竪穴建物など丘陵東部では盾形・家形・船形及び器種不明飾り板片が出土している。

#### (1) 盾形埴輪

5区大形竪穴建物出土資料と古墳群周辺出土資料とに盾形埴輪を含む。丘陵西部の焼成



第187図 中間西井坪遺跡の盾形埴輪（1 / 8）

土坑周辺及び谷3では出土していない。

盾面文様に限っても3種類の構成がある。

1は最も文様構成をよくとどめ、大形竪穴資料では円筒部の一部を残す。

盾面の形態は直線的な下縁・側縁を有すること以上は不詳。文様構成は内区・外区に分かれる。

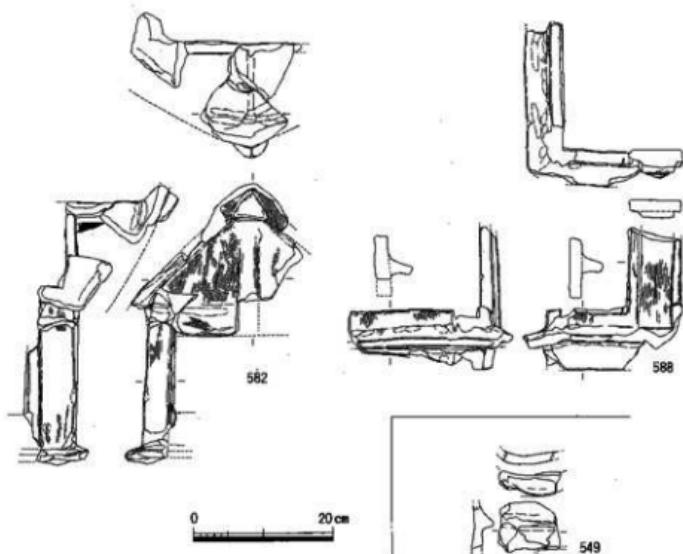
内区では2段以上の横位の並行沈線帯の間を縦長の格子文様で充填する。外区では残存する右下隅に対角線方向の仕切線を見る。おそらく外区4分割線となろう。外区には側縁では内向、下縁では外向の鋸歯文が連続する。古墳群周辺資料では同様の文様構成を持つ盾面外区片がある。この文様構成は高橋克壽氏の分類<sup>(4)</sup>では盾形埴輪1類に相当する。外区の4分割線、内区の並行線帯は共に板目の表現とされ、木製盾を粗形とする盾形埴輪の古い1群とされる。

2は盾面小片で形態や文様構成は不明。並行弧線の組み合わせを基調とする文様構成

3は無文の小片で必ずしも盾形埴輪とは言い難い。この他 盾形埴輪状の小形品がある。

## (2) 家形埴輪

全体像を知りうる資料はないが、5区大形竪穴建物・古墳群周辺資料で屋根部・壁体部

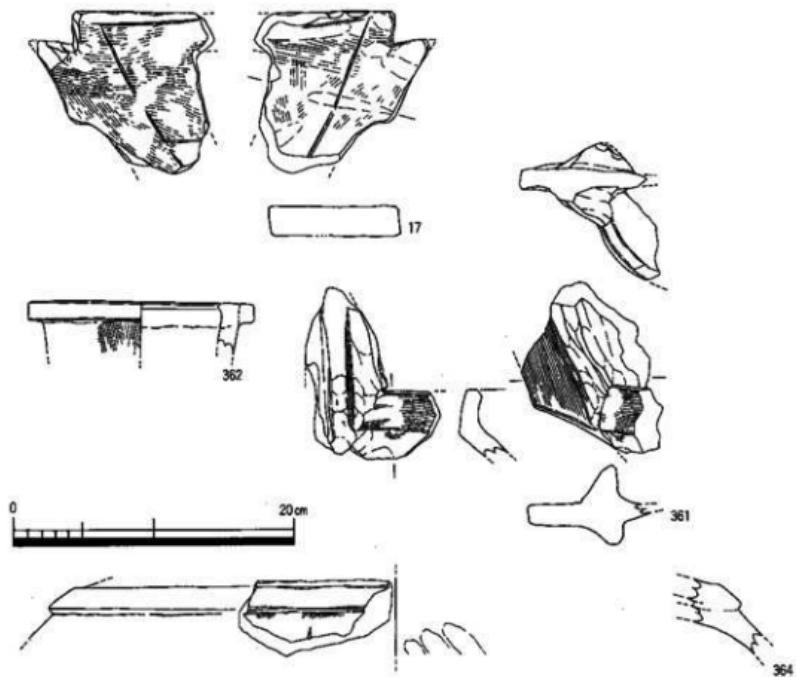


第188図 中間西井坪遺跡の家形埴輪（1 / 8）

の大要を知りうる資料がある。また谷3資料で壁体隅柱小片を見る。この他3号墳で時期の下る小片が出土している。

屋根は全て切妻型式 破風の表現 棟木表現は欠く場合もある。屋根面に網代表現などはない。蟇木はないようだが頂部に鱗状の板を付加する例がある。壁体では柱部分は粘土帶を貼付して浮き彫り状に表現する。梁材・棟持柱も同様に表現する場合がある。各面に大きく窓を穿つ。下部にはやや垂下気味に縁側状の張り出しが取り付く。下端には部分的に弧状の切り込みが見られる。

全体的に成形・調整は丁寧である。共伴する円筒埴輪から富田茶臼山古墳に近い時期が想定できる寒川町神前古墳出土家形埴輪<sup>(42)</sup>では細部の成形・調整に粗雑さが目につく。また中期末ないしは後期初頭に位置づけられる普通寺市香色山出土資料<sup>(43)</sup>では屋根の高さを不自然に強調した形態と成形・調整の簡略化が明らかに認められるが、本例では形態上、



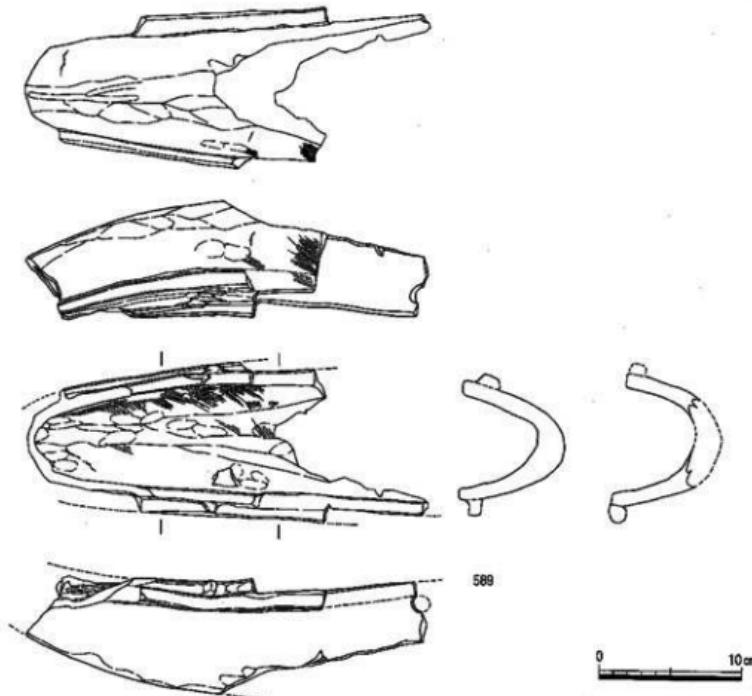
第189図 中間西井坪遺跡の蓋形埴輪（1 / 4）

不自然なデフォルメや細部の極端な簡略化は見受けられない。

3号墳出土資料は屋根下端から壁体にかけての小片である。軒先が矮小して表現され、壁体隅も粗雑に形作られ家屋の表現としては形骸化が著しい。その点で香色山遺跡資料に近いものである。

### (3) 船形埴輪

立ち飾り、同軸部、受け部、笠部の小片が焼成土坑、不明遺構S X 0 2、谷3から出土している。立ち飾りは刀状の板材で内外側縁に鱗状の突起を持つ。円筒形二重口縁状をなす軸部上面に十文字に取り付く。板中程に単線ないしは二重線によって「目」ないしは「日」字状の文様を描き、それを切るように中央部に縦長長方形の透かし孔を穿つ。軸部はほぼ直立する円柱状で上端外面に粘土帯を貼付する。笠部では中央、基底部接合部分の



第190図 中間西井坪遺跡の船形埴輪（1/8）

ほぼ直上に横帯を貼付し、そこから垂下沈線を延ばす。

上記した諸特徴は松木武彦氏の分類<sup>(44)</sup>では津堂城山型新相に相当する。なお今岡古墳出土の蓋形埴輪立ち飾り片は本例と同様の文様構成と透かし孔を有し、笠部片も同様の特徴を観察できる。

#### (4) 船形埴輪

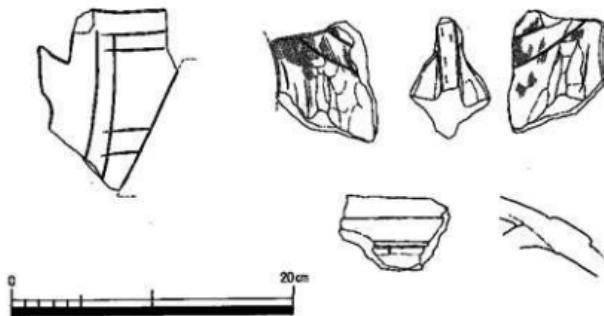
5区古墳群周辺で出土している。船体の半ばを残す破片であるが構造船ではなく一木刳抜構造が想定できる。

#### (5) 半裁器台形埴輪

特異な形状の埴輪。上下両端が外反して強く開く鼓形を縦横に四分割した形態である。

側縁には切断面に接して各々2孔ずつ縱に小円孔が並ぶ。厳密には上下の判定すら困難であるが内面の大きく開いた部分の調整が最も丁寧なので、こちら側を上向きとした。計4ヶ所の小円孔は一般的な装飾としての透かし孔にしては不自然な位置に偏っている。2個体をラッパ状に向かい合わせ、小孔に紐を通して縛り固定するものと考える。

メリ山古墳<sup>(45)</sup>の高杯形埴輪のようにいくつかの部材を組み合わせて構成するタイプの器財形埴輪と想定する。おそらくは2個の半裁器台形の間に別材を組み合わせるものと予



第191図 今岡古墳の蓋形埴輪（1/4）

想するが、その部材の特定と全体形状は現時点では不明とせざるを得ない。なお今岡古墳をはじめ本地方の当該時期前後の古墳では類似した形態は知られていない。

以上中間西井坪遺跡出土器財形埴輪の主要部分について整理した。資料の残存状況は必ずしも良好ではなく断片的な材料に過ぎないが、当該時期の器財形埴輪の主要器種が確認

でき、本遺跡においてかなり体系的な器財形埴輪のセットが製作されたことが復元できる。

わずかに蓋形埴輪での比較であるが、今岡古墳出土のそれと同一の特徴を有することを確認した点は重要である。既に円筒埴輪の形態や素地粘土から同古墳への供給を想定したが、それを補強する材料となる。

盾形埴輪では高橋氏の1類に相当する特徴を有することを確認した。同氏によれば古墳時代前期段階の古い様相であり、中期初頭の岡山県金蔵山古墳<sup>(46)</sup>ではこの1類と新しい革盾模倣の2類が共存するという。一方、蓋形埴輪は松木氏の津堂城山型新相の特徴を有する。同氏によれば中期中葉以降の様相とされる。盾形埴輪と蓋形埴輪の年代観にやや齟齬を来しているわけであるが、共伴する円筒埴輪・古式土師器から見てこれらを中期中葉に下らせることは難しい。地域的な個性の可能性を含め今後の課題である。

## 第4節 土製棺

### (1) はじめに

円筒形を呈し、一見円筒埴輪の突帯に似た粘土帯を外表に装飾的に貼付する土製の棺は、「円筒棺」ないしは「専用棺」等と称され、普遍的とは言い難いが、古墳時代中期を中心とした時期に各地で用いられたことが知られている。そしてその形状や、埴輪転用棺を随伴する事例がまま認められることから埴輪転用棺との関係が強く意識されてきた。

円筒棺・転用棺を総括的に検討した橋本博文氏は、円筒埴輪に先行する特殊器台段階から、円筒棺の出現に先んじて転用棺が存在することを重視して、円筒棺は転用棺から創造的に発展した棺との理解を示した<sup>(47)</sup>。

一方、香川県今岡古墳では、古くから一見古墳時代後期の「陶棺」に類似した形状の特異な形状をもつ土製の棺が知られていた<sup>(48)</sup>。形状・構造の特異さや類例の乏しさ故に、外見上の類似からある種の石棺との関係が示唆されることはあっても<sup>(49)</sup>、円筒棺との関係を含めたその位置づけについて本格的に議論されることは少なかった。しかし近年になって、福岡県鎧崎古墳2号棺<sup>(50)</sup>、奈良県灯籠山古墳前方部出土棺<sup>(51)</sup>と云った、形状・構造は異なるものの円筒形を呈さない事では共通する土製の棺の存在が次第に明らかになりつつある。

こうした状況の中で中間西井坪遺跡においては、円筒埴輪・器財形埴輪・古式土師器と共に今岡古墳資料に類似した形態・構造の棺を含む各種の土製の棺が製作されていたことが判明した。ここでは必ずしも十分な資料とはいえないものの、円筒形の棺も伴っている。

ここでは今岡古墳例などの特異な形態を呈する土製の棺と円筒棺が同一集団によって製作され同一地域において同一時期に使用されたことが確実となった。したがってこれらを密接に関係する多様な形態の棺として統一的に検討する下地が生じたと考える。同時に円筒棺の出現を埴輪転用棺との関係だから検討することへの疑問も生じさせる。

むしろ、今岡古墳例や灯籠山古墳例について示唆されたようにある種の石棺との類似もしくは、それらと共に通する粗形態棺を考慮した方がよいと思われる。

## (2) 用語と分類

中間西井坪遺跡では埴輪類・土師器類と共に製作された多様な土製の棺は、素地粘土の選択、製作技法、焼成法など製作の諸工程を通して埴輪類・土師器類の製作技術と密接に関係する。從来土製の棺は、古墳時代後期の定型化した1群いわゆる陶棺<sup>12)</sup>を除いて、古墳時代前・中期の大部分を占める円筒形の棺は、一見円筒埴輪に酷似することから円筒棺、埴輪円筒形棺、あるいはそれとの区別を強調して専用棺などと呼称されてきた<sup>13)</sup>。

しかし中間西井坪遺跡のそれらは単に円筒埴輪利用の棺との識別を強調するだけではすまされない内容を持つ。また、ある段階以降において、円筒埴輪に酷似した形態に至ったり、その使用にあたって埴輪転用の棺との明確な格差が現れにくくなる事は間違いないが、必ずしもそうした特徴は円筒棺全てに当てはまるわけではないと考える。それらはむしろ二次的な変質の結果であり、その点で円筒埴輪転用棺との関係だけを強調すべきではないと考える。

また円筒形以外の形態を持つこの種の棺に「埴輪質」あるいは「埴質」の語を冠する例がある。しかしこの語が後期段階の「陶棺」との識別を強調したものであっても「埴輪質」、「埴質」の語は特定の焼成法ないしは材質を強く印象づけるし、「陶棺」との関係についても十分な検討はまだなされてない。

このような観点から本報告書では、この種の棺を一括して、木棺・石棺に対置する意味で土製棺と呼称する。

さてここで扱う土製棺はその構造・形態から次のように区分できる。

箱形土製棺 中間西井坪遺跡・今岡古墳・鋤崎古墳など

土製棺 割竹形土製棺 中間西井坪遺跡・灯籠山古墳

円筒形土製棺 本堯寺北1号墳・馬山4号墳他

### (3) 中間西井坪遺跡の土製棺

第3章およびこれまでの各節で示してきたように、中間西井坪遺跡出土土製棺類は、全て同所で製作されたと考えられる資料である。そして現段階では土製棺そのものから年代を決することは困難であるものの、同時に製作された円筒埴輪・古式土師器類によってその編年的位置を推定することが可能である。すなわち古式土師器の編年観にしたがえば、一部は布留3式に通る可能性を捨てきれないものの、大勢としては布留4式古相に位置付けられる。また円筒埴輪の諸特徴から、本地方の前期古墳で示せば石清尾山石船塚古墳より後出し、ほぼ岩崎山4号墳から今岡古墳の段階に位置づけられる。和田編年に直せば、古墳時代前期末葉から中期初頭、4期後半から5期に位置づけることができる。

したがって中間西井坪遺跡土製棺は、最古段階とはいえないまでも、その比較的初期の資料であることは間違いない。また第1節円筒埴輪の項で示した本遺跡と今岡古墳の関係にしたがえば、今岡古墳出土の著名な箱形土製棺は本遺跡ないしは、本遺跡で埴輪等を作成した集団と同系統の近在の製作集団に手による可能性が極めて高い。

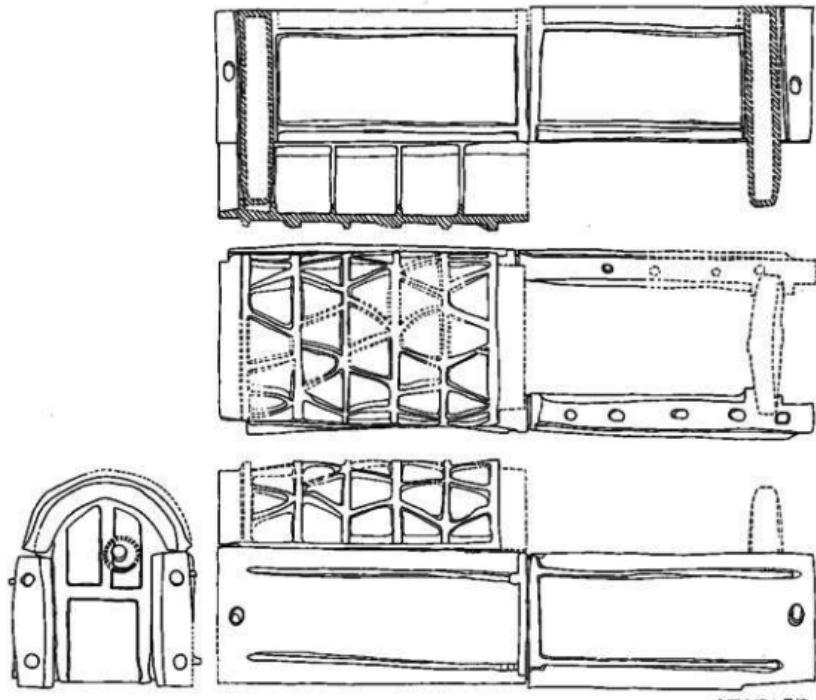
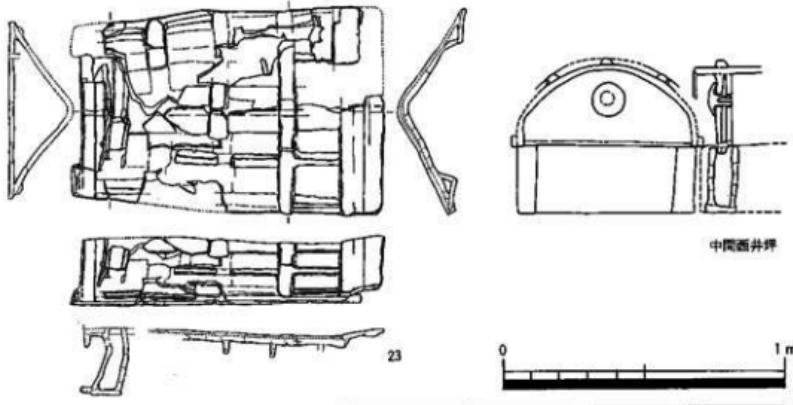
なお、焼成土坑出土の箱形土製棺蓋材1例を除き、多くは断片的な資料に過ぎない。また比較的良好な資料の多い大形竪穴建物では複数のしかも多様な構造の土製棺が混在しており、それらの形態・構造の復元は困難を極めた。したがって以下で示す本遺跡出土土製棺の様相はたぶんに推測を交えたものであることをあらかじめ断っておく。

#### a. 箱形土製棺

焼成土坑から蓋材、大形竪穴建物からはこれとは異なる形状の蓋材片及び棺身材がそれぞれ出土している。この他谷3等から蓋材と思われる小片が出土しているが到底構造を把握できる内容ではない。

焼成土坑資料は第3章で詳述したように2枚1組で構成される蓋材の1枚である。外見上は屋根形を呈し、小口面は箱形二重構造の板によって閉塞している。また側縁部は、下端の棺身に接する部分に幅広い平坦面を作り出すべく断面三角形の空芯構造をしつらえる。外表には幅広い粘土帯を縦横に貼って、岩崎山4号墳の剥抜石棺蓋材を思わせる格子状の区画を作り出す。また内面には横断方向4条の肋骨状の補強材を渡す。

本来これに伴う棺身材は出土していないのでその構造は明らかではないが、蓋材の小口閉塞部が側縁端部より5cm以上内側に設けられていることから、棺身小口が側板に挟まれる形態であることが予想できる。また蓋材下端の平坦面が側縁・小口ともに10cm強と幅広く作られることから今岡古墳前方部出土資料と同様に空芯箱形構造と見られる。またそ

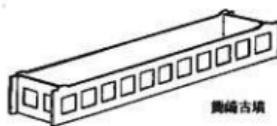


第192図 箱形土製棺1 (1/20)

であれば小口板と側板は別作りの可能性が高いであろう。

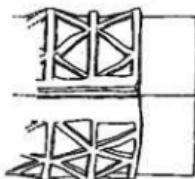
大形竪穴建物資料は断面蒲鉾形を予想させる天井部と小口板部材しか残されていないが、棺身小口部と見られる小形の空芯箱形材に接して出土したことから、箱形土製棺と推定した。焼成土坑資

料同様に小口部は箱形二重壁で閉塞されている。断面形は蒲鉾形だが、側縁部を欠くため

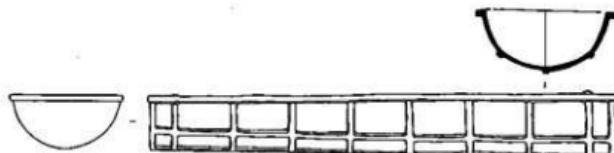
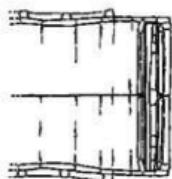


黒磯古墳

第193図 箱形土製棺2



中間西井坪



塙山古墳

第194図 割竹形土製棺 (1/20)

その部分の形態は不明。蓋外表には突出度の高い大形突帯を縦横に配す。また内外の小口閉塞板中央に円孔を穿ち、葺状の土製品（土栓？）を挿入している。

棺身材は多数出土している。いずれも空芯箱構造となる。側板材には2種類がある。1は一方の小口面に舌状の突出部を有する。2は一方の小口面を開口する。今岡古墳例を参考にするとこれら2種が組み合わさって側板1面を構成するらしい。前者突出部を後者開口部に差し込んで2枚の材を連結するものと予想できる。また両者とも内部に水平方向に隔壁状の補強材を充填している。更に側板材の上下両面と内部の補強材には1孔ずつ円孔を穿ち密閉構造となることを避けている。こうした配慮は今岡古墳資料においてもより充実した形で認められる。焼成時の破損を避ける措置であろう。

#### b. 割竹形土製棺

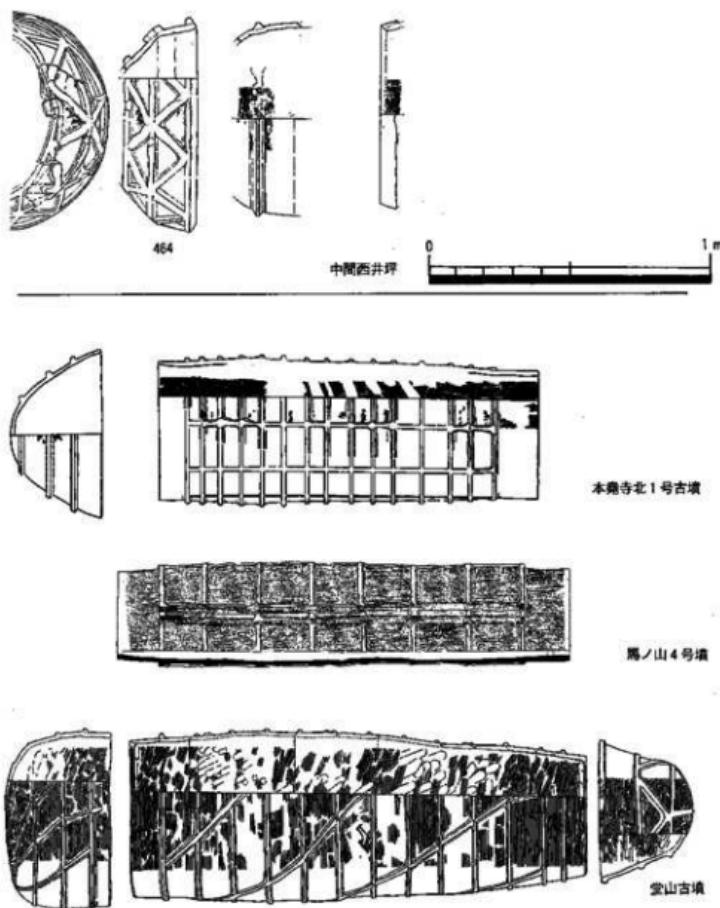
大形竪穴建物では断面半円形の棺身材が出土している。一見今岡古墳の箱形土製棺蓋材に似るが、共伴した円形板との組み合わせを想定して割竹形土製棺と推定した。棺体は断面半円形を呈する。棺身・棺蓋の2材からなるものか、箱形土製棺のようにそれぞれが2つの材を連結する構造となるのかは不明。小口は開口するが端部を分厚く作り、内面に貼った2条の突帯間に別作りの小口板を装着する構造となる。側縁外面は粘土板を足して肥厚し、小口端部を除く外表に今岡古墳土製棺蓋材にも見られる横帯+連続山形帯の意匠を太い粘土帯で表現する。

側縁の肥厚帯の形状には2種がある。断面逆「r」状のやや複雑な構成を持つものと、単純に粘土帯を貼り足すものである。両者が棺身と棺蓋の差を表現するものだとすれば把手状の前者を付す側が棺蓋であろう。

別作りの小口板と推定される材は円形板の一方の面に扁平な粘土帯を貼付して二重円とそれを連結する放射線を表現する。文様構成としてはしばしば円筒形土製棺小口蓋に見られる意匠に類似する。

#### c. 円筒形土製棺

円筒形土製棺と想定したものは半球形の小口蓋を除けばいずれも小片に過ぎず規模は想定しにくい。それぞれの破片から大形の筒状品が予想され、上記した割竹形土製棺と異なり直線的な側縁部片を伴わないことからこのように復元した。円筒埴輪との相違は著しく大形の突帯、透かし孔の欠如および端部の形状である。小口端部は幅広い粘土帯を薄く貼り、端面は斜めに落とす。割竹形土製棺に見られるような内面突帯はない。外表には前期したように大形突帯により単純な横帯表現を見るだけである。



第195図 円筒形土製棺 (1/20)

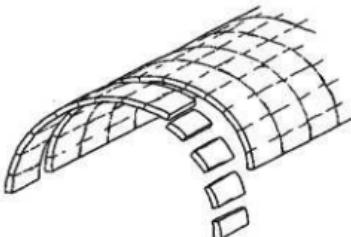
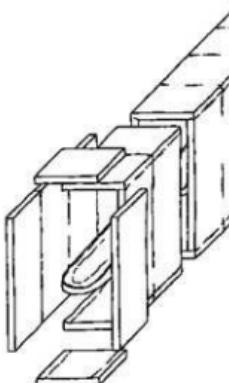
小口蓋と想定した部材は半球形を呈し外表には割竹形土製棺棺体と同様に粘土帯を貼付して横帯+連続山形帯を表現する。構造的には割竹形土製棺小口蓋としても成り立つが、割竹形棺では別形態の小口材が確認されていることから円筒形土製棺に伴う小口蓋と想定した。

#### d. 中間西井坪遺跡出土土製棺の特色

ここで円筒埴輪・器財形埴輪・土師器類と同時に製作された土製棺類の最大の特色は装飾や細部形状にとどまらない基本形態の多様さにある。すでに示してきたように箱形・割竹形・円筒形の土製棺を含んでおり、箱形土製棺ではその形態自体が単一の様相ではない。このことは土製棺の多様な形態差・時期差に必ずしも解消されるものではなく、同一時期に同一集団によって、その多様性が実現されていることからすれば、むしろ一定の意図の下に異なる形態を作り分けた可能性を考慮する必要がある。

また円筒埴輪などと同時に製作されていながら、製作手法はそれと同一ではない。この点も土製棺の特徴の一つであろう。成形に際しては縦10cm横5cm程度の粘土板を連結して基本形態を形作る。196図に示したように箱形土製棺身材・割竹形土製棺で明瞭に観察できる。また粘土板相互の連結についても特徴がある。円筒埴輪や通常の土器一般では成形時、それぞれの粘土帶の端面を斜めに引き延ばすなどして接合面を拡張し、粘土帶相互の安定した接着を図る。しかし土製棺ではこのような細工を施すことなく、粘土板の狭い端面をそのまま連結する。(197図)これらほど明瞭ではないものの円筒形土製棺も同様の特徴が観察できる。中間西井坪遺跡の資料に限ってみると、こうした特徴は家形埴輪(等)の成形と共通するものである。

更に外表に貼付する粘土帶は、先に少し触れたように古墳時代中期後半段階の新しい円筒形土製棺ではしばしば円筒埴輪の突帯と区別しがたい形態を呈するが、この段階では明らかに円筒埴輪の突帯とは異なる。割竹形土製棺では連続山形文部分に限らず、横帶部分も長15cm内外の太い棒状粘土を継ぎ足しつつ貼付し、同時に製作される円筒埴輪の突帯部分のように整ったナデ調整を加えない。円筒形土製棺についてもその突

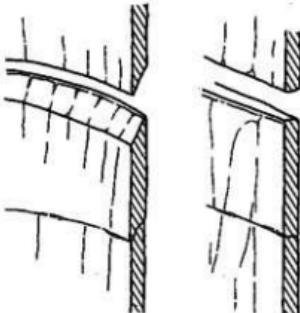


第196図 中間西井坪遺跡出土土製棺の成形手法

帶形状は円筒埴輪のそれと大きく異なる。

また箱形土製棺蓋材（23）では扁平な粘土板を貼付して外表の格子文様を表現する。

このような製作上、及び形態上の特徴はむしろ器財形埴輪の一部に共通する内容であることに注意したい。共伴する円筒埴輪から本遺跡の土製棺は和田編年4期後半～5期に位置付けることができるが、このように土製棺の比較的初期の資料であるにも関わらず、円筒形土製棺についても古墳時代中期後半段階の新しい土製棺の方が遙かに円筒埴輪に近い形状を示している。この点からも、円筒形の棺に限っても円筒埴輪から発展形態と見なすことの困難さを示唆している。



第197図 中間西井坪遺跡出土土製棺の接合手法(右)と一般的な接合手法(左)

#### (4) 讀岐地方の土製棺

本地方では現在までのところ中間西井坪遺跡以外に3古墳、計6個体の土製棺が知られている<sup>(53)</sup>。興味深いことに、そのいずれもが中間西井坪遺跡と同じ、高松平野西縁の本津川流域に集中している。

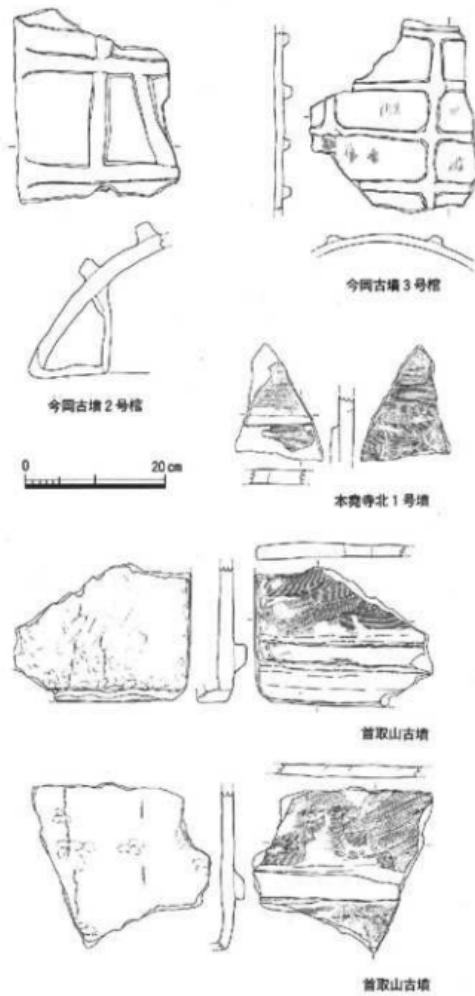
##### 今岡古墳<sup>(54)</sup>

今岡古墳は高松平野西縁の本津川流域に所在する前方後円墳（60.5m）で、埴輪類から和田編年5期に位置づけることができる。当該時期における高松平野地域の最大規模墳である。中心主体の様相は不明だが、1964年に前方部頂から、主軸に並行して収められた箱形土製棺が発掘されている。同古墳は以前から多数の埴輪が樹立されていることが知られ、古くは1920年代より度々小規模な発掘や埴輪の採集が行われてきた。その資料の多くは残念ながら散逸しているが、現在、瀬戸内海歴史民俗資料館に所蔵されているこうした採集資料の中に、少なくとも2種類の前方部出土土製棺とは別個体の土製棺が確認できる。ただし残念ながらそれらの出土地点は明らかにされていない。

前方部頂出土の土製棺（以下今岡古墳1号土製棺とする。）は箱形構造の土製棺で長2.1m幅0.65m高0.77mを測る。蓋材は断面蒲鉾形を呈する。棺身は各々2枚1組の側板から

なり、これで小口板を挟み込む。蓋材も同様に2枚1組からなり小口は開口している。このため棺身材小口板上部は蓋材断面の形状に合わせて半円形に突出する。本例の重要な特徴の一つは棺身材計6部材はいずれも空芯箱形構造をもつ。この点で小口板の形状や円形孔の位置・穿孔数と寸法等に差はあるものの中間西井坪遺跡出土箱形土製棺棺身材と酷似した構造を有する。蓋材は上記したように断面蒲鉾形を呈し、小口部は開口して側縁端部も粘土帯を貼付して肥厚するだけの単純な形態となる。この点で小口部を二重壁で閉塞し、下端に幅広い平坦面を作り出すために複雑な構造をとる中間西井坪遺跡焼成土坑資料(23)や、小口部の二重壁構造を見る同大形竪穴建物資料(457)とはかなり異なるが、内面横断方向に肋骨状補強材を渡す点は同様である。蓋外表面には横帯+連続山形帯の意匠を大形突帯で表す。

1号土製棺は前方部頂に直



第198図 謝岐地方の土製棺(1/8)

葬されていたらしく郴は知られていない。内部から硬玉（？）勾玉 碧玉管玉24一仙五獸鏡を伴って熟年の女性人骨が出土している。

2号土製棺は蓋材片が知られているだけである。やはり断面蒲鉾形を呈するが、側縁部には焼成土坑資料同様の断面三角形の空芯構造を設け下端に幅広い平坦面を作りだしている。外表には大形突帯を縦横に配置する。

3号土製棺はやや薄手の棺体外表に格子状に突帯を貼付する。カーブから筒状の棺体が想定できる。貼付された突帯は中間西井坪遺跡の諸例や1・2号土製棺に比べかなり小振りである。その配置と共にむしろ本堯寺北1号墳出土土製棺に近似するものである。

#### 本堀寺北1号墳<sup>(53)</sup>

本津川古川流域の堂山南東麓に位置する小規模な円墳である。墳丘中央に設けられた低平な竪穴石郴に円筒形土製棺を収める。副葬品は伴わないとされる。円筒形土製棺は、長134cm、径45～48cmを測る。外表にはやや細身の突帯で横帯13条、縦帯7～8条を格子状に配する。外面には部分的にタテハケ調整が残る。内面は上端部付近にヨコハケ調整を見る他はタテハケ調整により仕上げる。

またこの円筒形の棺体には半球形の小口蓋が伴う。横帯2条を巡らせると推定される。棺体・小口蓋ともに黒斑を有し、赤色粗粒を多く含む、今岡古墳資料によく似た胎土をもつ。

この他、本古墳あるいは本古墳の所在する本堀寺北古墳群のいずれからか出土したと推定される箱形土製棺棺身材片が、金刀比羅宮学芸参考館所蔵の寺田貞次氏収集資料の中に含まれる。空芯箱形構造の棺身材の外面片と見られ外表には幅広い粘土帯を貼付する。内外にはハケ調整を見る。やはり赤色粗粒を多く含む胎土である。

#### 首取山古墳<sup>(54)</sup>

地元で首取山と通称される今岡古墳上方の尾根に所在したとされる古墳である。墳形・規模などは不詳。この古墳から出土したとされる箱形土製棺棺身材片が寺田貞次氏収集資料に含まれる。空芯箱形構造の棺身材片で、外表に幅広い粘土帯を付す。外表はハケ調整、内面は指ナデ調整となる。中間西井坪遺跡・今岡古墳の同種の土製棺材に比べ全体にやや薄い。高20cmほどの外面部材片だが、内面に補強材の痕跡は見られない。胎土はやはり赤色粗粒を多く含むものである。また観察し得た限りでは成形手法は中間西井坪遺跡資料と同じである。

箱形土製棺諸例はその特異な構造を共有するので、今のところは、想定される中間西井坪遺跡の上限の4期後半以降、今岡古墳の示す5期を中心とした時期の所産と考えてよいであろう。また本庵寺北1号墳の円筒形土製棺は黒斑を有し外面にはタテハケ基調の調整で、明瞭なヨコハケ調整は認めない。更に今岡古墳3号土製棺との類似も考慮すると和田編年5期ないしはその直後までに収めるべきであろう。しかし中間西井坪遺跡の円筒形土製棺片はいずれも箱形・割竹形土製棺と同等かこれに準ずる大形の粘土帯を貼付して外表文様を表現する。

また土師の里8号墳<sup>(57)</sup>や堂山古墳<sup>(58)</sup>例に見るよう一般的傾向として中期中葉以降の円筒形土製棺では次第に円筒埴輪のそれと区別しがたい形状の突帯に変化することを考慮すると、本庵寺北1号墳・今岡古墳3号土製棺は、先に示した理由から著しく時期が下ることは困難であるが、本津川流域の1群の中では相対的に新しい位置に置くべきであろう。

そうであっても、中間西井坪遺跡の諸例を含め高松平野西縁に集中する土製棺の諸例は、かなり限定された時期の所産であって、かつ土製棺全体の中では比較的初期の資料と位置づけることができるであろう。

さて、以前から土製棺が普遍的な存在ではなく、特定地域に偏在する傾向が注意されてきた。また埴輪製作集団との密接な関係も推定されてきた<sup>(59)</sup>。確かに古市古墳群中の土師の里遺跡の様相はこの関係を強く示唆するものである<sup>(60)</sup>。また鳥取県馬山4号墳・静岡県堂山古墳など、地方において円筒埴輪導入ないしは埴輪様式・生産体制刷新の契機となった古墳に土製棺が使用される事例も、こうした理解に関連して評価されている<sup>(61)</sup>。

讃岐地方における土製棺のあり方は上記したような本津川流域への集中という点で、他地域のあり方と共通する。また中間遺跡で端的に示されたように、新たな様式の埴輪類の導入時に本地方にもたらされた可能性が高く、かつ埴輪製作集団によって製作されている。

しかし大形前方後円墳の墳丘内從属埋葬被葬者もしくは小古墳の中心主体被葬者という限られた範囲の階層に許容された棺<sup>(62)</sup>として、限られた範囲とはいえ、本津川流域に広がることは、この種の棺を少なくともこの段階の讃岐地方では埴輪製作集団の独自の棺制として、それとの関係だけを強調することには躊躇がある。

むしろ特定の階層一敢えて云えば本津川流域を総括する首長層ではなく、その下位にあって、第2章で示したような個別小地域を統括する小首長層かーを表示する棺制としての位置づけが一義的であったように見える。また比較的短期間で消滅した可能性が高いこと、この地域においては讃岐地方諸地域に広く普遍化し得なかつた点が興味深い。

## 第5節 壺形埴輪

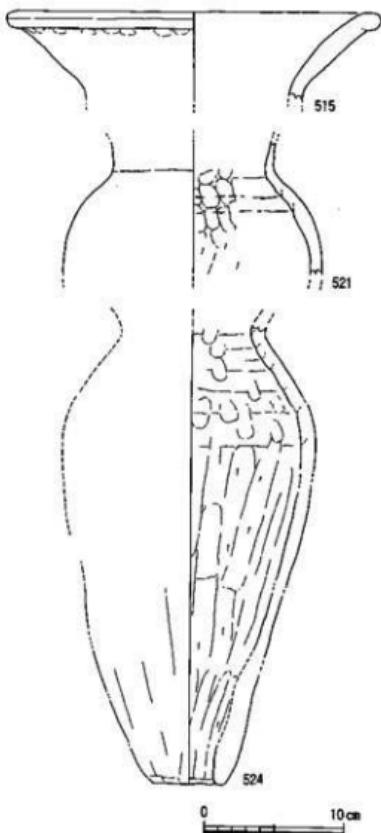
### (1) 中間西井坪2号墳の壺形埴輪

径13mの小形円墳 中間西井坪2号墳の墳丘はほぼ完全に削平され、水路・道路などによる破壊を免れた周溝の3/5程がかろうじて残存するに過ぎない。この部分から少なくとも10個体前後の特異な壺形埴輪が出土している。その出土位置・状態から推定してかつては墳丘上に少なくとも20個体前後の壺形埴輪が樹立されたものと考えられる。

2号墳周溝では1号墳樹立円筒埴輪や大形竪穴建物出土資料と同巧の各種埴輪片が二次的に流入している他、3号墳出土埴輪に酷似した円筒埴輪片少量が認められる。前2者は明らかな混入資料であるが、後者は第3章で述べたように微妙である。この理解は壺形埴輪の位置づけに関連するので後にやや詳しく見たい。

#### 壺形埴輪の形態

口縁部は全て単純な広口形態で直立気味の頸部から外反して開く。口縁端部は鈍く肥厚するか薄く尖る。わずかにこの部分を屈曲させてアクセントを持つ。わずかに肩部が張るものの中部は円筒形に近い。体下半部は肉厚で、底面は成形後に先行するのではなく当初から開口している。多少の焼きひずみを考慮しても極めて粗雑な作りである。口縁部は粗雑なハケ調整の後にヨコナデ。体部外面は概ねナデ調整で仕上げる。それに先行する板状工具の連続的な押圧痕跡を認める場合があるが、一般的な叩き技法に認められる押圧原体



第199図 中間西井坪2号墳の壺形埴輪（1/4）

の刻み目は観察できない。内面下半は粗い縦ケズリを施し、肩部には指押さえが集中する。下端開口部周辺も同様である。また肩部の丸みを作り出すためかこの部分は細い粘土帯を細かく積み上げて成形しており、その接合痕を内面に顯著に残す場合が多い。

体部がほぼ筒状化し、底部を最初から未充填とするなど本来の壺形態から大きくかけ離れているが、その調整手法は円筒埴輪のそれとの格差が大きい。むしろ単純な広口形態や内面調整、下半部のケズリ調整と肩部の顯著な指押さえは本地方弥生後期段階の代表的な広口壺の形態と調整技法を引くものといえる。特に後者はこうした形状の壺形埴輪の製作工程で必要と思われる技法であるにも関わらず残存することに注意する必要があろう。

#### 壺形埴輪の位置

第4章螢光X線分析報告に掲れば、2号墳壺形埴輪の胎土は円筒埴輪2a・b類、器財形埴輪、土製棺類と同様の傾向を持つとされる。また肉眼観察によても特に円筒埴輪2b類との類似は比定できない。したがって前期末葉から中期初頭に位置づけられるこれらの埴輪類と同質の素地粘土を採用している可能性が高い。しかしそれらと同時期に位置づけるには躊躇がある。第一に焼成土坑や大形堅穴建物など埴輪製作関連遺構や周辺の廃棄資料群中に形態の類似はおろか壺形埴輪自体が認められない。第二にそれら埴輪類の製作・調整技法からの乖離が甚だしい。また本遺跡の埴輪製作集団は同時に土師器各種の製作も行っているが、それらはほぼ完全な布留様式系統の器種であって、このような在地的伝統的な形態・手法はほとんど取り入れていない。したがってそれらと同時期の所産とは見なしがたいのである。

また先に見たようにやや微妙な出土状況で2号墳周溝では3号墳出土資料と同巧の円筒埴輪若干が出土している。この円筒埴輪は円形透かし孔を有し、小形でやや扁平な台形突帯ないしは極度に矮小化した三角形突帯を付す。外面調整はやや粗いタテハケを基調とするが部分的に連続的なヨコハケ調整を見る。内面は口縁部付近にヨコハケ調整を施す以外は縦方向の指ナデでやや粗雑に仕上げる。焼成土坑資料等や1号墳出土埴輪より後出する事は明らかである。川西宏幸氏の編年案によれば4期に位置づけられる円筒埴輪である。この共伴が確実であれば、2号墳壺形埴輪の編年的位置が定まるが、その関係は度々述べたように断定するには躊躇がある。そこで讃岐地方の壺形埴輪の消長を一通り整理する中で改めてこの資料の位置づけを検討することにしたい。

## (2) 讀岐地方における壺形埴輪の分類と編年

底部を焼成前に穿孔して儀器化した中形の壺形土器が讀岐地方の弥生終末期～古墳前期の墳墓でしばしば用いられている。中期以降も一部では残存するらしい。鶴尾神社4号墓<sup>(4)</sup>は代表的な1例である。主体部竪穴石槨の周囲には焼成前に穿孔した細頸壺等の小形供膳形態を用い、墳裾に少なくとも20～30個体のやはり焼成前に穿孔した同一形式の広口壺を並べている。姫塚古墳や石船塚古墳等でも型式は異なるもののやはり広口壺を墳丘に並置していたと推定できる。鶴尾神社4号墓例で見れば、墳丘上で用いられる土器類は、底部に穿たれた焼成前の針穴状小孔を除けば、当該時期の通常の土器類と形態・調整技法の相違は見あたらない。これより時期の下る姫塚古墳・石船塚古墳の広口壺の形態についても同様である。したがって、本来の形状からより儀器化が進行した一般に認識される壺形埴輪とは一定の格差がある。

また他地方の多くでは、ごく初期においては吉備系の特殊壺を祖形とする系列も存在するものの、大勢としては畿内系統の大形二重口縁壺の1種類から発展した形態が継続する。しかし本地方では在地的な広口壺が儀器化して行く点に特徴がある。これらは日常的な広口壺と同巧の形態とはいえ、当初から儀器として製作され、墳丘に並置される事から埴輪と同列に扱って構わないと考える。

また猫塚古墳<sup>(4)</sup>・六ツ目古墳<sup>(5)</sup>等では、同様の日常的な形態と大差ないものの底部に小孔を穿った広口壺が主体部に納められている。使用方法は異なるものの墳丘に並置する「壺形埴輪」と型式的には区別することはできない。ここでは暫定的に古墳で用いられる儀器化した壺形土器全体を、壺形埴輪として取り扱うことにする。祖形壺の系統、儀器化の手法（穿孔形態）と共に、同一型式の儀器を主体部に副葬し墳丘にも並置する作法は讀岐地方の独自的な埋葬儀礼の一部と考える。

さてこのような特色を有する讀岐地方の壺形埴輪は、2つのグループに分けることができる。一つは当該時期に日常的に用いられる中型壺の形態と製作技法をそのまま引き継いだもので、底部に焼成前に穿たれた小孔の有無以外に一般的な壺形土器との区別は困難である。またこのグループでは底部に径10mm内外の棒状器具で突いた小孔を穿ち、他地方の壺形埴輪の多くが大きく底部を削り抜くように穿孔するのとはかなり異なっている。このグループを壺形埴輪I式としておこう。

I式の壺形埴輪では二つの形態が知られる。一つは球形の体部から緩やかに外反して開く口頸部を持ち口縁端部は小さく上下に摘み出す、丸井墓<sup>(6)</sup>を典型例とし、稻荷山古墳<sup>(7)</sup>、

姫塚古墳、六ツ目古墳、空港跡地遺跡 ST 0 5 等である。これらを a 類としておこう。他は体部形態は同様ながらやや内傾する頸部から強く折り返して口縁部は水平に大きく開き端部を小さくつまみ上げる。口縁部と頸部の境の屈曲部分は強い稜をなすと共に口縁部内面は強い横ナデによってトタン板状に凹面が連続する形態で鶴尾神社 4 号墓を典型例とし、猫塚古墳出土土器や石船塚古墳資料の一部もこの系統に属する。この系統を b 類とする。

後者は下川津 B 類様式の初期から組列の迫れる同様式の典型的な中形広口壺を祖形とする<sup>(48)</sup>。前者も弥生後期中葉以降、本地方に一般的な形態の広口壺であって下川津 VI 式並行期には B 類様式に取り込まれている可能性が高い<sup>(49)</sup>。

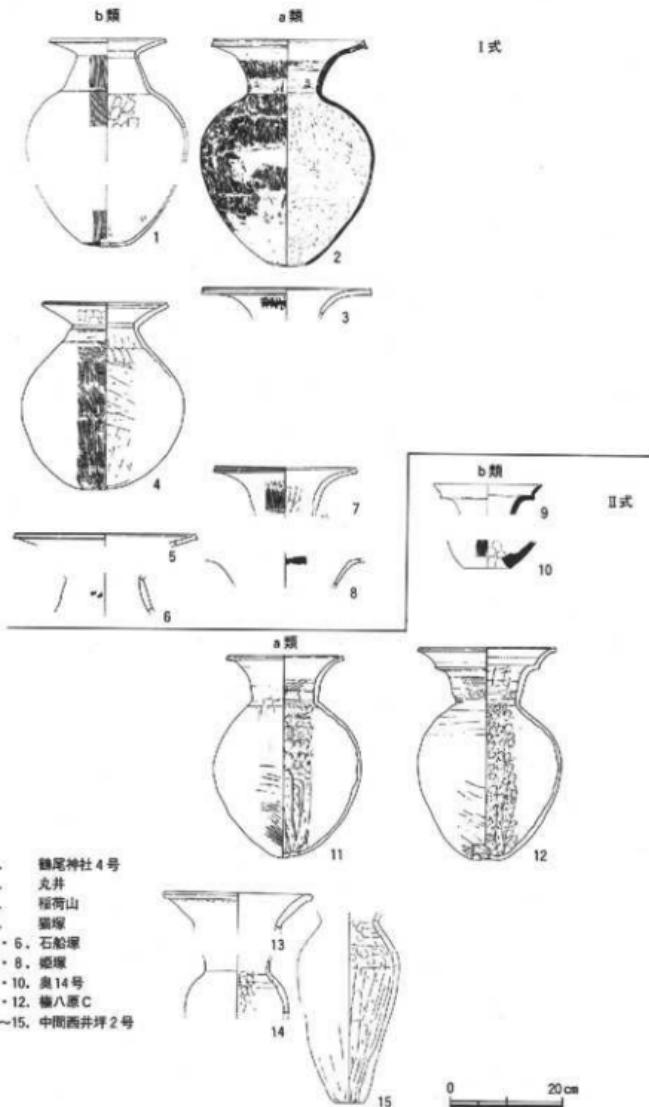
もう一つのグループはより一層、儀器化が進行してその分、本来の壺形土器の形態からかけ離れている。このグループでは在地的な広口形態に加えて退化した二重口縁形態も確認できる。(奥 14 号墳<sup>(50)</sup>) ただしその形態は必ずしも布留様式に伴う二重口縁壺を祖形と見なす必要はない。阿波東部を故地とするものの下川津 VI 式段階に本地方の土器様式に取り込まれる型式の二重口縁壺を祖形と見てよいであろう<sup>(51)</sup>。

権八原 C 古墳<sup>(52)</sup>は円形に巡る周溝の一部を確認したにすぎないが、周溝内に等間隔で壺形埴輪が並べられていた。口縁部形態は先の a 類の系統を引く広口形態と二重口縁形態とが知られる。体部はかなり長胴化すると共に厚手化して内外面の調整も粗雑化が著しいが、内面体部下半へら削り、肩部指押さえという伝統的な在地系壺形土器の調整手法は維持されているが、底部の穿孔はやや拡大している。これらを II 式とし、単純な広口形態を a 類、二重口縁形態を b 類としておこう。

以上の分類にしたがえば中間西井坪 2 号墳例は II 式 a 類に属することになる。また体部の形態、下面の状況は権八原 C 古墳より後出的な要素と見なしてよいだろう。

伝統的な在地様式の壺形土器の形態をそのまま引き継ぐことから、I 式の壺形埴輪は大枠として、在地的な土器様式の存続期間を越えて下ることはないと考えられる。

したがって I 式の下限は在地様式が払拭された中間西井坪焼成土坑関連資料の段階までは下らないものと考えられる。先に中間西井坪遺跡資料を和田編年 4 期の新しい段階から 5 期に位置付けたことに従えば、4 期の古い段階が下限となるであろう。共伴する円筒埴輪あるいは副葬品の組み合わせから縦年の位置を確認できる姫塚古墳・石船塚古墳・猫塚古墳等の例はこの想定を支持する。鶴尾神社 4 号墓より先行する、下川津 IV 式並行期の奥 10 号墓では主体部上面に小形供膳形態、墳丘裾部に大形壺に配しており、鶴尾神社 4 号墓と同様の使用状況が認められる。しかし奥 10 号墓<sup>(53)</sup>ではまだ供献された土器類は全て焼成後



第200図 譜岐地方の壺形埴輪 (1/10)

に穿孔されている。したがって弥生時代終末期、下川津V式並行期の鶴尾神社4号墓をI式の上限に位置づけることができる。

これに対して、II式の壺形埴輪は調整手法等は踏襲しつつも本来の壺形態との乖離が著しく、その点でI式より後出する型式と位置づけられる。

さて奥14号墳資料は大きく底部を削り抜く穿孔方法と全体的な形態の粗雑化から壺形埴輪II式に位置づけたものの、最も通常の壺形態をとどめII式でも古い段階に位置づけられる。同墳は2基の竪穴石槨から各1面ずつの中国製画文帶神獸鏡を伴うが、これらの竪穴石槨はいずれも墓坑底中央のU字形掘り込みに粘土を貼付して木棺床を形成する。都出比呂志氏の分類するSC型式に属する。また副葬品中の硬玉製勾玉3個のうち2個は片面穿孔。これらから3期以降に位置づけることができる。

権八原墳墓群は群中に弥生墓を含むものの群形成の中心時期は古墳時代中期中葉～後半段階にある。権八原C古墳そのものには壺形埴輪に共存する遺物は無く、直接的な時期比定が難しいが、こうした墳墓群の様相から古墳時代中期中葉～後半に比定しうる可能性が高い。また伝統的な形態・技法を踏襲しつつも形骸化が顕著な同古墳壺形埴輪の形態からも、I式壺形埴輪との間にこの程度の時間差を想定しても矛盾はないであろう。

少ない資料での検討ではあるが、II式壺形埴輪は前期後葉、和田編年3期を上限としてごく短期間I式壺形埴輪と併存しつつ、少なくとも中期後半までは存続すると見られる。中間西井坪2号墳壺形埴輪は型式的に権八原C古墳a類よりは後出するので中期後半以降の所産と位置づけられる。したがって最初に述べた円筒埴輪と共に存しても矛盾はしない。

### (3) 讃岐地方の壺形埴輪

さて、これまで見てきたように讃岐地方の壺形埴輪は、畿内地方において発達するそれとは明らかに別系統の在地的な存在である。奥10号墓と鶴尾神社4号墓の関係に示されるように本地方の弥生墓における土器供献儀礼から独自的に発生した様式と見なすことができる。そこでは在地的な土器様式の一角を占める伝統的形態の壺形土器を儀器化使用する。

これに比べ、円筒埴輪の導入は今のところ和田編年2期の高松茶臼山古墳を嚆矢とし、明らかに讃岐的な壺形埴輪の成立より遅れる。両者の関係を考慮する際に石清尾山の首長墓系列が興味深い材料を提供する。群形成の前半段階、和田2期の猫塚古墳までは壺形埴輪しか認められないが、後半期の諸墳のうち同3期の姫塚古墳、同4期前半の石船塚古墳では壺形埴輪に円筒埴輪が加わるのである。

この讃岐的な壺形埴輪は、伝統的な土器様式の消滅する前期末以後、形態的に形骸化が著しいⅡ式に移行すると見られるが、なお一定期間は存続する。中期以降も壺形埴輪を用いた伝統的な祭式を保持する権八原C古墳、中間西井坪2号墳と円筒埴輪を樹立する多くの古墳との関係の追求は今後の重要な課題である。またこの点で、かつて外来の、新しい埴輪・土器様式を製作した、あるいは製作集団を受け入れた本津川流域地域においても、中期後半段階にまだ壺形埴輪を使用する古墳が存在することに注意したい。当該時期に進行する集団関係の展開がかなり複雑な様相を呈したであろう事を暗示するようだ。

## 第6節 中間西井坪遺跡における埴輪・土器棺・土師器製作の特質

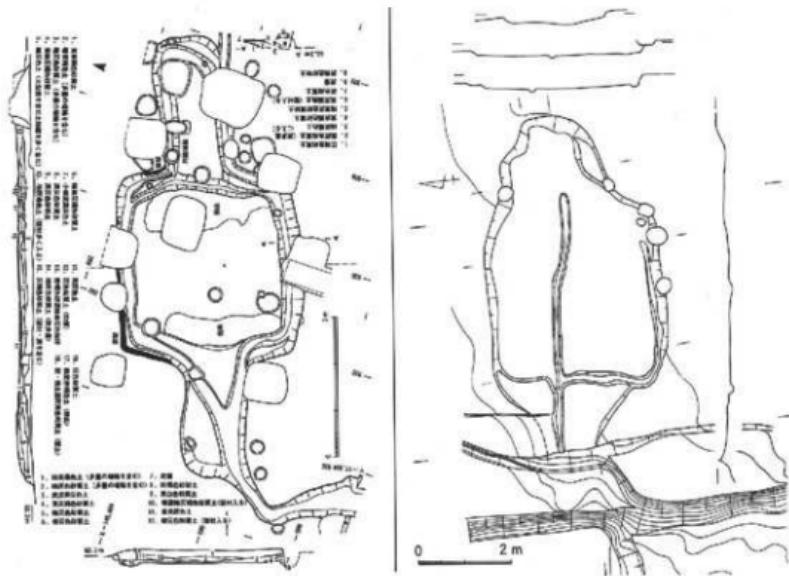
### (1) 焼成土坑

上半部を削平されると共に末端部分も失っており、必ずしも原状を完全にはとどめないが、開放構造の焼成施設と推定できる。削平によって施設の上縁をとどめないものの土坑内堆積物中に天井ないしは構造壁部材に想定しうる焼土塊などを全く見ないことから常設・仮設を問わず天井部・構造壁は有さないと考える。また同様の理由から大阪府貴志遺跡焼成土坑（弥生中期）などに見られる粘土を塗りつけた壁面補強も行われなかったものと想定する。少なくとも肉眼観察による限りは残存する壁体下半部や床面に明確な被熱痕跡を見出しづしかった点も開放構造との推定を補強するであろう。

本土坑のややいびつな形状は基本的には中央方形部の東西に舌状の張り出しを付したものと考えられる。方形部の壁面勾配はかなり急であるが、張り出し部では緩やかに立ち上がる。ただし床面は概ね水平であり、構造的にも燃焼部・焼成部を区別したものとは思えない。丘陵西縁で谷に向かう焼成土坑の立地から見て、東西方向、特に西→東の空気の流れの促進を目的としたものであろう。

因みに平城宮東院下層検出の埴輪焼成土坑<sup>(4)</sup>は中央方形部の両側に方形の張り出し部分を備えており基本形態は本例に類似する。佐紀丘陵から南に延びる一支丘の先端付近に位置し主軸を東西に向ける。

また本土坑床面には排水溝と見られる小溝が備わっている。土坑中軸の主溝と南壁際、つまり山側にも排水溝支線を設ける。おそらく斜面上方から浸出する水の排除を目的とした入念な配慮であろう。上記した平城宮東院跡下層例も壁際に小溝の配置を確認している。

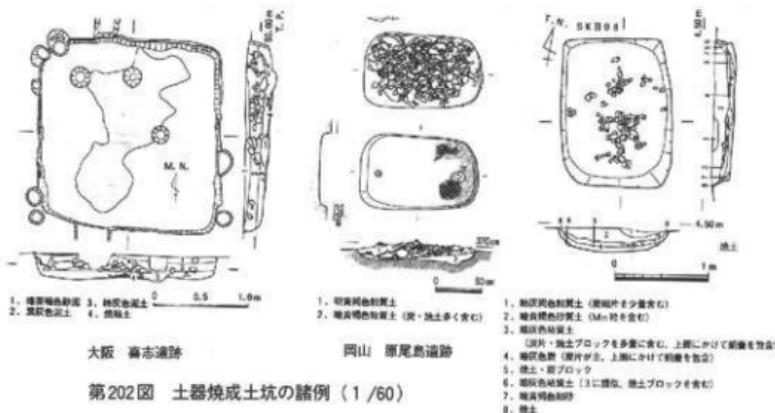


第201図 塙輪焼成土坑（左：平城宮東院跡下層。右：中間西井坪遺跡）（1/120）

壁体補強等は認めないものの、排水設備を備えることは本施設が単発的な焼成作業を目的としたものではなく、一定期間の継続利用を意図したものと推定できる。実際、第3章で述べたように、本土坑の遺物出土状態は少なくとも2回以上の使用を想定させる。

さて中間西井坪遺跡で検出した埴輪焼成土坑は以上示してきたように、從来知られていた、概ね古墳時代中期後半以降の埴輪窯とは異質の開放構造を持つ。それらでは密閉構造および燃焼部と焼成部の区別と焼成効率を考慮した両者の配置（床面の傾斜）を特徴とし、明らかに須恵器窯ないしはその祖形態の影響の下に成立している。

一方大阪府喜志遺跡<sup>75)</sup>（弥生中期）や岡山県百間川原尾島遺跡<sup>76)</sup>（弥生後期前葉）等で知られる弥生時代の土器焼成施設は方形土坑で壁面に補強粘土を貼り付けるものの天井部を持たない開放構造が復元されている。このような形態は当該時期の屋内炉や製塩炉など一般的な燃焼設備を単純に拡大しただけの簡便な構造といえる。また香川県下川津遺跡<sup>77)</sup>では7世紀から8世紀前半の幅で把握できる土器焼成土坑・飯蛸壺焼成土坑多数を検出している。前者は土器の周りに積み上げた燃料を被覆する程度の仮設的な天井部が想定されてるが、後者は壁体に補強粘土を貼り付けただけの単純な開放構造と見られる。した



第202図 土器焼成土坑の諸例 (1/60)

がって須恵器製作技術の移入以後も伝統的な焼成形態が残存したことを示す。

本焼成土坑はこの流れを汲むもので、排水溝や張り出し部の設置は土器一般とは比較にならない複雑で大形の土製棺・埴輪類の連続的焼成に迫られた結果の改良と理解したい。

また古墳時代前半に於ける埴輪を含む新たな埴輪組成を整備したと評価される大和北部地方<sup>(78)</sup>に、高松平野において初めて器財形埴輪を含む埴輪組成を生産した本遺跡の焼成土坑と同巧の施設が存在することは、中間西坪遺跡の工人集団の技術系譜を考える際に興味深い。

## (2) 工房と作業形態

本遺跡の埴輪等生産の重要な特徴の一つは、土師器各種・円筒埴輪・器財形埴輪各種・土製棺各種と、小形品から大形品までの多様な器種を同一地点で製作している点にある。同じ土製品とはいっても製作工程の異なる多様な器種群からなるにも関わらず、いずれも赤色粒（推定焼粘土塊）・石英粗粒を多く混入する同種の素地粘土を使用している。また谷3の遺物出土状況などから、少なくとも大形品と小形品程度の焼成作業ないしは焼成施設の区分を予想できる。焼成技術や効率を考えれば最低限必要な措置であろうが、それ以上の、器種単位で製作工程・焼成工程が厳密に区分された形跡はない。

したがってここでは、かろうじて土製品として一括しうる程度の多様な形態の製作が、単に同一地点で並列的に行われるにとどまらず素地粘土の準備や焼成作業においても明確に分離することなく進行している。このことは当該時期の埴輪・土製棺生産が、一般的な

土器製作とは区別できる独自の製作工程や製作技術を有するにも関わらず、それらからまだ十分に分離していない状態を示している。

そしておそらくは埴輪生産の土器生産一般からの分離が、製作技術の独自性だけでは不十分であり、別個の製作集団を組織して作業効率の上昇を図らざるを得ない程度の埴輪需要の増加を必要とするであろうことを予測させる現象であろう。

現時点ではまだ作業が進んでおらず、当該時期の丘陵C東側平地部の状況は不明である（この部分には少なくとも弥生後期～古墳時代初頭には集落が営まれている。）が、少なくとも丘陵Cでは工人集団の居住域が存在した痕跡は残されていない。ここでの埴輪等生産は集落の一隅において、それに包摂された形態ではなく、それから分離した作業場においてなされたことが判る。また具体的な機能の追求は果たせなかつたものの丘陵中央部で検出した堅穴建物は埴輪等製作の何らかの作業過程で使用された施設と見てよいであろう。大阪府新池遺跡の埴輪製作工房との類似はひとまず撇くとしても、 $60\text{ m}^3$ を越える広大な床面積とそれに見合う頑強な柱配置を備えるこの建物は、一般住居の一時的な転用ではなく当初から作業施設として企画・建設されたことを示唆する。先に見た埴輪焼成土坑における一定の改良と共に、当該時期における埴輪等生産の「特殊化」「専門化」を物語るものといえよう。

焼成土坑外周溝の可能性を想定したS X 0 1、谷3における廃棄土器・埴輪類の出土状態から、本来的には、確認した以外に複数の焼成施設が存在した可能性が高い。大形堅穴建物出土資料を含めて、丘陵東半部で焼成土坑など西半部出土資料とはやや様相の異なる埴輪類が見られることもこの想定を支持するものであろう。

## 第7節 中間西井坪遺跡における埴輪・土師器・土製棺生産の評価

円筒埴輪・器財形埴輪・土製棺の少なくとも一部（円筒埴輪2b類など）は今岡古墳に供給された可能性が強い。型式的に先行する円筒埴輪2a類とそれに共伴する器財形埴輪類は今のところ今岡古墳では確認していない。したがって現時点では本遺跡の埴輪生産は今岡古墳築造を契機とするとは必ずしも言い切れない。しかしこれより先行する石清尾山古墳群等の埴輪類とは組成から形態まで完全に異なる。

一方、今岡古墳に見られる埴輪諸形態のうち、朝顔形埴輪等一部の器種は本遺跡で確認できていないし、本遺跡では確認していない型の円筒形土製棺片が出土している。本遺跡

の限定された資料状況からの判断は難しいが、今岡古墳に供された膨大な埴輪類は本遺跡を含めた複数の生産単位で生産された可能性も考慮しておいた方がよいだろう。とはいえる。今岡古墳出土埴輪では胎土・形態に著しい差異を見出しがたいので、複数の生産単位が並立していたとしても相互に密接な技術的な交流を行ったことと思われる。

また中間西井坪遺跡の集団が同時に土師器全般の製作にあたっていることにも注意したい。その具体的な技術系譜はまだ明らかにしがたいが、外来的な技術伝統で装備された集団であり、在地的伝統的な技術体系とは隔絶した存在であった事は疑いない。より古相のSX01資料に少数の伝統的器種が含まれることからすれば、生産の初期には在来の技術集団の参画を見た可能性はあるが、おそらく極度に限定された存在であり早期に技術的主体性を喪失したことが予想される。

このことは高松平野地域に限定すれば、既に見たように先行する石清尾山古墳群などの円筒埴輪などとの技術的断絶にも窺えるし、新規に器財形埴輪諸形態や各種土製棺の製作を開始することにより鮮明に現れている。

さて、このような外来的な技術体系を保持する集団がこの地域において生産を開始した時期が重要である。既に度々述べてきたように古墳時代前期末、和田編年に依拠すれば4期後半に相当する時期である。畿内地方、大和北部の佐紀古墳群において器財形埴輪の整備が進行しつつある時期に、本遺跡において新しい埴輪その他の生産が開始される。朝顔形円筒埴輪、鰐付円筒埴輪の欠落など必ずしも大和北部で開始された新たな埴輪生産体系をそのままの形で導入しているわけではないが、器財形埴輪の組成と形態、製作技術の一部にその影響を想定できる。

この時期は、高松平野では石清尾山頂の首長墓系列の最後に位置する石船塚古墳の直後にあたる。本地方では弥生時代終末期に長大な前方部形態を有する鶴尾神社4号墓に相前後する時期から前期段階（おそらくは前期前半段階）には、かなりの階層的な幅を持て前方後円形墳墓の築造が許容される時期がある。和田編年2期以降、急激に平野最大規模墳が大型化する傾向がみられ、対照的に群小の前方後円墳は減少する方向にある。一度は前方後円形墳墓を営み得た一定範囲の首長層の階層的な再編成が進行する過程と見なしてよいであろう。この流れの中で石清尾山の首長墓系列では弥生時代終末期以来、一貫して高松平野で最大規模の首長墳を営み続け、唯一安定して一定規模の前方後円墳（墓）・双方中円墳を築造し続けている。讃岐地方における上記した政治過程（首長層の再編成）を主導した核を見なしたい。



- 1 池戸八幡（35 m 不詳）  
 2 高松茶臼山（75 m 2期）  
 3 長崎鼻（43 m 3～4期）  
 4 三谷石舟（75 m 4期）  
 5 猿山1号（27 m 1～2期）  
 6 船岡山（25 m・45 m 2基？弥生終末・3期）  
 7 稲荷山北堆（30 m～2期）  
 8 稲荷山姫塚（49 m 4期）  
 9 摂鉢谷9号（27 m 弥生終末～1期）  
 10 北大塚西（19 m～3期）  
 11 北大塚（40 m 2～3期）  
 12 鎧塚（70 m 2～3期）  
 13 石船塚（57 m 4期）  
 14 鶴尾神社4号（40 m 弥生終末）  
 15 姫塚（43 m 3期）  
 16 猫塚（96 m 2期）  
 17 ガメ塚（25 m 5期前後）  
 18 六ツ目（22 m 1～3期）  
 19 御庭天神社（30 m 8期）  
 20 今岡（61 m 5期）  
 21 横立山姫塚（34 m 4期）

第203図 高松平野の主要古墳（1/10万）

この傾向自体は中期前葉まで継続するが、石清尾山の諸系列は石船塚古墳の築造をもってその地位を失う。この後、高松平野の最大規模墳は三谷石舟<sup>(79)</sup>古墳、今岡古墳と続くがいずれも継続的にこのクラスの首長墳を築き得ていないし、このように圧倒的規模をもつて平野諸地域を代表する大形墳自体が上記2基をもって消滅する。石清尾山系列に限って見れば、その後裔たちは石船塚古墳の後、おそらく山塊西南麓の小規模前方後円墳 ガメ塚古墳<sup>(80)</sup>を経て山塊西側の平野部(飯田古墳群)に墓域を移すと見られる<sup>(81)</sup>が、もはやそこでは小規模な前方後円墳すら築き得ない。平野諸地域に割拠する地域的な政治勢力の一つに転落する。

まさに石清尾山系列の没落時に本遺跡の埴輪・土師器等の生産が始まり、後に新興の今岡古墳にそれを供給しているのである。したがって首長權繼承儀礼の新たな様式的整備の一部と評価できる各種器財形埴輪の使用、及びその前提としての新技术(集団)の導入は、こうした高松平野における重大な政治的変動に伴うものであり、新たな政治勢力を装飾する道具立ての一つとして機能した。そしてその技術系譜を考えれば、この時期の政治的交代劇に畿内勢力の関与ないしは承認を想定することが可能であろう。

また同時に製作された土製棺は一定ランクの首長層に限って供されており、身分表示の道具立てとしても機能している。前代から引き継ぐ首長層の階層的再編成の装置として新たに導入されたものと評価できるであろう。

以上当該時期の高松平野の政治動向に引きつけて中間西井坪遺跡の評価を試みた。しかしこのような政治的動向との直接的な連動は慎重に検討する必要がある。上記したことは一義的には高松平野における個別史である。たとえば本遺跡の埴輪生産開始にやや先行するか相前後する時期に、同じように器財形埴輪各種を伴う新たな埴輪組成を津田町岩崎山4号墳では採用している。ここでは縁付・朝顔形円筒埴輪を伴うなどより完全な形で大和北部の様相を導入している。岩崎山4号墳を含む津田湾岸古墳群<sup>(82)</sup>は、それ以前からそしてその後も一定期間畿東部における最有力系列としての地位を保ち続けているのである。ひとまずはケースごとの多様な受容の契機を分析する作業の蓄積が必要であろう。

## 第8節 中間西井坪(丘C地点)の変遷

後期旧石器時代以降、長期間に亘って遺跡西半部の丘陵地帯が積極的に利用された形跡はない。ようやく弥生時代中期～古墳時代前期初頭の遺物が散発的に谷3から出土してい

る。この段階はおそらく遺跡東部の集落が存続していると見られるので、それとの関係で理解すべきであろう。もちろん周辺丘陵部に小規模な居住単位が断続的に存在したことも否定できない。

丘陵Cの本格的利用は古墳時代前期後半に始まる。3期ないしは4期前半に丘陵東縁に小形の前方後円墳 1号墳が築造される。全長20m以下ながら円筒埴輪を樹立する。円筒埴輪から、この段階には香東川下流域を基盤とする石清尾山古墳群と密接な関係を有していたことが判る。しかしこの後継起的に古墳が築かれた形跡はない。

続いて、遅くとも4期後半には埴輪・土師器類の生産拠点が設けられる。既に考察したように土師器生産がやや先行して始まる可能性があり、それを認めるのであれば1号墳築造と土師器生産開始の前後関係はやや微妙である。土師器・埴輪生産は5期まで継続する。5期段階では今岡古墳に供給している可能性が高い。しかし4期後半～5期までの一定期間、この地点で恒常的に生産したかどうかは判らない。新たに埴輪類の需要が生じる度に既存の土器製作工人を召集・編成する可能性も捨てきれない。

今岡古墳追葬土製棺（円筒形）や本堀寺北1号墳の円筒形土製棺の存在から、今岡古墳築造後も本津川流域で埴輪工人集団が活動した形跡はある。しかし中間西井坪遺跡を舞台にした活動は知られない。

古墳時代中期後半、再び丘陵東縁に古墳の築造が始まる。1号墳に隣接して余り時期差をおかず2～3基の径10～15mの小規模墳が築かれる。しかしこの古墳群は横穴式石室墳へは発展しない。

奈良時代末ないしは平安時代初頭に丘陵部で活動が再開される。この時期の行為は具体的に判らないが、一定程度の地形の改変を伴う。おそらく丘陵部の開墾であろう。古墳群・埴輪製作関連遺構の破壊はこの時期に始まる。

古代末から中世にかけて丘陵部の耕地利用は継続すると見られる。また丘陵北部に遅くとも中世後半までには集落域が及ぶ。中世後半、14世紀前後には1辺20m前後の小規模な宅地1区画などが認められる。しかし集落域はそのまま発展せずに近世以降は再び全域が耕地化する可能性が高い。その一部を宅地に転用するのは比較的近年のようだ。

- (1) 短い頸部と大きく発達した内傾する立ち上がり部を有し、外面に粗い凹線を施す下川津B類大形二重口縁壺は、系統的には西部瀬戸内系の複合口縁壺に淵源する。弥生時代終末期（下川津V式並行期）に西部瀬戸内系複合口縁壺が讃岐地方に一定量波及し、この段階で下川津B類土器の組成に加わる。しばしば土器棺として讃岐地方に限らず播磨灘周辺の広い範囲で用いられることでもよく知られる。
- (2) 寺沢薰他「奈良県史跡名勝天然記念物調査報告 第49冊 矢部遺跡」1983奈良県教育委員会
- (3) 大久保徹也「下川津遺跡の弥生時代後期から古墳時代初頭の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅸ 下川津遺跡』香川県埋蔵文化財調査センター他1990
- (4) 木下晴一他『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第十六冊 川津二代取遺跡』香川県埋蔵文化財調査センター他1995
- (5) 大久保徹也「賀田岡下遺跡」「国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 平成4年度』香川県埋蔵文化財調査センター他1993
- (6) 古墳出土の壺形土器については本章第5節においてあらためて検討する。
- (7) 國木健司『鴨部南谷遺跡』志度町教育委員会1990
- (8) 註3文献
- (9) 註2文献
- (10) 川西宏幸「円筒埴輪総論」「考古学雑誌64-2」日本考古学会1978
- (11) 大久保徹也「讃岐」「全国古墳編年集成」雄山閣出版1995
- (12) 松本豊胤他『高松市茶臼山古墳緊急調査概報』香川県教育委員会1970
- (13) 和田晴吾「古墳時代の時期区分をめぐって」「考古学研究34-2」考古学研究会1987
- (14) 和田正夫・松浦正一『香川県史跡名勝天然記念物発掘調査報告15 快天山古墳発掘調査報告書』1951
- (15) 梅原末治『京都帝国大学文学部考古学研究報告12 讃岐高松石清尾石塚の研究』1933
- (16) 『香川県史跡名勝天然記念物調査報告5』香川県1930
- (17) 梅原末治『鶴山丸山古墳』『近畿地方古墳墓の調査2』日本古文化研究所1937
- (18) 國木健司他『大川町富田茶臼山古墳発掘調査報告書』大川町教育委員会1990
- (19) 註15文献

- (20) 註15文献 寒川知治「横立山経塚古墳」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和54年度』香川県教育委員会1980
- (21) 安田和文・野中寛文「御産盟山古墳」『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』1984
- (22) 讀岐古墳文化研究会「高松市鬼無町今岡古墳とその組合式陶棺」『香川考古 創刊号』1983
- (23) 蒲田共済会郷土博物館所蔵の岡田唯吉氏収集資料に「大川郡鶴部村出土」の注記のある埴輪が見える。具体的な所在地・古墳の内容は不詳である。
- (24) 旧高松経済専門学校地理学教授、寺田貞次氏が1930年代から香川県内全域に及ぶ緻密な分布調査を行っている。残念ながらその調査記録と収集資料の一部は1945年の高松空襲によって失われたが、戦災を免れた資料は敗戦直後に、寺田氏の意向によって金刀比羅宮学芸参考館に収められた。個別資料の採集状況は調査記録が失われたことによって不詳であるが、収集資料に寺田氏が詳細な注記をしており、それによって資料の大半の採集地点は特定できる。なお学芸参考館に収められた寺田氏収集資料の全容は、1950年に松浦正一氏が作成した資料目録によって確認できる。(金刀比羅宮図書館蔵)  
今回、金刀比羅宮社務所、同図書館のご厚意によって寺田氏資料を観察する機会を与えられた。資料調査時に様々なご助力・ご教示を頂いた白川氏、松原秀明氏、松本敏三氏、真鍋篤行氏にあらためて感謝いたします。
- (25) 今回観察したのは寺田氏収集資料と他の個人採集資料である。
- (26) 今回観察したのは瀬戸内海歴史民俗資料館収蔵資料と蒲田共済会郷土博物館収蔵資料である。
- (27) 今回観察したのは京都大学文学部博物館収蔵資料と蒲田共済会郷土博物館収蔵資料である。
- (28) 今回観察したのは京都大学文学部博物館収蔵資料である。
- (29) 今回観察したものは寺田氏資料と京都大学文学部博物館収蔵資料である。また川畑聰『横立山東麓1号墳発掘調査報告』高松市教育委員会1990に付載された下笠居中学校収蔵資料も参考とした。
- (30) 今回観察したものは津田町教育委員会所蔵資料・寺田氏資料・蒲田共済会郷土博物館所蔵資料・他個人採集資料である。
- (31) 今回観察したのは蒲田共済会郷土博物館収蔵資料である。

- (32) 今回観察したのは瀬戸内海歴史民俗資料館収蔵資料・寺田氏資料・蒲田共済会郷土博物館収蔵資料および他個人採集資料である。
- (33) 今回観察したのは寺田氏資料・蒲田共済会郷土博物館収蔵資料・他個人採集資料で、註18文献掲載資料を参考とした。
- (34) 瀬戸内海歴史民俗資料館収蔵資料に見られる。
- (35) 渡部明夫・藤井雄三『鶴尾神社4号墳調査報告書』高松市教育委員会1983
- (36) 註15文献
- (37) 註3文献
- (38) 大久保徹也「上天神遺跡の「在地」土器と「搬入」土器」『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第六冊 上天神遺跡』香川県埋蔵文化財調査センター他1995
- (39) 第4章胎土分析報告参照
- (40) 佚天山古墳では少なくとも2個体以上の広口壺が出土している。註14文献では第2主体からの壺形土器の出土を報じているが、この資料の胎土は異なる。別個体の頸部一片の形状からそれと同系統ないしは丸井墓タイプの広口壺が想定できる。一が下川津B類様式に酷似する。
- (41) 高橋克壽「器財形埴輪」『史林71-2』京都大学文学部1988
- (42) 古瀬清秀「寒川町の原始古代」『寒川町史』寒川町1985
- (43) 町田章「香色山1号埴輪棺」『文化財協会報 特別号第1集』香川県文化財保護協会1956
- (44) 松木武彦「吉備の蓋形埴輪」『古代吉備17集』古代吉備研究会1995
- (45) 伊達宗泰編「奈良県史跡名勝天然記念物調査報告 第35冊 メシリ山古墳」奈良県教育委員会1987
- (46) 西谷真治他「金藏山古墳」倉敷考古館1959
- (47) 橋本博文「円筒棺と埴輪棺」『古代探叢』1980
- (48) 福家惣衛「今岡古墳」『香川県史跡名勝天然記念物調査報告第十四』香川県史跡名勝天然記念物調査会1950  
六車恵一「香川県高松市今岡古墳」『日本考古学協会報17』日本考古学協会1969
- (49) 註22文献
- (50) 柳沢一男「勘崎古墳 1981~83年調査概報」福岡市教育委員会1984
- (51) 今尾文昭「灯籠山古墳埴輪枕とともに」『考古学雑誌80-1』日本考古学会1993

- (52) 用語の来歴は橋本論文に詳しい。
- (53) この他 註47文献において福家惣衛氏は衣掛古墳でも同種の棺が出土したことを述べているが今までのところ確認できていない。
- (54) 1号棺は註22・46文献所収  
2・3号棺資料は瀬戸内海歴史民俗資料館所蔵の高木憲了氏採集資料に含まれる。
- (55) 上原準一「特殊なる型式の斂棺を発見したる讃岐国香川郡円座村山崎の古墳に就いて」『考古学雑誌2-6』日本考古学会1921  
この他寺田氏資料に別個体が見られる。
- (56) 寺田氏収集資料
- (57) 中西康裕他「土師の里8号墳」藤井寺市教育委員会1994
- (58) 設楽博巳「円筒棺」「遠江堂山古墳」磐田市教育委員会1994
- (59) 註47文献
- (60) 註57文献
- (61) 註47文献・註57文献
- (62) 註47文献・註57文献でも被葬者の階層について検討を加えている。
- (63) 註35文献
- (64) 註15文献
- (65) 森下英治他「六ツ目古墳」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成元年度」財団法人香川県埋蔵文化財調査センター1989
- (66) 大山真充他「川上・丸井古墳発掘調査概報」長尾町教育委員会1983
- (67) 長尾町稻荷山古墳 採集資料
- (68) 註3文献
- (69) 註3文献
- (70) 註42文献
- (71) 直立する短い頸部と強く外反する立ち上がり部、倒卵形体部を特徴とする。下川津遺跡SHII32資料に阿波からの搬入例が認められる他、同一型式ないしはやや後出する同系統の壺が善通寺市彼の宗遺跡・仲村廃寺・仲南町賀田岡下遺跡などに認められる。
- (72) 「権八原古墳群」「新編香川叢書 考古編」香川県教育委員会1983
- (73) 註42文献
- (74) 岸本直文「東院地区出土の埴輪窯」「1993年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報」奈

良国立文化財研究所1994

- (75) 「喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要Ⅲ」大阪府教育委員会1980
- (76) 宇垣匡雅他「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88 百間川原尾島遺跡3」岡山県教育委員会1994
- (77) 註3文献
- (78) 高橋克壽「埴輪生産の展開」『考古学研究41-2』考古学研究会1994
- (79) 國木健司「三谷石舟古墳測量調査報告書」「高松工芸高校郷土史研究会研究紀要第3集」高松工芸高校1992
- (80) 『石清尾山塊古墳群調査報告』高松市教育委員会1973
- (81) 香東川現流路と本津川の間に、相作牛塚古墳・弦打王墓古墳・青木古墳群など中期後半～後期初頭を中心とした時期の大形円墳を含む古墳群が散漫に分布する。詳細は明らかではないが、分布状態などから考えておそらく複数の首長系列からなると見られる。今のところ中期前半以前あるいは後期後半以降の有力墳は知られていない。
- (82) 岩崎山4号墳以外に、和田編年1期に遡る可能性がある積石前方後円墳、鶴部山古墳に始まり、古式の刳抜石棺を収める赤山古墳（前方後円墳 和田3期）、けば山古墳（前方後円墳 和田4～5期）、竜王山古墳（円墳 和田5期）、北羽立峰古墳（前方後円墳 時期不詳 前期か）等がある。津田川河口部の小海岸平野を取り巻くように少なくとも和田編年5期までは継続的に前方後円墳を築造している可能性が高い。

## 遺物観察表

### 凡例

1. 遺物観察表は土器、円筒埴輪、壺形埴輪、器財形埴輪、箱形土製棺・割竹形土製棺、円筒形土製棺、土製品に分けて作成した。各表ごとに挿図番号順に編集している。
2. 残存度の項には残存部位と残存率を示した。例えば「口縁部1/4」は、口縁部片約1/4周の破片を示す。
3. 色調は外面・内面及び器体芯部(断面)について記載した。ただし芯部色調が表面と異なる場合は記載していない。また内外面色調に差異がない場合は外面色調のみ記載した。
4. また色調は「新版標準土色帖 1992年版」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修財団法人日本色彩研究所監修)に掲って、JIS notationを記載した。
5. 胎土は30倍ライツコープを用いて観察し、石英・雲母・赤色粒(焼粘土塊)・角閃石等の多寡・粒径について記載した。  
粗-4 mm以上 中-0.6~3.9 mm 細-0.5 mm以下を基準とした。

7.5N7/1 明赤灰色	7/6 棕色	3/4 咖啡色	5/6 黄褐色	2/1 黑色	5/1 青灰色
6/1 赤灰色	6/6 棕色	6/5 改良棕色	4/6 オリーブ褐色	1.5/1 黑色	4/1 墨绿色
5/1 青灰色	5/6 明赤褐色	7/6 黄色	8/8 黄色	2.5N7/1 灰白色	3/1 墨紫灰色
4/1 墨赤灰色	4/6 赤褐色	6/6 棕色	7/5 黄色	7/1 明オリーブ灰	2/1 墨绿色
3/1 墨赤灰色	3/5 增赤褐色	5/6 明褐色	6/6 黄褐色	6/1 オリーブ灰色	1.7/1 墨黑色
2/1 墨色	2/5 增赤褐色	4/6 棕色	5T8/1 灰白色	5/1 オリーブ灰	5N7/1 明墨灰色
1.7/1 墨色	6/6 棕色	8/8 黄褐色	7/1 灰白色	4/1 增オリーブ灰	6/1 墨灰色
6/2 墨赤色	5/8 明赤褐色	7/6 黄褐色	6/1 黑色	3/1 增オリーブ灰	5/1 墨灰色
5/2 墨赤色	4/6 赤褐色	6/8 棕色	5/1 黑色	2/1 黑色	4/1 增紫灰色
4/2 墨色	5T8/1 灰白色	5/8 明褐色	4/1 黑色	5G8/1 灰白色	3/1 增紫灰色
3/2 增赤褐色	7/1 明褐灰	10YR1/1 黑色	3/1 オリーブ黑色	7/1 增オリーブ灰	2/1 增墨色
2/2 增墨赤褐色	6/1 增灰色	7/1 黑白色	2/1 黑色	6/1 オリーブ黑色	1.7/1 增墨色
5/3 にぶい赤褐色	5/1 增灰色	6/1 增褐色	8/2 黑白色	3/1 オリーブ灰	5N7/1 明赤灰色
4/3 にぶい赤褐色	4/1 增灰色	5/1 增褐色	7/2 黑白色	4/1 增オリーブ灰	6/1 赤灰色
3/3 增赤褐色	3/1 增褐色	4/1 增灰色	6/2 增オリーブ	3/1 增オリーブ灰	4/1 增赤色
2/3 增墨赤褐色	2/1 增黑色	3/1 增褐色	5/2 增オリーブ	2/1 オリーブ黑色	3/1 增赤灰色
4/4 赤色	1.7/1 黑色	2/1 黑色	4/2 增オリーブ	7.5G8/1 明绿灰色	3/1 增赤色
3/4 增褐色	8/2 增灰	1.7/1 黑色	3/2 オリーブ	7/1 明绿灰色	2/1 赤黑色
6/4 赤色	6/2 增褐色	8/2 增白色	2/2 オリーブ	6/1 增黑色	1.7/1 赤黑色
3/6 增赤	6/2 增褐色	7/2 にぶい黄褐色	8/3 淡黄色	5/1 增黑色	4/1 增绿灰色
4/6 色	5/2 增褐色	6/2 增黑色	7/3 黑黄色	4/1 增黑色	3/1 增绿灰色
10G7/1 明赤灰色	4/2 增褐色	5/2 增黑色	6/3 オリーブ	3/1 增绿灰色	2/1 增墨色
6/1 赤色	3/2 增赤褐色	4/2 增黑色	5/3 增オリーブ	10G7/1 明绿灰色	2/1 增墨色
5/1 青灰色	2/2 增褐色	3/2 黑褐色	4/3 增オリーブ	7/1 明绿灰色	2/1 增墨色
4/1 增赤灰色	8/3 增黑色	2/2 黑褐色	8/4 淡黄色	6/4 淡黄色	6/1 增黑色
3/1 增赤灰色	7/3 にぶい褐色	8/3 增黑色	7/4 浅黄色	6/4 オリーブ	5/1 增黑色
2/1 增黑色	6/3 にぶい褐色	7/3 にぶい褐色	6/3 黑色	5/4 オリーブ	4/1 增绿灰色
1.7/1 水黑色	5/3 にぶい赤褐色	6/3 にぶい褐色	4/4 淡黄色	4/4 增オリーブ	3/1 增绿灰色
6/2 增赤色	4/3 增赤褐色	5/3 にぶい黄褐色	8/6 黄色	2/1 黑色	2/1 增黑色
5/2 增赤色	3/2 增赤褐色	4/3 にぶい黄褐色	7/6 黄色	5G7/1 明绿灰色	2/1 增墨色
4/2 增赤色	2/2 增赤褐色	3/3 增褐色	6/6 オリーブ	6/1 增黑色	2/1 增墨色
3/2 增墨赤褐色	8/4 增褐色	2/3 黑褐色	5/6 オリーブ	5/1 增黑色	2/1 增绿灰色
2/2 可调赤褐色	7/4 にぶい褐色	8/4 增褐色	7/8 黄色	6/8 黄色	4/1 增绿灰色
6/3 にぶい赤褐色	6/4 にぶい褐色	7/4 にぶい褐色	6/4 にぶい黄褐色	6/4 にぶい黄褐色	3/1 增绿灰色
5/3 增褐色	5/4 にぶい赤褐色	6/4 にぶい褐色	7/8 黑色	6/6 オリーブ	2/1 增黑色
4/3 赤褐色	4/4 にぶい赤褐色	5/4 にぶい褐色	5/6 オリーブ	7.5N8/1 黑白色	1.7/1 增黑色
3/3 增赤褐色	4/4 增赤褐色	4/4 褐色	7/1 黑白色	7/1 黑白色	10G7/1 明绿灰色
2/3 增墨赤褐色	2/4 增墨赤褐色	3/4 增褐色	6/1 黑色	6/1 黑色	6/1 增黑色
6/4 にぶい赤褐色	7/6 褐色	8/6 黄褐色	7/1 黑白色	5/1 黑色	5/1 增黑色
5/4 赤褐色	6/6 褐色	7/5 明黄色	6/1 黑色	4/1 增绿灰色	4/1 增绿灰色
4/4 青褐色	5/6 增褐色	6/5 明黄色	7/4 浅黄色	6/4 淡黄色	3/1 增绿灰色
3/4 增褐色	4/6 增褐色	5/6 增黄色	6/4 增黄色	6/4 增黄色	2/1 增黑色
6/6 赤褐色	3/6 增褐色	4/6 增褐色	7/6 黄色	7.5N8/1 黑白色	1.7/1 增黑色
5/6 色	2/6 增褐色	3/6 增褐色	6/6 黄色	7.5N8/1 黑白色	1.7/1 增黑色
4/6 色	1.7/1 增黑色	2/6 增褐色	5/6 黄色	7/1 黑白色	10G7/1 明绿灰色
2.5N7/1 明赤灰色	6/1 增灰色	6/1 黄灰色	6/1 黄灰色	6/1 黑色	6/1 增黑色
6/1 赤灰色	5/1 增灰色	5/1 黄灰色	5/3 淡黄色	5/1 增黑色	5/1 增黑色
5/1 青灰色	4/1 增灰色	4/1 黄灰色	7/3 浅黄色	6/2 增オリーブ	6/1 青灰色
4/1 增赤色	3/1 增黑色	3/1 黑褐色	6/3 オリーブ	5/1 青灰色	5/1 青灰色
3/1 增赤灰色	2/1 黑色	2/1 黑色	5/3 增オリーブ	4/2 增オリーブ	4/1 增绿灰色
2/1 增黑色	1.7/1 黑色	8/2 黑白色	7/3 浅黄色	4/2 增オリーブ	3/1 增绿灰色
1.7/1 增黑色	8/2 黑白色	7/2 黑黄色	10N8/1 灰白色	3/1 增绿灰色	2/1 增黑色
7/2 明赤灰色	7/2 明褐灰	6/2 黑黄色	7/1 灰白色	2/1 黑色	2/1 增黑色
6/2 增赤色	6/2 增黑色	5/2 增黄色	6/1 黑色	1.7/1 增黑色	1.7/1 增黑色
5/2 增赤色	5/2 增黑色	4/2 增黄色	5/1 黑色	5G7/1 明青灰色	6/1 青灰色
4/2 增赤色	4/2 增黑色	3/2 黑褐色	4/1 黑色	4/1 增绿灰色	5/1 青灰色
2/2 增墨赤褐色	3/2 增黑色	5/3 增黄色	3/1 オリーブ	4/1 增青灰色	4/1 增绿灰色
2/2 增墨赤褐色	2/2 增黑色	7/3 浅黄色	2/1 黑色	4/1 增青灰色	3/1 增绿灰色
7/3 增赤褐色	8/3 增黄色	6/3 にぶい黄色	8/2 黑白色	2/1 黑色	2/1 增黑色
6/3 にぶい褐色	7/3 にぶい褐色	5/3 黑褐色	7/2 黑白色	6/2 オリーブ	1.7/1 增黑色
5/3 にぶい赤褐色	6/3 にぶい褐色	4/3 オリーブ	6/2 オリーブ	5/1 增黑色	1.7/1 增黑色
4/3 增赤褐色	5/3 增褐色	3/3 增褐色	5/2 オリーブ	5G7/1 明青灰色	6/1 青灰色
3/3 增褐色	4/3 褐色	8/4 淡黄色	4/2 オリーブ	5/1 增黑色	4/1 增绿灰色
7/4 增赤褐色	2/3 增黄色	6/4 にぶい黄色	3/2 オリーブ	4/1 增青灰色	4/1 增绿灰色
6/4 にぶい褐色	8/4 透黄色	5/4 黄褐色	7/1 黑白色	3/1 增绿灰色	2/1 增黑色
5/4 にぶい赤褐色	7/4 にぶい褐色	4/4 オリーブ	6/1 黑色	5/1 增黑色	2/1 增黑色
4/4 にぶい赤褐色	6/4 にぶい褐色	8/5 黄色	5/1 黑色	5/1 黑色	1.7/1 增黑色
3/4 增赤褐色	5/4 にぶい褐色	7/6 明黄色	4/1 黑色	5G7/1 明青灰色	6/1 青灰色
2/4 增墨赤褐色	4/4 褐色	6/6 明黄色	3/1 增黑色	6/1 黑色	6/1 增黑色

## 土器観察委

地図	台帳	容積	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒塗	胎土	口径	底径	口縁部形態	脚部形態	外面部	内面部	その他の	備考		
1	30 土器等大形 二重口縁板	口縁2.8	517/1 1077/6	1078/6 7.5%	1078/6 7.5%	○	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：極少	23.8			開きの弱い頭 部から傾やかに屈曲して長い立上がり部は内湾気味に延びる。筋角部に透形突起	口頭部頭 ケで筋曲部 を中心挿 ねナデ	口頭部頭 ケで筋曲部 を中心挿 ねナデ					
2	30 土器等大形 板	口縁2.5	7.5%	4	7.5%	4	1078/6 3	石英：粗・中多 赤色粒：極中少	27.7		短く外反する頭部から傾く屈曲した立ち上がり部は僅かに内湾する。腹部は僅かに内湾する。腹曲部に突出。屈曲部に透形突起	口頭部頭 ケで筋曲部 を中心挿 ねナデ	立上り思模 ハケ、頭部 屈曲部後回 筋部を中心 挿ナデ。	横ケナデ	クズリ			
3	七面器	兩小片	7.5%	4	1078/6 4	1078/6 4	石英：中多 赤色粒：粗・細少 角閃石：細少					横ケナデ	横ケナデ	横ケナデ	横ケナデ			
4	土器等小形 丸底十耳	肩1.6	1078/4	1078/4	7.5%	4/6	石英：粗多 角閃石：細少					横ケナデ	横ケナデ	横ケナデ	横ケナデ			
5	七面器高环	輪5.8	1078/6	7.5%	7.5%	1	石英：粗・中多 角閃石：細少					横ケナデ	横ケナデ	横ケナデ	横ケナデ			
22	鉢地器等?	体部2/8	2.5%	1	2.5%	1	石英：粗少											
74	土器器等	口縁板2.5	2.5%	2	2.5%	2	2.5%	1	○	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	15.5	口頭部は強く内湾しつつ頭部内方へ向かって屈曲する。筋角部は内湾し	口頭部頭 ケで筋曲部 を中心挿 ねナデ	口頭部頭 ケで筋曲部 を中心挿 ねナデ	ア、頭部・ 筋曲部後回 筋部後回 筋ナデ	全体の強 さや弱さ		

神名	因縲	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	毛刷痕	無灰	粘土	口径	径高	底径	口部平坦面	脚部形状	外觀調整	内部調整	その他	備考
75	土師器裏 口縁	口縁1/4	2.5H7/2	2.5H7/2	2.5H4/2					13.0		口頭部端子ナ ダ	口頭部端子ナ ダ				
76	49 土師器二重 口縁直	口縁1/4	2.5H7/2	2.5H6/2	2.5H6/1					17.2		短く直立する 明瞭な原部。 周側部は強く 突出。立上り 部は直立 し落部は小さ く外方に突出 して四角く輪 める。	横ナデ	横ナデ			
77	土師器小形 丸蓋土器	体部2/3	2.5H7/2 ~ 7.5H7/6		2.5H4/1							指ナサエで下半部側 スリ後上半 筋指ナサエ。	側部最大幅 下半部側ケ ズリか。				
78	土師器大形 體	体上半1/4	2.5H6/3		2.5H6/4							横ナデ	横ナデ	頭部の屈曲 強やか			
79	土師器大形 蓋	体上半1/4	10R7/3 ~ 7.5H7/6		2.5H5/1							頭ハケ後斜ハ 基部指ナサ ケ後部分的 筋指ナサエ	頭基部ハケ 原体直候				
80	49 土師器小形 二重口縁直	完存		2.5H6/2	2.5H6/4	O	石英・中多 赤色粒・粗 角閃石・粗少 紫母・粗少 赤色粒・粗少 角閃石・粗少		12.2	16.3	頭部は明瞭に 区別できない 肩部から強く 外反して口縁 部に至る。屈 曲は頭部	頭部端子ナ ダ、体部上 半板ハケ後 ア、体部ケ ズリ後正面 指ナサエ。	頭部端子ナ ダ、体部ケ ズリ後正面 指ナサエ。				

番号	固形	音種	残存部	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒瓦	粘土	口径	深高	底径	口端部形態	脣端部形態	外面部質	内部調整	その他	備考	
81	49	上輪器皿																
81	49	上輪器皿	全体9/10	5N7/6	5N7/6	2.5N4/1	○	石英：中・細多 赤色粒：中・粗 角閃石：細少				頭部は純化し て僅かな状 態をなす。立上 り部は強く外 側に張り出し て、側面は四 角く極めて僅 かに内方に突出。						やや扁大型 体部形態 の低い球形 調整から壁 と底定
82	土壤器皿口	上輪器皿1/8	10N8/3	10N8/3	10N8/1		石英：粗・中多 赤色粒：中・中 角閃石：細少	9.4				頭部は頭部か ら強く折り返 す。	頭部は頭部か ら強く折り返 す。	報ハケ後肩 ケズリ後肩 ミガキ				
83	上輪器皿	周1/2	7.5N7/8	7.5N7/8	7.5N7/8	5N7/2	石英：粗・中多 赤色粒：中・中 角閃石：細少					口頭部は僅か に内済気味に 伸びる。端部 は四角く折れ る。	口頭部十 字形	口頭部横ナ 子、体感模 ハケ後肩部 横ハケ				
84	上輪器皿	周1/8	2.5N7/2	2.5N6/3	10N7/2	5N7/6	石英：粗・中多 赤色粒：中・中 角閃石：細少					頭部はやや反 り気味に開く	頭部ハケ	肩部指オサ ニ	体部の張り ない、			
85	49	土輪器小形 丸底土器	全7/8	7.5N7/3	10N7/2	5N7/6	○	石英：粗・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少	7.4	8.4		直線的に開き て深手。端部は 丸く折れる。	報ハケ後肩 ハケ	体上半部張 体上半部指 ハケ後中位 以下指オサ エ・ナテロ 横部横ナデ 横ナデ。				
86	49	土輪器小形 丸底土器	全6/8	2.5N6/3	2.5N6/1	5N1	○	石英：粗・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少	7.8	8.4		済手。僅かに 内済気味に 開き端部は丸 く折れる。	頭部横ハケ 後横ハケ。	頭部指ハス ズリ後下半 部横ナデ。				
87	49	土輪器小形 丸底土器	全体1/2	2.5N6/3	2.5N7/2	2.5N7/2	○	石英：粗・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少					頭部横ハケ 中位急ハサ 下半部不定 横ケズリ後 横ナデ。					

拘固	頭版	脳板	残存皮	骨質全頭	色調(外)	色調(内)	黒斑	粘上	口径	器械	炎症	口腔前庭部	外面調整	内面調整	その他の	備考
88	土崎器小形 丸底土器			2.5R7/2	2.5R7/2	2.5R7/2	?	石英：粗・中多 赤色粒：粗多				下半部細かい跡ハケ付 り後端指凹サエ。				
89	ミニチュア	底盤7/8		2.5R7/2	2.5R7/2	2.5R7/2		石英：中・細骨 角閃石：細少			粗棘に尖る。	上面に指オ サエ器具	指ナデ	手づくね板 施か。		
90	土崎器小形 丸底土器			5R7/6	5R7/6	10R8/1		6系：中多 赤色粒：粗少 片閃石：粗少少			粗棘に尖る。	底部ケズリ、 以高は短い、 チ	指ナデ	やや厚手にとじ める。		
91	49	土崎器薄坏 环下半1/3		10R8/6	5R7/6	2.5R7/1		石英：中少			屈曲部は明晰 な段をなす。		横ナデ	輪郭部骨ヶ ソリ、上端 輪郭突起、 杯部上方付 近骨突尖 度		
92	土崎器薄坏 环1/2			7.5R8/6	7.5R8/6	10R5/1		石英：粗・中多 赤色粒：中當 角閃石：粗少少			中位で頗る屈 曲して上半部 は直線的に長 く開く。颈部 は丸く折れる。			环部に横ナ ド、接合部、輪 骨部ケズリ。		
93	土崎器薄坏 脚部1/3			7.5R7/3	7.5R7/3	7.5R6/4		石英：中・細多 赤色粒：中當 角閃石：粗少少			やや太めの輪 骨部から後 輪部に由来 して把品は短 い、輪部は丸く 折れる。		横ケズリ後 輪ナエ	輪上端と环 外底面を挫 して成形 か？		
94	土崎器薄坏 脚部5/8			7.5R7/6	7.5R7/6	10R4/1								輪部上下方 角から2段 用ケズリ。 輪骨ナデ		
102	44	土崎器薄坏 口輪部1/4		7.5R7/4	7.5R7/6	5R7/8		石英：粗・中多 赤色粒：粗少少 片閃石：粗・中少			口頭部はやや 肉厚で直線的 に開く。輪部 内方で小さく		口頭部ナ ド、体部板 ハケ後頭部 板に施 けられ、下半部			

種類	回版	器種	残存灰	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒斑	胎土	口径	器高	底径	口輪部形態	脚輪部形態	外面彫整	内面彫整	その他	備考
104	43	土器器大形 体上半	1/4	577/2	2.577/2	575/1	○	石英：粗・中多 赤色灰：細少 角閃石：細少				突出しつつ外 方にやや擴み 出し面部平坦 面は良い。面 基部は強い模 ナデで凹面を なす。	上部輪ハ 輪ケズリ後 輪前輪なら 否オサエ 指ナダ				
105	112	瓦質小皿	全1/3	577/1	577/1	577/1	○	石英：粗少	8.0	1.5	5.9	強く圓いて端 部火る。	底部は肉厚 でやや突出 先味：	底部回転輪 ナデ	12~13°C 発		
120	43	粥生器	口輪体1/3	2.576/2	2.576/2	2.576/2	○	石英：中・粗 青母：粗少 角閃石：細少 多	13.4			強く折り返 し口輪部は短 い。輪部は小 さく捲上げ る。	口輪部側ナ ア、体部側 ハナ	口輪部側ナ ア、体部側 ハナ			
121	土器器蓋	口輪1/4	7.5787/6	7.5787/3			○	石英：中多 赤色灰：中皆 角閃石：細少	14.6			口輪部は直線 に開き、端 部内方で小さ く突出。頂部 平出面強い。輪 ナデで凹面	輪ナデ	口輪部側ナ ア、肩上部 指オサエ			
122	50	土器器二重 口輪蓋	口輪1/8	577/2	2.575/2	2.575/1	○	石英：粗・中多 赤色灰：中皆 角閃石：細少	16.2				横ナデ	頭部以下指 頭ナデ。口 輪部側ナデ			
123	53	ミニチュア全	3/4	2.577/3	2.577/3	2.574/1	○	石英：中多 赤色灰：粗少	7.0	2.7	4.7	趙邊に尖る。	指オサエ	手づくね底 形			

地層	岩層	器種	保存度	色調(外)	色調(内)	黒度	粘土	口径	器高	底径	口縁部形態	輪滑部形態	外面調整	内面調整	その他の特徴	備考
124	55 土罐器等 瓶	1/2	2.577/2	2.575/4	7.5TR5/4	石英：灰・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少					縫合部は から外反し て縫合部を至 る。内部構 造は4方向	縫合部は 縫合部より 外側に突出 する。内部構 造は4方向	縫合部より 外側に突出 する。内部構 造は4方向			
126	土罐器大形 瓶	2/5	2.596/2	2.573/1	2.574/1	石英：灰・中多			8.3		僅かに突出 気味の輪、 平底形。		ナデ	僅かに 突出		
127	須恵器平底 口縁1/12	7.5G5/1	10G5/1			石英：細・細少	14.6				輪部は小さく 折り返して垂 下。		圓弧ナデ	圓弧ナデ	8 C前半	
128	112 コネ鉢	口縁小片	10F5/1	10F6/1		石英：粗・中細 雲母：多普少 赤色粒：中細 角閃石：細少 多普少 細少					口縁部は強く 記厚しつつ上 方に延びる。		横ナデ	横ナデ	片口輪	
129	113 瓦質コネ鉢	口縁1/16	7.5TR8/2	7.5TR2/1	7.5TR6/1	石英：粗・中普 雲母：細少 赤色粒：中少	29.0				口縁部は僅か に内湾氣味に 立ち上がり 縫合部は更に氣 味に丸く曲め る。		口縫部横ナ デ、体部指 ナデ5条一 目	口縫部横ナ デ、体部指 ナデ5条一 目		15 C以降 青銅斧鉢
130	112 三足羽釜	口縁小片	10R7/2	10R6/2	10R6/2	石英：中・細多					口縫部はや や内傾して立ち 上がり薄く尖 る。縫は薄手 で突起性高 い。		口縫部・體 輪ナデ体部 縫ハケ後指 ナサエ	口縫部・體 輪ナデ体部 縫ハケ後指 ナサエ		
131	112 三足羽釜	口縁1/10	7.5TR5/8	7.5TR5/8	7.5TR5/8	石英：細多 角閃石：細少	21.0				口縫部は内湾 して尖る。縫 は低く鈍化。 内耳		口縫部横ナ デ、側面下 ハケ	口縫部横ナ デ、側面下 ハケ		輪井II 2~ 3
140	50 土罐器大形 瓶	1/4	2.577/2	7.5TR6/2	5T5/1	石英：粗・中多 赤色粒：中普	25.1				僅かに内傾す る長い直立部 縫は内外に銳く挿 み出する。		直立部縫ハ ケ突起物付 縫部縫ハ ケ	直立部縫ハ ケ突起物付 縫部縫ハ ケ		

種類	図版	器種	残存段	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒茎	給土	口径	器高	底径	口縁部形態	脚部形態	外面調整	内面調整	その他	備考
141	土壤器大形 二重口縁型	口縁1/3	2.556/3	2.557/2	2.555/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：細少 角閃石：細少	26.0					周曲部に短形 突起。底部短い。	立ち上がり部 は斜く反って やや内傾。端 部は僅かに凹 平。	横ナデ	横ハケ後横 ナデ		
142	土壤器大形 二重口縲型	口縲1/8	2.557/3		2.554/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：細少 角閃石：細少						頭部から腰や 腹部に外反して 受部につなが る。尾曲部に 短形突起。	頭部從ハケ 尾曲部横 ナデ				
143	土壤器大形 質	体上半2/5	2.556/2	2.556/2	35/1	○ 石英：粗・中粗 赤色粒：中少 角閃石：細普							直部付左斜 横・斜ナデ	斜ハケ後斜 エ	やや脣の張 った形状 底部		
144	土壤器大形 壳	体上半1/4	2.557/2	2.557/3	2.555/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中粗 角閃石：細少							縦ナデ能開 直部以上横ハ ケ後下部斜 基部横ナデ ・指ナデエ	直部ハケ 内面に余台			
145	土壤器大形 質	体部1/4	2.556/2	2.556/2	2.556/2	石英：粗・中粗 赤色粒：中少							縦ハケ	横ハケで底 面に指ナデエ	やや尖り気 味の丸底		
146	50 土壤器小形 二重口縲型	口縲3/3	2.556/3	2.555/3	2.555/3	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	14.0					明瞭な頭部は 無い。屈曲部 は小さく突出 する。立上り 部は反り気味 に強く開き薄 部は外方に強 り氣味に凹角 く折れる。	横ナデ	横ナデ			
147	50 土壤器小形 二重口縲型	口縲1/9	2.556/2	2.556/2	2.557/2	石英：中多 赤色粒：中・細普	15.7					明瞭な直立頭 部。屈曲部は 無い。立上 り部は外傾	横ナデ	横ナデ			

番号	既版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(新)	黒透	施土	口透	蓄音	底透	口漏部形態	漏音部形態	外面調整	内面調整	その他	備考
148	50	土師器裏	口輪厚1/4	2.537/3	2.537/3	心窓・縁・中窓 赤色・底・板・中骨 角内石・細少	15.4	厚ははく 厚しつ内外 に拂ふ出し頂 部に奥い平出 面	やや肉厚の口 部ははくに 内側しつ脚 く。漏部内方 で小さく突出 しつ先端を やや拂み頂部 平坦面はやや 長い。頭あ一部 凹面。	口漏部増子 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ	臀部に増 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ						
149	50	土師器裏	口輪厚3/8	1037/3	1037/2 1038/1	心窓・縁・中窓 赤色・底・板・中骨 角内石・細少	17.1	口漏部は僅か に内拂気味に 開く。漏部内 方で小さく突 出して頂部平 坦面はやや長 い。	体中位以下 ハケ	口漏部に増 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ	口漏部に増 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ						
150		土師器裏	口輪厚1/6	2.537/2	2.537/2	石窓・中骨 赤色・底・中骨 角内石・細少	12.8	口漏部は直線 的に開く。漏 部内方突出して 頂部平坦面。	口漏部増子 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ	口漏部増子 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ							
151		土師器裏	口輪1/8	7.538/6	7.538/6	石窓・中骨 赤色・底・中骨 角内石・細少	14.3	やや肉厚の口 部ははくに 内拂して開く 漏部内方で小 さく突出して 頂部平坦面復 強。頭あ一部 凹面	頭ナデ	口漏部増子 ナデ、臀部 ア、体上半 部ハケ後側 部ハケ後脚上 部脚ナデ							

種類	回数	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	馬達	鉄土	口径	断面高	底径	口唇部形態	脚端部形態	外面部調整	内面部調整	その他の 備考
152	土師器	口輪有	1/8	5YR7/8	5YR7/4	5YR6/8	石英：中青 赤色板：中青 角閃石：細少		14.2			口頭部横ナ ア。脣形横 ケスリ後上 端部指ササ エ。	口頭部横ナ ア。脣形横 ケスリ後上 端部指ササ エ。			
153	50	土師器	口輪有	1/8	10YR6/3	10YR6/4	2.5YR6/8	石英：粗・中多 赤色板：粗・中青 角閃石：細少		12.8		口頭部横ナ ア。体上半 部横ケスリ 指ササエ	口頭部横ナ ア。体上半 部横ケスリ 指ササエ	最大径やや 低い。		
154	50	土師器	口輪有	6/8	2.5YR6/3	2.5YR6/1	2.5YR6/1	石英：粗・中多 赤色板：粗・中青 角閃石：細少		15.0		口頭部は内薄 氣味に聞く。 頭部内方で小 さく突出する。 頭部平表面はや や短い。	口頭部横ナ ア。脣形横 ケスリ後脣 部・底面指 サエサエ	体部はやや 長削化		
155	51	土師器	全存	10YR7/2	10YR7/2	10YR7/1	○	石英：粗・中多 赤色板：粗・中青 角閃石：細少		14.6	22.4	口頭部はほ ぼ直線的で内方で 小さく突出す ると半円向外 に突出し頭 部平表面は長 い。頭基部は 強い横ナデで 丸い凹面をな す。	口頭部横ナ ア。脣形横 ケスリ後脣 部・底面指 サエサエ	体部は底絞 りだが僅かに 長削化の兆 し		
156	51	土師器	全1/2	7.5YR7/4	10YR6/3	5YR6/6	○	石英：粗・中青 赤色板：粗・中青 角閃石：細少		12.4	18.2	口頭部横ナ ア。体脣横 ケスリ後脣 部・底面指 サエサエ	口頭部横ナ ア。体脣横 ケスリ後脣 部・底面指 サエサエ			

種別	回数	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒質	胎土	口径	器高	底径	口沿部形状	阿達部形状	外面調整	内面調整	その他	備考	
157	51	上部器蓋	体部1/8	2.57R7/2	2.57R7/3	2.57R6/1	○	石美：粗・中多 赤色粒：細少				圓基盤形 ナダで凹面	圓基盤形 ナダ	肩部側ハケ 体部後下半部横 筋・肩上部 指オサエ	肩部側ハケ 体部後下半部横 筋・肩上部 指オサエ			
158	51	土器器蓋?	体下半3/8	10R7/3	10R7/4	10R7/2		石美：粗・中多 赤色粒：中昔 角質石：細少						横ハケ	横ケズリ後 邊子母の 背部			
159	52	土器器大形 二重口輪	口縁1/10	2.57R6/2	2.57R7/2	5R7/1		石美：粗・中多 赤色粒：中昔 角質石：細少		41.7				横ナダで底 立部は無い 凹面	横ナダ			
160	52	土器器二重 口輪	口縁周1/3	7.5R7/6	7.5R7/6	5R7/8		石美：粗・中多 赤色粒：中昔 角質石：細少		26.6				口縁部四線 口縁部四線 2条。ハケ後 筋筋ハケ	口縫部四線 口縫部四線 2条。ハケ後 筋筋ハケ			
161	52	土器器二重 口輪小片	10R7/2	2.57R6/2				石美：中・細多 角質石：細少						横ナダ	横ナダ			
162	52	土器器小形 丸底土器 (二重口輪)	金7/8	2.57R6/2	2.57R6/2	2.57R6/2 ~ 2.57R3/6		石美：粗・中多 赤色粒：中昔 角質石：細少		7.8	7.6	周曲部は無い 二重口輪形 筋。立上り部 は元厚し、溝 部は尖る。		腹ハケ後上 体上半部横 筋部は横ナ ダ・指オ サエ下半部 筋筋指オサ エナダ	腹ハケ後上 体上半部横 筋部は横ナ ダ・指オ サエ下半部 筋筋指オサ エナダ	成中の鬼 裂あり		
163	52	土器器小形 丸底土器 (二重口輪)	金112光形	2.57R7/2	2.57R7/2	2.57R7/2 5R8/3		石美：粗・中多 赤色粒：中昔 角質石：細少		7.0	6.8	周曲部は圓化 して外面の純 い段となる。 立上り部は外 反して溝部尖 る。		ナダ	体部中位横 筋ケズリ後周 筋・底筋指 オサエ			

種類	図版	习惯	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒斑	胎土	口径	器高	底径	口縁部形態	脚端部形態	内面質感	その他の特徴	備考
164	土輪器小形 丸底土器	口縁削 1/2	2.577/2	2.577/2	2.577/2	2.577/2	石英：粗・中粒 赤色粒：中少 角閃石：細少	9.0				下脚部側ハケ ケ後削痕ナ ド。口縫部 側ハケ後削 痕ナデ。				
165	土輪器小形 丸底土器	口縁削 1/8	2.576/2	2.576/2	2.576/2	2.576/2	石英：中・粗 角閃石：細少	10.2				中位に横ケ アリ後削部 側ナデ。				
166	土輪器小形 丸底土器	口縁削 1/8	2.576/2	2.577/3			○ 石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	12.8				横ナデ	横ナデ			
167	土輪器小形 丸底土器	口縁削 1/8	10X7/2	7.576/3	5X7/6	5X7/6	石英：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	10.4				肩部側ハケ 体部に横ケ アリ後削ハ ケ。口縫部以 下削痕ナ デ。				
168	52	土輪器小形 丸底土器	金完形	5X6/2	5X6/2	5X6/2	○ 石英：中・粗 赤色粒：中少 角閃石：細少	8.6	7.0			肩部側ハケ 後中位削ハ ケ。肩部側以 下削痕ナ デ。				
169	土輪器小形 丸底土器	金 1/3	10X7/2	2.577/2	2.577/2	2.577/2	石英：中多 赤色粒：中少 角閃石：中少	9.5	8.0			肩部側ハケ 後削部側ハ ケ。口縫部 側ナデ				
170	52	土輪器小形 丸底土器	金 7/8	2.577/3	2.576/3	2.577/3	石英：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	7.0	6.9			肩部側ハケ 後削部側ナ デ。口縫部 側ナデ				

種類	回数	器種	発存度	地質外	地質内	色調(外)	色調(内)	層度	粘土	硬度	器形	底性	口唇	輪廓	輪廓輪郭部	外面輪郭	内面輪郭	その他の特徴	備考
171	52	土器盤小形 丸底土器	完形	7.5TR6/6	10TR6/2				石英：中普 赤色粒：中普 角閃石：細少	7.7	7.1	僅かに内湾気 味に開き漏部 尖る。				肩部縦ハゲ 後半部以下 横ハゲ。口 輪部横ハゲ 後端ナデ。			
172	52	土器盤小形 丸底土器	金1/2	5TR7/6	5TR7/4	5TR6/3			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	7.8	7.5	口輪の開き弱 い。僅かに内 湾氣味に有し上 漏部尖る。				ナデ・指オ サエ。	下半端ケ ズリ後底面 指オサエ周 辺指オサエ ナデ。		
173	53	土器盤小形 丸底土器	141未完形	7.5TR6/4	7.5TR6/4	5TR7/8			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	6.6	8.7					明き底部まで 全体に削平 で粗面			
174		土器盤小形 丸底土器	体部全周	5TR7/3	5TR7/3	5TR6/2			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少							中位以下横 ハゲ後端指ナデ 部不定ケズ リ。口輪部 指オサエ。			
175	52	土器盤小形 丸底土器	体部1/4	2.5TR6/2	2.5TR6/2	2.5TR6/2	○		石英：中多 赤色粒：中普 角閃石：細少							指オサエの 凹凸端部	体部の張り 弱く肉厚で 粗面		
176	52	土器盤小形 丸底土器	体部1/4	2.5TR6/2	2.5TR6/2	2.5TR6/2	○		石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少							下部不定 ケズリ後指 オサエ上半 部ナデ。			
177	53	土器盤小形 丸底土器	体部1/2	5TR7/6	5TR6/1	5TR6/6	○		石英：粗・中普 赤色粒：中普 角閃石：細少							最大径以下 ケズリ後指 オサエ。	中位 低く扁平。		
178	53	土器盤小形 丸底土器	体部5/8	5TR7/8	5TR7/0	N3/0	○		石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少							最大径過 り指オサエ。 半部縦かい 横ハゲ	地底後部 強く算盤玉形 化		



標目	図版	層位	種類	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒鍬	粘土	口径	管高	高径	口径部形態	外面部調整	内面部調整	その他の	備考
186	54	土師器坏	解剖3/8	2.517/3	2.517/3	2.515/1	○	石英：透・中普 赤色粒：中・細少 角閃石：細少			11.4		粗粒状形態	輪郭は上段 から2段階 の輪郭部ナメ リ。輪郭部分 を削除。			
187	54	土師器大形	坏2/8	2.516/2	7.518/6	2.515/1		石英：透・中普 赤色粒：中・細少 角閃石：細少					中位で強く 曲して上方 に曲り気味 に強く開く 輪郭はなく 滑らか。円曲部 は無い段位	下半部脱ハ 剥離不明 ケ			
188		土師器大形	器1/4	2.517/3	2.517/3	2.516/1		石英：透・中多 赤色粒：中・細少 角閃石：細少			18.0		縦やかに開 く輪郭ナメ	縦やかに開 く輪郭ナメ	分岐様ハケ		
189	53	ミニチュア	全6/8	2.517/2	2.517/3	7.517/4		石英：透・中普 赤色粒：中		6.2	2.8		粗端に失る。				
190	53	ミニチュア	全1/4	7.517/4	7.517/4	7.517/4		石英：透・中普 赤色粒：中少 角閃石：細普		6.0	3.6		やや肥厚氣味 に輪郭に失る		指オサエ	指オサエ	手づくね成 形
191	55	弥生型?	底盤1/3	2.518/2	2.518/2	2.518/2		石英：透・中少 角閃石：細少			6.7		済手だがや と突出氣味 の平面		指ナメ		
192		土師器大形	口縁1/3	10178/3 ~ 7.517/4	10178/3	2.517/2		石英：透・中普 赤色粒：中少 角閃石：細少			17.5		僅小に内傾す る長い立部 周部は外方に 強く擦む。屈 曲部直形突部 張形包み。	ハケ・突 起狀付後機 ナメ			
196		弥生型?	底盤1/4	7.5186/6	7.5186/6	10178/2		石英：透・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少			11.0		済手だが明 確な平底	ケヌリ			

種類	回版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	馬頭	胎土	口径	高さ	底径	口輪部形態	輪端部形態	内面質感	外面調整	その他	備考
197	55 土鍋	口縁河口/8	10%R/3	10%S/2	5V4/1	石英：中青 紫母：相多 赤色粒：中青 角閃石：細少	石英：粗・中多	32.4			口縁部は強く 折り返し。底部 は肥厚気味に 凹角く終わる。	口縁部は強く 折り返し。底部 は肥厚気味に 凹角く終わる。	口縁部底ナ ド。底面下 半様子目切 き模様オサエ	半球形の体 部	12C後半 ~13C	
198	焼成底口壺	口縁1/9	7.5R/4	7.5R/4	7.5R/4	石英：中青 紫母：相多 赤色粒：中青 角閃石：細少	石英：粗・中多	24.4			口縁部は強く 水平に厚き輪 部は撓み上げ る。	口縁部は強く 水平に厚き輪 部は撓み上げ る。	横ナデ、横ナ ド	横ナデ、横ナ ド	横ナデ、横ナ ド	
199	土師器直口 壺	1/6	7.5R8/8	10%R/4	10%S/1	石英：粗・中多 赤色粒：中青 角閃石：無少	石英：粗・中多 赤色粒：中青 角閃石：無少	17.1			口頭部は直線 的に延び、輪 部内方で小さ く突出。頂部 平出面は長い	口頭部は直線 的に延び、輪 部内方で小さ く突出。頂部 平出面は長い	横ナデ	横ナデ	横ナデ	
200	土師器直口 壺	口縁1/4	7.5R7/6	7.5R7/6	10%S/1	石英：粗・中多 赤色粒：中青 角閃石：無少	石英：粗・中多 赤色粒：中青 角閃石：無少	17.4			口頭部は接続 的に延びる。 輪部は外方に 小さく張り出 して狹い頂部 平出面	口頭部は接続 的に延びる。 輪部は外方に 小さく張り出 して狹い頂部 平出面	横ナデ	横ナデ	横ナデ	
201	50 土師器二重 口縁壺	口縁小片	2.5R6/2	2.5R6/2	2.5R7/2	石英：中・粗 角閃石：細少					明晰な頭部。 尾部は小さく 突出する。 立上り部は鋭 く開き、輪部 は内外に撓み 氣味に凹角 終わる。	明晰な頭部。 尾部は小さく 突出する。 立上り部は鋭 く開き、輪部 は内外に撓み 氣味に凹角 終わる。	横ナデ	横ナデ	横ナデ	
202	土師器小形 丸底土器	口縁壺1/4	2.5R6/2	5V7/1	7.5R6/1	石英：中多 角閃石：細少	石英：中多 角閃石：細少	9.1			手。や内 薄氣味だが強 く開く。輪部 は小さく内面 に凹角。	手。や内 薄氣味だが強 く開く。輪部 は小さく内面 に凹角。	下半體不定 横ナデ、横ナ ド	横ナデ、横ナ ド	横ナデ、横ナ ド	最大径や 高さが同じ 上位指オサ ナ。

神田	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	底質	粘土	口径	器高	口徑部形態	脚部形態	外部調整	内部調整	その他	備考
203	土器高环 灰下輪全 周		10R7/3	10R7/3			石英：粗・中多 赤色粒：細・中少 角閃石：細少				中位で矮やか に屈曲し、輪部はよく開く。	施底板ミガ 施部に横ケ ズリ。				
204	土器高环 脚部3/8		5YR8/8	5YR8/3	5YR8/1		石英：粗・中多			13.6						
205	53 ミニチュア 灰	注書き参考	10R7/4	10R7/4			石英：粗・中粗 赤色粒：中粗 角閃石：細少		4.0	1.6	粗縫に尖る。	指オサエ	指オサエ	手づくね成 形		
206	54 ミニチュア 鉢	金1/5	2.5Y6/2	2.5Y6/2	2.5Y4/1		石英：粗・中多 赤色粒：中粗 角閃石：細少		6.5	5.4	3.9 粗縫に尖る。	指ナデ	指ナデ	手づくね成 形か	平底	ミニチュア の高年少
207	55 ミニチュア 高环	脚部5/6	2.5YR6/8	2.5YR6/8	?		石英：粗・中多			5.6		中実の縫は指オサエで 凹凸強者上 縫に水平に 引き出す。 下部中央は 浅く弱めら	指オサエ			
208	54 土器低脚 灰	脚部3/4	2.5Y7/2	2.5Y7/2	2.5Y7/2		石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細普			4.7		やや小形の 縫合部以上 低い強杯形 脚白。反り 気球に強く 張り出しし 脚部は強く 厚して丸く 斜めら。	脚部に横ナ ギキ、脚 部に横ナデ ナギ			
210	112 小皿	金1/6	2.5Y6/2	2.5Y6/2	2.5Y6/2		石英：細 赤色粒：細少 角閃石：細少		8.4	1.1	5.8 やや反り気味 弱めら。	底部回転済手 切り、物回 軸ナデ			12 ~ 13 C 當半	

標題/図版	岩種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	色調(外)	色調(内)	風化	粘土	口径	基底	口縁部形態	脚部部形態	外観調整	内面調整	その他	備考
212 土師器底口 蓋	土師器底口 蓋	口縁周1/3	2,516/2	2,516/2	7,518/2	7,518/2	?	石英・粗・中骨 赤色粒: 鮎少 角閃石: 鮎少	13.0			脣部から盤舟 に折り返して や内側は に口縁部は長 く延びる。端 部は丸く輪 る。	口縁部横ナ クス、肩形横 ナクス	口縁横ナ クス、肩形横 ナクス			最末期の技 能評估の可 能性も
213 56 土師器底口 蓋	土師器底口 蓋	口縁2/3	2,517/2	2,517/2	2,517/2	2,517/2	○	石英: 中骨 赤色粒: 鮎少 角閃石: 鮎少	11.0			薄手の口縁部 は堅い。端部 には丸く輪 る。	横ナデ	横ナデ			
214 56 土師器底口 蓋	土師器底口 蓋	口縁1/2	2,517/3	2,516/2	2,517/1	2,517/1		石英: 中骨 赤色粒: 鮎少 角閃石: 鮎少	10.7			口縫部は成組 に延びて端部 は尖る。	横ナデ	口縫部横ナ クス、肩部上部 まで横ナデ			
215 56 土師器底口 蓋	土師器底口 蓋	口縁1/3	2,517/2	2,517/2	2,515/1	2,515/1		石英: 中・粗骨 赤色粒: 鮎少 角閃石: 鮎少				口縫部は直線 的で開くが堅 めで強いつら 子をなす。薄 部は内外に少 なく擴み出し て頂部に低い 平坦部	横ナデ	横ナデ			
216 56 土師器底口 蓋	土師器底口 蓋	口縁1/9	5W7/6	5W7/6	5W7/8	5W7/8		石英: 中・粗骨 赤色粒: 鮎少 角閃石: 鮎少	18.0			口縫部は僅か に開き、縫部内 部は細く突 き出でて小さく 内側に突出部 は無い平坦面	横ナデ	横ナデ			
217 56 土師器小形 二重口持蓋	土師器小形 二重口持蓋	口縁目5/8	10YR5/3	10YR5/3	5YR7/8	5YR7/8		石英: 粗骨 赤色粒: 鮎少 角閃石: 鮎少	12.6			低いがやや外 傾する明瞭な 縫部。縫部 は細く立ち て反り気味 部は薄く長い。 薄部は丸く輪 る。	立上り面横 ナクス、肩形横 ナクス、肩部上部 まで横ナデ 後肩上部、 脚部指オサ エ				

地図	図版	基盤	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	色調(外)	基盤	土	口径	口径	口縁部形状	輪郭部形状	外面輪郭	内部輪郭	その他	備考
218	土師器小形 二重口縁器	全1/2	5TR7/6	5TR7/6	10TR5/1	石英：中・多 赤色粒：中普 角閃石：細少	10.1	10.6	明瞭な輪郭部は 無い。周辺部は やや鋸歯状 で、体部横 半周ケズリ 面に僅かに 指サエ。	口縁部に横 デ、体部横 半周ケズリ 他	口縁部横 ナ ナ ナ	山系の岩 層か					
219	50	土師器二重 口縁器	1/8	10TR7/2	10TR7/2	2.5TR7/1	石英：中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	21.2		屈曲部は鋭い 四角と微妙な 凹凸で強烈的 に示される。 輪郭部は肥厚気 味に西丸く削 める。	横ナデ	横ナデ	一重口縁部 の可能性も ある				
220	50	土師器二重 口縁器	1/16	2.5TR7/4	2.5TR6/3	2.5TR7/2	石英：中・多 赤色粒：中・細少 角閃石：細少	26.6		屈曲部は鋭い 四角をなし。 立 上 り 部 は や や 開 く。 輪 郭 部 は 内 外 に 出 し て 平 坦 面	横ナデ	横ナデ					
221	52	土師器大型 二重口縁器	1/4	2.5TR7/2	2.5TR7/2	2.5TR5/1	石英：中・多 赤色粒：中・細少	35.0		立 上 り 部 は 外 側 に 削 り 立 上 り 部 は や や 開 く。 輪 郭 部 は 内 外 に 出 し て 平 坦 面	口縁部横 ナ ハ ケ 後 輪 ナ デ	口縁部横 ナ ア ハ ケ 後 輪 ナ デ					
222	土師器	口縁1/8	10TR6/3	10TR6/3	10TR8/3	石英：中普 赤色粒：中普 角閃石：細少	12.6		口縁部は緩 かに折り返し て開き居る。 輪郭部は僅かに 内方に肥厚気 味に尖る。	豊基部まで 横ナデ	横ナデ						
223	土師器	口縁1/5	7.5TR8/4	2.5TR7/1	7.5TR8/4	石英：中多 赤色粒：中多 角閃石：細少	13.0		口縁部は直線 的に開く。端 部に内方に 肥厚。	口縁部横 ナ デ	口縁部横 ナ ア ハ ケ 前 輪 ナ デ						

種類	固版	表面	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒茎	粘土	口径	器高	底径	口部形態	側面部形態	外面調整	内面調整	その他	備考
224	土輪器裏	口縁1/4	5YR7/4	5YR7/4	2.5YR6/2	石英:粗・中多 赤色粒:中多 角閃石:細少	石英:粗・中多 赤色粒:中多 角閃石:細少	15.3	手の口頭部 は直線的に開 く。端部内方 で小さく突出 つて先端尖 る。頂部平風 面長い。			横ナデ	横ナデ				
225	土輪器裏	口縁2/3	2.5YR6/2	2.5YR6/2	7.5YR5/6	石英:中多 赤色粒:中多	石英:中多 赤色粒:中多	11.6	や円厚の口 頭部は直線的 に開き、端部 内方に小さく 突出しつつ先 端を掩み頂部 平坦基部は長い 楕円形で凹面を なす。			口頭前輪ナ デ。体窓強 度。体窓内位 まで横ナデ オサエ。	口頭前輪ナ デ。体窓強 度。体窓内位 まで横ナデ オサエ。	体窓は丸み に欠け後部 は直線的			
226	土輪器裏	1/3	10YR7/3	10YR5/3	10YR7/2	石英:4多 赤色粒:粗・中少 角閃石:細少	石英:4多 赤色粒:粗・中少 角閃石:細少	15.4	口頭部はやや 内湾気味に延 びる。端部内 方で小さく突 出しある。頂部 平風面長い。 楕円形で凹面 なす。			横ナデ	口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。	口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。			
227	土輪器裏	口縁1/3	10YR6/2	10YR6/2	10YR6/2	石英:中多 赤色粒:中多 角閃石:細少	石英:中多 赤色粒:中多 角閃石:細少	15.8	口頭部は僅か に内湾しつつ 開く。端部内 方で小さく突 出しつつ先端 が済んで凹面 なす。			口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。	口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。	口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。			
228	上脚器裏	口縁3/8	2.5YR6/2	2.5YR6/2	2.5YR6/1	石英:粗・中多 赤色粒:粗・中少 角閃石:細少	石英:粗・中多 赤色粒:粗・中少 角閃石:細少	12.7	僅かに内湾し つつ開く。端部 内方で小さく突 出して凹面 なす。			解剖ハケ	口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。	口頭前輪ナ デ。肩上部 まで横ナデ オサエ。			

種類	固版	板種	既存地	色調(外)	色調(内)	色調(外)	黒斑	治十	口径	器底	口縁部形態	断端部形態	外面調査	里面調査	その他	備考
229	上部器蓋	口縁可1/6	2.5N7/2	2.5N7/2	5N7/8	石英・中等 赤色：中少 角閃石：最少			14.8		頭部はや や内湾氣 味に開く。 部内方で小 さく突出しつ つ。先端は失 る。頂部半出面 長い。頭基部 は四角 形	頭部はや や内湾氣 味に開く。 部内方で小 さく突出しつ つ。先端は失 る。頂部半出面 長い。頭基部 は四角 形	口断端部ナ ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面	口断端部ナ ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面		
230	56	上部器蓋	口縁厚1/4	2.5N6/2	2.5N6/2	石英・中多 紫母：中少 赤色：中少 角閃石：最少			13.4		口頭部は僅か に内湾氣味に 開く。溝部内 部内方で小さく突 出して頭部平 出面はやや長 い。頭基部は 強い楕円形 凹面をなす。	口頭部は僅か に内湾氣味に 開く。溝部内 部内方で小さく突 出して頭部平 出面はやや長 い。頭基部は 強い楕円形 凹面をなす。	ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面	口断端部ナ ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面		
231	56	土師器蓋	口縁厚1/2	2.5N6/3	2.5N6/1	石英・板：中少 紫母：中少 赤色：中少 角閃石：最少			15.7		やや内原の口 部は内湾氣 味に開く。溝 部内方で小さく 突出しつ つ。先端は失 る。頂部半出面 長い。頭基部 は四角 形	やや内原の口 部は内湾氣 味に開く。溝 部内方で小さく 突出しつ つ。先端は失 る。頂部半出面 長い。頭基部 は四角 形	口断端部ナ ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面	口断端部ナ ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面		
232	上部器蓋	口縁厚1/2	10N7/2	10N7/2	10N8/2	石英・粗・中等 赤色：中少 角閃石：最少			16.5		口頭部は内湾 氣味によく開 き、溝部内方 は僅か突出 しつつ先端を 揃む。頭部平 出面は長い。	口頭部は内湾 氣味によく開 き、溝部内方 は僅か突出 しつつ先端を 揃む。頭部平 出面は長い。	ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面	口断端部ナ ハケ後端 部、脣部横 部、脣部側 面		

標題	図版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒茎	船土	口径	器高	底径	口輪部形態	周邊部形態	外面部調整	内面部調整	その他の	備考
233	土輪器小形 丸底土器	体中1/4	10W5/2	7.5W7/3	7.5W5/1		石英：粗・中多 赤色粒；粗・中 角閃石；粗・中 少					肩部張ハケ 後中位以下 指サエ					
234	土輪器盤?	体端1/3	10W7/2	10W5/3	2.5W5/2	○	石英：粗・中多 角閃石；粗・少					横ケズリ後 角上部擴ナ チ	やや扁平な 底部形態 身部形態				
235	土輪器蓋?	肩1/6	2.5W5/2	2.5W6/3	7.5W6/2		石英：粗・中多 赤色粒；粗・中 角閃石；粗・少					横ケズリ後 角上部擴ナ チ	前の張り やや強い 上唇部指サ エ				
236	土輪器蓋	肩1/9	2.5W5/2	2.5W6/3	2.5W4/1		石英：粗・中多 赤色粒；粗・少					縦ケズリ後 横ケズリ後 上半部擴ナ チ	前部まで横 張り後上 な沈幅1枚				
237	土輪器蓋	体上半1/4	10W7/4	10W7/2	2.5W4/1		石英：粗・中多 赤色粒；粗・少					口輪部張 後部指サ エ	耳部に張り 弱い。背部 に粗鈍な沈 幅1枚				
238	57 土輪器小形 丸底土器	全9/10	2.5W7/2	2.5W6/3	5W3/2	○	石英：粗・中多 赤色粒；粗・少		7.4	7.7		肩部張ハケ 後中位以下 不特定方向の 指サエ					
239	57 土輪器小形 丸底土器	全3/4	7.5W7/2	7.5W7/2	10W8/2	○	石英：粗・中 赤色粒；粗・少		8.1	7.3		口輪部はや く開き 漏斗尖る。	下半部不定 指サエ	全体に内厚 ケズリ			
240	土輪器小形 丸底土器	体部4/5	2.5W6/2	2.5W6/2	7.5W6/1	○	石英：粗・中多 赤色粒；粗・少					肩部張ハケ 下半部擴ハ ズリ後部指 サエ。					
241	53 ミニチュア 全5/6	2.5W7/2	10W7/3	2.5W3/4	○	石英：粗・中多 赤色粒；粗・少			3.9	5.6		やや肥厚気味 で相当地に丸く 綺めら。	指サエ	手づね成 形			

井番	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	底土	底土	口径	器形	底径	口縁部形状	輪ぬき形状	外面調整	その他の 特徴	備考	
242	54	土唇唇延唇 杯	唇部完全保存	10765/1	10765/2	10765/1	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	6.7	低い側軸形 脚部に横ナード 脚部・杯部 く盛り輪部 は膨脹気味 に丸く終わ る。	脚部形 脚部・杯部保 持ナード ミガキ	脚部・杯部保 持ナード ミガキ	脚部・杯部保 持ナード ミガキ	脚部保持ナード ミガキ	脚部保持ナード ミガキ	脚部保持ナード ミガキ	脚部保持ナード ミガキ
243	57	土唇唇小形 鉢	3/8	7.5R7/4	7.5R7/4	7.5R6/1	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	14.2	4.3	小さく尖る。	横ナード？	横ナード？	浅い。			
244	57	土唇唇高杯 杯輪1/3	2.5R7/3	10765/3	5R7/1	5R7/1	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	16.2	中位で鋸やかに 弧がり気 輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	
245	57	土唇唇高杯 全2/3	2.5R7/2～ 5R7/8	2.5R4/1	2.5R4/1	2.5R7/2～ 7.5R7/8	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	16.0	10.7	11.1	弧がり気 輪の輪部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード	輪部保持ナード 下半部保持 ナード
246	57	土唇唇大形 杯2/3 高杯		2.5R6/2～ 5R7/6	2.5R6/2	2.5R6/2～ 5R7/6	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	25.6	中位で鋸曲 し 上半部は強 く外反して 両 側部は丸く 輪部は丸く 輪部はやや斜 め。	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	
247		土唇唇大形 高杯	1/8	2.5R6/2	5R7/2	5R5/1	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	23.0	中位で強く屈 曲して 上半部 は強く外 反。 底部は丸く 輪部は丸く 輪部はやや斜 め。	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	上半部保持ナ ード 下半部保持ナ ード	

標識	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒斑	胎土	口径	底高	口端部形態	脚窓部形態	外面彫鑿	内部彫鑿	その他	備考
248	57	土輪器大形环2/3 高环	2.576/8 ~ 1076/2	1076/2	1075/1	石美：粗・中多 赤色粒：粗；中普 角閃石：細板少	29.6	中位で強く屈曲して上半部 は外反。腹部 は丸く折れ 直上の凹線で 筋飾部の接 強調。			上半部斜面 にハケ後傾 部不明					
249	58	土輪器高环 环1/4	2.576/2	1076/3	1076/1	石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細板少	15.4				結合部にケ ズリ、軒部 横ナデ					
250	58	土輪器高环 环1/3	2.576/3	2.576/3	2.576/1	石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細板少	15.5	中位で僅かに屈曲して上半部 は直線的によく開 く。腹部 は尖り気味。			下半部腹面 にハケ後傾 部ナデ。					
251	58	土輪器高环 环3/8	577/2	2.577/2	2.576/1	○ 石美：中・普 赤色粒：粗少	16.4	中位で屈曲し て上半部は直 線的に開く。 腹部は丸く折 れる。			脇曲部側面 にケズリ、軒部 横ナデ					
252	58	土輪器高环 环2/3	2.577/3	2.577/3	1072/3	石美：粗・中多 赤色粒：中多 角閃石：細少	16.2	中位で強く屈 曲して上半部 はよく開く。 腹部は丸く折 れる。			下半部腹面 にハケ後傾 部ナデ					
253	58	土輪器高环 环1/4	2.577/3	2.576/2	2.576/1	石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	15.8	中位で輪や小 輪上部部に屈曲して上 半部は直線的 によく開く。 腹部は丸く折 れる。			輪上部部に ハケ後傾ナ デ。					
254	58	土輪器高环 环1/4	2.577/2	2.576/2	7.576/6 ~ 2.576/2	石美：粗・中多 赤色粒：粗；中普 角閃石：細板少	16.6	中位のかすか な脚窓部を強 めて上半部はよ く開く。腹部 は丸く折れる			結合部ケズ リ後に下半 部斜切欠頭 ハケ。軒部横 ナデ。					

種類	回数	番号	現存度	色調(外)	色調(内)	断面	形状	口径	器高	底径	上端部形状	外観調査	内面調査	その他	備考
255	55	土器器高环	坏下半小片	101R7/3	101R7/1	石英：中・多赤色粒：中少 赤色粒：中少 角内石：細少					外底面に輪状 輪接合部に 地状器具押 圧軸溝	外底面に 輪状器具押 圧軸溝	外底面に貼付 して成形		
256	55	土器器高环	坏下半1/4	2.576/3	2.576/4	石英：中少 赤色粒：中少 赤色粒：中少 角内石：細少少					中位で僅かに 横曲し、つづく上 半部はよく開 く。	複合部縁ヶ ズリ後縫ハ 状別突痕、 輪部の接 合面に地溝 み。			
257	55	土器器高环	坏下半3/4	2.577/3	2.577/3	石英：中少 赤色粒：中少 赤色粒：中少 角内石：細少少					中位で僅く屈 曲して上、下部 はよく開く。	複合部縁ヶ ズリ後縫ハ 状別突痕、 輪部の接 合面に地溝 み。			
258	55	土器器高环	坏下半1/3	101R7/3	101R7/3	石英：中・多 赤色粒：中少					中位で僅やか に湾曲して上 半部は頗く開 く。	複合部縁ヶ ズリ後縫ハ 状別突痕、 輪部の接 合面に地溝 み。			
259	55	土器器高环	坏下半3/4	101R8/3	101R8/3	石英：中多 赤色粒：中少 赤色粒：中少 角内石：細少少					中位で僅やか に湾曲する。	複合部縁ヶ ズリ後縫ハ 状別突痕、 輪部の接 合面に地溝 み。			
260	55	土器器高环	坏下半輪 1/2	7.5R7/4	51R6/6	51R6/4					中位で僅やか に屈曲して上 半部は開く。	輪部に裂け 半部に裂け 輪部内面横ヶ ク、杯上半 部形成。輪 部に地溝 みを載せ杯 内面成形			
261	59	土器器高环	脚部7/8	101R7/3	101R7/3	石英：中・多 赤色粒：中少 角内石：細少少					幅広がり気 味の輪部から も縫やかに 屈曲して脚 部は直線 的に開く。 縫部は四角 く紛める。	輪部縫 ヶ ズリ後縫ハ 状別突痕ナ ド			

番号	図版	岩種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒斑	粘土	口径	管径	口部形態	開端部形態	外因調整	内面調整	その他	備考
262		土筋器窓	脚部3/8	2.5/5/3	2.5/5/2	2.5/5/1	石英：粗・中多 赤色粒；粗・中多 角閃石；細少			11.4						
263	59	土筋器窓	坏下半脚 3/8	10%6/3		10%6/3	石英：粗・中多 素母；中少 赤色粒；粗 角閃石；細少		11.0			端部上・半 横 味の輪部が 折下半部組 から屈曲して ハケ、輪下 ト溝状は前 半部像ミガ 後部は直線 像。輪部 ハケ く崩れる。				
264	55	土筋器窓	坏下半脚 3/8	7.5/5/7/6	10%6/1	10%6/1	石英：粗・中多 赤色粒；中粗					端部に横 味の輪部が 折下半 横 味やかに カキ。輪合 部像ハケ 部は直線 像で四角 輪部は四角 く崩れる。				
265	55	土筋器窓	坏下半脚全 周	2.5/5/2	10%6/3	7.5/5/6/4 ~2.5/5/2	石英：粗・中多 赤色粒；中少 角閃石；細少					端部下半 横 味やかに カキ。輪合 部像ハケ 部は直線 像で四角 輪部は四角 く崩れる。				
266	55	土筋器窓	坏下半脚全 周	2.5/5/2~ 7.5/5/7/6	2.5/5/1	2.5/5/1	石英：粗・中多 赤色粒；中粗 角閃石；細少					端部下半 横 味やかに カキ。輪合 部像ハケ 部は直線 像で四角 輪部は四角 く崩れる。				
267	55	土筋器窓	坏下半脚 3/8	10%6/3	7.5/5/6/2	7.5/5/6/2	石英：粗・中多 赤色粒；粗・中多 角；細少					端部に横 味の輪部が 折下半 横 味やかに カキ。輪合 部像ハケ 部は直線 像で四角 輪部は四角 く崩れる。				
268	59	土筋器窓	脚部全周	10%7/2	10%7/2	10%7/2	石英：中・細 赤色粒；中少 角閃石；細少			11.0		端部に横 味の輪部が 折下半 横 味やかに カキ。輪合 部像ハケ 部は直線 像で四角 輪部は四角 く崩れる。				

番号	固版	弱版	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(新)	黒透	粘土	口径	砂岩	灰岩	口縫裂形態	輪縫部形態	外頂縫合	内面縫合	その他	備考
269												輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は四角 く折れる。	輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は四角 く折れる。	気、周囲に ケズ有り原体 の状状。			
270	土師器窯 坏下半輪 1/3			10786/4	5/576/6							輪広がり気 味の輪縫か ら原曲して 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は四角 く折れる。	輪合部縫ハ 輪広がり気 味の輪縫か ら原曲して 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は四角 く折れる。	輪広がり気 味の輪縫か ら原曲して 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は四角 く折れる。			
271	土師器窯 坏下半輪 5/8			10786/3	10786/3	○	石英・粗・中多 角閃石・繊板少					輪広がり気 味の輪縫か ら原曲して 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は四角 く折れる。	輪広がり気 味の輪縫か ら原曲して 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。	輪広がり気 味の輪縫か ら原曲して 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。 輪縫部は直 線的に開く。			
272	土師器窯 坏下半輪全 周			7.5/R7/6	7.5/R5/1		石英・粗・中多 赤色粒・中・多 角閃石・繊少					輪広がりの 輪縫部下半・ 軸部上部縫 やや屈曲し 輪縫部から縫 から縫ら縮 る。	輪部下半・ 軸部上部縫 やや屈曲し 輪縫部から縫 から縫ら縮 る。	輪部下半・ 軸部上部縫 やや屈曲し 輪縫部から縫 から縫ら縮 る。			
273	土師器窯 坏下半輪全 周			2.5/R7/2	2.5/R5/1	○	石英・中・細多 赤色粒・中少 角閃石・繊少					中位で強や く屈曲して上 部はよく開 く。	輪合部縫ケ ズリ軸部縫 ケズリ原体 の状状。	輪合部縫ケ ズリ軸部縫 ケズリ原体 の状状。			

番号	図版	岩種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒斑	胎土	口径	直径	口縁部形態	脚端部形態	外面調整	内面調整	その他	備考
274		土師器高坏 脚部1/2	1076/3	576/8	576/6	576/6	石英：粗・中多 赤色粒：中少 内凹石：細少		11.6		やや幅広がく 脚部から屈曲 して脚端部 は直線的に 聞く。脚部 は四角く折 める。					
275	60	土師器高坏 脚部6/3	1076/3	2.577/2	1076/3	石英：粗・中多 赤色粒：中少 内凹石：細少			12.0		幅広があり 脚部に横ケ ズリ、脚部 から屈曲 して脚端部 は直線的に 聞く。脚部 は四角 く折れる。					
276		土師器高坏 脚部3/4	1076/3	1076/1	1076/1	石英：中粗 赤母：細少 赤色粒：中少 内凹石：細少			11.0		幅広があり 脚部から屈 曲して脚端 部は直線的 に聞く。脚 部は丸く 折れる。					
277		土師器高坏 脚部全周	2.576/3	2.576/4	7.576/4	石英：粗・中多 赤色粒：中少 内凹石：細少			11.3		幅広があり 脚部から屈 曲して脚端 部は直線的 に聞く。脚 部は四角 く折れる。					
278		土師器高坏 坏下半周	3/6		1076/2	1076/2	石英：粗・中多 赤母：細少 赤色粒：中少 内凹石：細少		10.1		幅広があり 脚部から屈 曲して脚端 部は直線的 に聞く。					

種類	図版	岩種	異存灰	色調(外)	色調(内)	毛量(%)	黑度	粘土	口径	群高	底状	口縁部形態	輪縫部形態	外面調整	内面調整	その他の 特徴	備考		
279	土器脚高环 輪5/8	10N7/3	10N7/3	7.5TB8/6	石英:粗・中多 石英:中・細多 角閃石:細少							やや瘤山が 軸部に現 る。輪縫部か ら斜曲して 傾く。	輪縫部が 軸部から 斜曲して 傾く。	輪縫部が 軸部で收 められ端部 を残す。合 して底形 輪部折オサ エ。輪上面 の輪面に 差別み	輪縫部が 軸部で收 められ端部 を残す。合 して底形 輪部折オサ エ。輪上面 の輪面に 差別み				
280	須恵器茎 口縁1/12	N4/0	N4/0	2.5TB1/1	石英:粗・中普 黑色消褪粒 赤色粒:中少	24.2								圓輪ナデ	圓輪ナデ	7代?			
281	土器低脚輪部1/3 坏?			7.5TB8/6	石英:粗・中普 赤色粒:中少											形状は低脚 杯だが輪辺 が大きい。			
282	60 須恵器唇 口縁3/4	10T5/1	10T5/1	10T5/1	石英:中多 黑色消褪粒 赤色粒:細少	9.6								口縫部はや や外側気味に立 ち上がり輪部 は小さく外反 して尖る。	口縫部回転 ナデ	口縫部回転 ナデ	平板8°C		
283	55 上端 口縁1/8	5T7/2	5T7/2	5T6/1	石英:中多	31.2								口縫部は短 く直線的に延 びる。輪部は横 か上げて直立 する輪面。	口縫部横ハ ケ、口縫部 横ハケ後施 用のみ、体幅 輪部後上 端横ナデ。			10~11°C	
284	113 瓦質コホ林 口縁1/12	10T5/1	10T6/1	7.5T5/1	石英:粗・中多	31.8								口縫部は短 く肥厚して輪部 内方がやや尖 る。輪部外側 の凹輪。	横ナデ・オ ロシ目	横ナデ	輪井Ⅲ 15°C~後 期		
285	須恵器坏 口縁小片	N5/0	N5/0	N7/0	石英:細少									薄手。口縫部 は肥厚する。	横ナデ				

種別	回数	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒度	胎十	口径	器高	底径	口縁部形態	側縁部形態	外面部調整	内面部調整	その他	備考
285	112	瓦質輪	口縁1/8	5YR/1	5YR/1	5YR/1	石英：細少 角内石：細胞少	14.6				僅かに内青気 味によく開き 端部は丸く約 めら。	回転ナデ	回転ナデ	ナデ後ミガ キ	十根原系須 恵器柄西村 7~8期 13C前半	
287	112	瓦質輪	口縁1/5	5YR/1	5YR/1	5YR/1	石英：細少	14.1				僅かに内青気 味によく開き 端部は丸く約 めら。	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	十根原系須 恵器柄西村 7~8期 13C前半	
288	60	瓦質輪	完形	NR/0	NR/0	NR/0	石英：細少	14.4	5.6	4.5	4.5	僅かに内青気 味に後く開き 端部はやや尖 る。	回転ナデ下 端に指オサ 工機部は底部外 縁に付す。	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	十根原系須 恵器柄西村 8~9期 13C中葉
289	112	瓦質環	全1/3	5YR/2	5YR/2	5YR/2	石英：細少	12.0	2.9	8.4	8.4	底部から縫 合部は反り氣 味に開く。端 部丸く約めら る。	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	13C前半
290	新生葉	口縁1/8	7.5TR7/6	7.5TR7/6	5TR7/8	5TR7/8	石英：中少 赤色粒：細胞少 角内石：細胞少	15.0				強く折り返し て口縁部は切 く開く。端部 は四角く約め らる。折り返し 部内面に強い 縫	横ナデ	横ナデ	横ナデ	下川津B類	
291	55	新生葉	底部3/4	10TR2/1	10TR2/1	5TR6/4	石英：細少 角内石：細胞少					津手で小形 底面ミガキ 接ケスリ後 指オサエ。				下川津B類	
292		上輪器底口 皿	口縁2/8	7.5TR2/1	5TR2/4	5TR2/4	石英：中少 角内石：細少	14.4				口縁部は直線 的に開き、端 部内方に突出 し先端ナデで 端部角い凹 面	横ナデ	横ナデ	横ナデ	指オサエ・ 横ハケ等に 接ケスリ後 指オサエ	

種別	剖面	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒茎	茎土	口径	器高	口縁部形態	阿那部形態	外面調整	内部調整	その他の 備考
293	37	土師器二重 口縁	口縁1/8	7.5RS7/6	7.5RS5/6	7.5RS5/6	石英・粗・中 細多 赤色粒:中普 角閃石:細少		15.2	強く屈曲し立 り部はやや 弱く。屈曲部 は強く突出し て明瞭な段。 筒部内方は突 出	横ナデ	横ナデ			
294		土師器二重 口縁	口縁1/10	10RS7/4	7.5RS6/6	2.5RS7/4	石英・粗・中普 赤色粒:粗 角閃石:細少		16.6	屈曲部は純化 し外来的凹線 に転化。立上 り部は外傾し て筒部内方に 強く突出	横ナデ	横ナデ			
295		土師器二重 口縁	口縁1/10	5RS6/6	7.5RS6/6		石英・中多 角閃石:細少		17.8	強く屈曲し立 り部は外反 して弱く。屈 曲部は強く突 出。筒部内方 は突出	横ナデ	横ナデ			
296	37	土師器二重 口縁	口縁1/8	2.5RS7/6	2.5RS6/4	2.5RS6/2	石英・中多 赤色粒:中細 角閃石:細少		18.0	屈曲部は純化 し外傾する立 り部下端の 凹線に転化。 筒部は小さく 内方に突出。	横ナデ	横ナデ			
297	37	土師器二重 口縁	口縁1/8	7.5RS5/8	7.5RS5/8	10RS6/6	石英・中多 角閃石:細少		18.0	屈曲部が弱い段 を成す。立上 り部は反り氣味 に立ち上がり 筒部内方は純 く突出	横ナデ	横ナデ			
298	37	土師器二重 口縁	口縁1/8	5RS5/8	5RS5/8		石英・粗・中少 赤色粒:中普 角閃石:細少		21.3	強く屈曲し立 り部は外反 して弱く。屈 曲部は強く突 出。筒部内方 は突出して強	横ナデ	横ナデ			

番号	図版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	毛剥離	黒苔	粘土	口径	器高	底径	口縁部形態	外縁部形態	内縁部形態	脚部形状	その他	備考
299	37	土師器二重 口縁蓋	口縁 1/9	7.5YR6/6	7.5YR6/6		石英・粗・中皆 系色斑	石英・粗・中皆 角閃石	22.0			いの原部平底面	横ナデ	横ナデ			
300	37	土師器	口縁 1/9	10YR7/4	7.5YR6/6	7.5YR5/8	石英・粗・中皆 角閃石	石英・粗・中皆 角閃石	14.3			口原部はや り反して開 き端部内方に 小さく突出して 底部は斜く肥 厚して四角く 削める。底面 は直線的で2条 の凹溝	口縫跡横ナ デ	口縫跡横ナ デ	ア・肩部折 オサエ		
301	37	土師器	口縁 1/10	7.5YR6/6	7.5YR6/6		石英・粗・中多 角閃石	石英・粗・中多 角閃石	15.6			口縁部は直線 的に開き端部 は小さく内方 に突出	口縫跡横ナ デ	口縫跡横ナ デ			
302	37	土師器	口縁 1/12	5YR5/6	10YR6/3		石英・粗・中皆 角閃石	石英・粗・中皆 角閃石	15.9			口縁部は直線 的に開き端部 は丸く折れ つ内方に小さく 突出。折り 返し部内面に 鋸い棱	横ナデ	横ナデ			
303	37	土師器	口縁 1/8	5YR7/8	5YR7/8		石英・粗・中皆 角閃石	石英・粗・中皆 角閃石	16.4			口縁部は直線 的に開き端部 は丸く折れ つ内方に小さく 突出。折り 返し部内面に 鋸い棱	横ナデ	横ナデ			
304	37	土師器	口縁小片	7.5YR5/6	7.5YR5/6	7.5YR5/6	石英・中多 角閃石	石英・中多 角閃石				口縁部は直線 的に開き端部 は小さく内方 に突出	口縫跡横ナ デ	口縫跡横ナ デ			

種類	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	黒面	粘土	口径	器底	脚部形状	外沿頭部	内面頭部	その他	備考
305	37	土師器蓋	口縁小片	7.5T2/3	10T2/4	5T2/4	石英：中・細 角閃石：細少			口縫部形態 脚部ははぼ 並縫部内方に開 く突出。頭部 部強い。頭部 で低い凹面	横ナデ	横ナデ		
306	37	土師器蓋	口縁1/7	10T5/8	2.5T6/4	2.5T6/3	石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	14.6		口縫部ははぼ 並縫部内方に開 く突出しつつ先 端失る。頭部 部強い。頭部 で凹面	口縫部は横 ハケ後縫 ナデ	口縫部横ナ デ		
307	37	土師器蓋	口縁1/8	10T8/7	6	5T8/6	石英：稍多 角閃石：細少	13.4		口縫部は直縫 的に開く縫部 は小さく内方に 突出	横ナデ	横ナデ		
308	37	土師器蓋	口縁1/4	10T8/7	4	10T8/7	石英：中粗 角閃石：細少	15.2		口縫部は直縫 的に開き縫部 は丸く斜めの 頭部強い横 ナデで真ん凹 面	口縫部横ナ デ体部深ハ ケ	口縫部横ナ デ、体部上 部指サエ		
309	39	土師器蓋	肩1/8	5T8/6	10T8/4	2	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少					周形横ハケ	周形横オサ	肩部に粗縫 な×状比較
310	37	土師器蓋	肩1/8	2.5T7/4	2.5T6/3	2.5T6/2	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中骨 角閃石：細少						肩横ケズリ	
311	37	土師器蓋	口縫肩1/5	10T8/4	10T8/5	4	石英：粗・中多 角閃石：細少	14.2		口縫部は直縫 前に開き縫部 は内方に突出。	口縫部は横 ハケ、体部横 上半横ハケ 後縫ナデ	口縫部横ハ ケ		

種類	回数	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒玉	地上	口径	器高	底径	口縁部形態	胸窓部形態	外面調整	内部調整	その他	備考	
312	38	土師器蓋	「口縁厚」/5	7.5RE/4	7.5RE/6				石英：粗・中皆 赤色斑：中皆	14.3		口縁部は直線 口縁部は直線 口縁部は直線	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ
313	38	土師器蓋	「口縁厚」/2	5TR5/8	5TR5/8	5TR5/8	10TR5/6	7.5TR5/8	石英：粗・中皆 赤色斑：粗少 角内石：細少	16.2		口縁部は直線 口縁部は直線 口縁部は直線	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	
314	39	土師器蓋	肩1/6	5TR5/6	5TR5/6	10TR5/6	7.5TR5/8	石英：粗・中皆 赤色斑：粗少 角内石：細少				口縁部は直線 口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ		
315	39	土師器蓋	肩小片	5TR5/6	5TR5/6	7.5TR5/6	5TR5/6	石英：粗・中皆 赤色斑：粗少 角内石：細少				口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ		
316	39	土師器蓋	肩小片	7.5TR5/6	7.5TR5/6	10TR5/6			石英：粗・中皆 赤色斑：粗少 角内石：細少			口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ		
317	39	土師器蓋	肩小片	10TR5/4	10TR5/2				石英：中皆 角内石：細少			口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ	口縫部横ナ ア。体部上 半側ハナ後 肩上部横ハ ケ		
318	39	土師器小形 丸底土器	口縁厚1/4	5TR5/8					石英：粗・中皆 赤色斑：粗少 角内石：細少	7.2		直い口縁部 直い口縁部	直い口縁部 直い口縁部	直い口縁部 直い口縁部	直い口縁部 直い口縁部	直い口縁部 直い口縁部		
319	39	土師器小形 丸底土器	口縁1/8	5TR5/6	7.5TR5/6			石英：粗・中皆 赤色斑：粗少 角内石：細少	7.8		直く直線的に 開く口縁部 やや開く口縁部 は丸く統合する。	直く直線的に 開く口縁部 やや開く口縁部 は丸く統合する。	直く直線的に 開く口縁部 やや開く口縁部 は丸く統合する。	直く直線的に 開く口縁部 やや開く口縁部 は丸く統合する。	直く直線的に 開く口縁部 やや開く口縁部 は丸く統合する。			

種類	固形	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(底)	底	胎土	口径	器高	底径	口縁部形状	輪邊部形状	外周輪數	内部輪數	その他	備考
320	土製器小形 灰陶土器	体部 2/8	57RS/8	7.57RS/4	57RS/8	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少						周部膨大ハケ 中位に複数 指ササエ			周辺部が 最も膨大で厚 り強い。		
321	38 土製器小形 灰陶土器	体部 1/2	10RS7/6	57RS/8	2.577/4	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少						上半部にナ メ、下部指 ササエ			周辺部の 下半部にナ メ。		
322	土製器小形 灰陶土器	口縁部 1/5	7.57RS/6	7.57RS/6	7.57RS/6	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少	9.5					指ササエ					
323	38 土製器小形 灰陶土器	高正透 4/8	57RS/8	57RS/8	57RS/8	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少						口縁部は堅く 立ち上がり薄 部尖る。					
324	39 土製器小形 鉢	金 6/8	10RS7/6	57RS/8	57RS/8	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中青 角閃石：細少		11.2	4.2		口縁部は薄く 尖る。					
325	土製器小形 鉢	全 1/6	10RS7/6	57RS/8	57RS/8	石英：粗・中青 角閃石：細少						口縁部消失。					
326	39 土製器小形 完形		10RS6/4	10RS6/4	10RS6/4	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少		15.4	4.8		口縁部丸く銷 める。			底部ケズリ 捻ナデ 後以上は横 ナデ		
327	土製器大形 二重口鉢	口縁 1/12	57RS/8	57RS/8	57RS/6	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少						やや内張氣味 の立上り筋。 渦部は外方に 張り気味に圓 角く銷める。			捻ナデ		
328	土製器・大・肩小片 形蓋		10RS/6	57RS/8	57RS/8	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少						横ハケ			斜ハケ後上 端折損ハケ		
329	土製器 鉢	1/8	57RS/6	57RS/6	10RS4/2	石英：粗・中多 赤色粒：粗著 角閃石：細少						二重口鉢形態 全く退化し ては外次の肩 部に転化。頭					

接頭	図版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	黒茎	灰土	口径	器高	底径	口唇部形態	輪邊部形態	外面彫刻	内面彫刻	その他	備考
330	39	土輪器直輪輪全周 环	10W7/6	5YR5/8	5YR5/8	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中少 角閃石：細少					部は内方に柔 り気味に凹内 く納める。					
331	38	土輪器直輪环1/3	7.5YR5/8	7.5YR5/8	7.5YR5/8	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中少 角閃石：細少		25.6	7.8		低いが強く輪 辺に張った輪 ハ字状の輪 白。端部は 丸く納める	指ササエ後 横ナデ	指ササエ後 横ナデ			
332		土輪器高环 环上半小片	10YR5/6	10YR5/6	10YR4/3	石英：粗・中粗 赤色粒：粗・中粗 角閃石：細少					中位で強く屈 曲し上半部は 強く外反して 開く。且台部 は段をなし、 端部は尖る。					
333	38	土輪器高环 环1/2	10W7/4	2.5Y7/6	2.5Y7/6	石英：粗・中多 黄母：粗少 角閃石：細少			14.9		杯底部から腰 部にかけて強 く屈曲し、腰部 は小さく仄 りつつ開き縮 む。	横ナデ	横ナデ			
334	38	土輪器高环 环1/2	7.5YR5/8	7.5YR5/8	2.5Y4	石英：粗・中多 角閃石：細少					杯底部から腰 部にかけて強 く屈曲し、腰部 は小さく仄 りつつ開き縮 む。	輪頂部彫 輪底部彫 輪から張り足 して杯部成 形。輪頂部 に円盤狀付				
335		土輪器高环 輪全周	7.5YR6/8	7.5YR6/8	7.5YR5/8	石英：粗・中多 角閃石：細少					中位で強やか に弯曲して上 半部はよく開 く。					
336		土輪器高环 輪2/3	10W7/6	5YR5/8	5YR4/6	石英：粗・中 赤色粒：粗・中少 角閃石：細少					裾広がり氣 味の輪部	輪部に横ケ アリ	輪部に横ケ アリ			

擇固	因版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒茎	船上	口径	體高	底径	口沿部形態	輪縁部形態	外面部調査	内面部調査	その他	備考
337	十脚器高环 脚下半輪全 開	十脚器高环	57RS5/8	57RS5/8	10TR7/6	10TR7/6	石美・中多 赤色粒・中少 角閃石・細少					輪部に縱ミ ガキの輪部。	輪部下横 ケスリ。上 半斜め状刺 突痕。				
338	土脚器高环 脚趾1/4	土脚器高环	7.5TR5/6	7.5TR5/6	7.5TR5/6	7.5TR5/6	石美・中多 赤色粒・中少 角閃石・細少		9.1			輪部から縫 やかに外反し して施部が やかに凹出 する。施部 部に円滑透 かし2孔。	輪部に縫ケ ズリ、施部 横ノハゲ。輪 上深絞目 残る。				
339	土脚器高环 脚4/1	土脚器高环	7.5TR6/8	7.5TR6/8	10TR8/4	10TR8/4	石美・中多 赤色粒・中少 角閃石・細少			12.2		輪部から縫 やかに凹出 して開く。 施部尖。	輪部に縫ケ ズリ、施部 横ノハゲ				
340	十脚器高环 脚趾全周	十脚器高环	10TR5/8	10TR5/8	10TR5/8	10TR5/8	石美・中多 赤色粒・中少 角閃石・細少		9.1			輪部から縫 やかに外反 して施部が やかに凹出 する。施部 部に肥厚突出 に尖る。	輪部に縫ケ ズリ。施 り目残る。				
341	土脚器高环 脚1/8	土脚器高环	7.5TR6/6	5TR5/6	7.5TR7/6	7.5TR7/6	石美・中多 赤色粒・中少 角閃石・細少			11.4		輪部から縫 やかに凹出 して開く。 施部はえぐ 断める。	輪部に縫ケ ズリ、施部 横ノハゲ				
344	39 土脚器ミニ チュア体	完形	2.5TR7/6	10TR6/3			石美・中多 角閃石・細少		6.0	3.1	0.7	半球形の体部 で口縁端部は 小さく突出 す。	指ササエ	手づくね感 觉			
370	土脚器高环	脚上半1/9	5TR6/8	6TR6/8	7.5TR6/1	7.5TR6/1	石美・中多 赤色粒・中少 角閃石・細少					外反して開き 施部は小さく 反りつ回角 く折れる。					

種類	回数	基盤	残存灰	色調(外)	色調(内)	色調(内)	口径	胎土	高さ	直径	上腹部形態	胸腹部形態	外面調整	内面調整	その他	備考
371		土器器高环	坏 1/6	7.5N6/6	7.5N7/6	7.5N6/2	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少	16.7	中位で縦や少 に横曲して上 部は反り乳 彌丸くねめる。							
372		土器器高环	坏上半 1/6	7.5N6/6	10T7/4		石英：中多 角閃石：細少	15.5	中位の屈曲は ひどく純化 口神経で僅か に反り汽味に 聞く。溝跡丸 くねめる。			縫ハケ後填 ナデ				
373	62	十輪器高环	胎全周	5N6/8	5N6/8		石英：粗・中多 赤色粒：粗中皆 角閃石：細少					やや組身の 輪感。上滑 地状判定致	横ケズリ			
374	62	土器器高环	胎全周	10T5/6	10T5/6	10T5/6	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少					粗ばがり気味 の輪部	組ミガキ	横ケズリ		
375	62	土器器高环	坏下半輪 2/8	7.5N6/8	7.5N7/6	7.5T2/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少					粗ばがり氣 味の比較的 無身の輪部				
376		土器器小形	体削 1/3	10T5/6	2.5T8/4		石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少					縫底部の脇り 込み戻し	縫ハケ後削 ナデ			
377	62	土器器小形	体削全周 丸底十脚	7.5N6/6	7.5N6/4	7.5N6/8	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少					中位以下削 テスリ。底 面指オサエ 仕詰	上半部指オ サエ、下半部 指オサエ 凹凸顯著		
378		十輪器高	口輪 1/10	5N5/6	10T6/8	7.5N4/6	石英：粗・中多 赤色粒：粗中皆 角閃石：細少	15.6				口縫端部は内 方に突出しつ て頂部平坦 長い。				

種類	回数	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(筋)	黒度	粘土	口径	唇部	底径	口縁部形態	脚輪部形態	外観調査	空間調査	その他	備考
379	62	土輪器裏	口縁周1/8	7.5TBS/6	10TBS/6	5TBS/6	石美：粗・中多 赤色粒；薄板少 角閃石；細少	21.0	口縁部は直線 的に長く延びる。薄部は内 方に小さく突 出。	口縁部横ナ ハケ。体部上 半部ハケ無 し。体部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。体部上 半部ハケ無 し。体部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。体部上 半部ハケ無 し。体部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	よく張った 周部				
380		土輪器大形	全体2/8	7.5TBS/8	10TBS/8	5TBS/6	石美：粗・中多 赤角閃石；細少	10TBS/4	直線的に延び 薄部は丸く折 れる。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	よく張った 周部				
507		土輪器小形 丸底土器	口縁小片	5TBS/8	5TBS/8	5TBS/8	石美：粗・中多 赤色粒；中少										
508		土輪器低厚壁全周	7.5TBS/6	7.5TBS/6	7.5TBS/6	7.5TBS/6	石美：粗・中多 赤角閃石；細普										
509		土輪器小形 丸底土器	口縁周1/12	7.5TBS/8	10TBS/6	5TBS/8	石美：粗・中多 赤角閃石；細普	8.2	口縁部は直線 的に延び細部 が尖る。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	よく張った 周部				
510		土輪器裏	口縁周1/4	10TBS/3	10TBS/3	10TBS/3	石美：粗・中多 赤角閃石；細普	12.4	口縁部は僅か に内湾気味に 開く。底部内 方強く突出し て先端が尖る。 底部平ら面 で長い。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	よく張った 周部				
511		土輪器外？	口縁1/8	10TBS/2	7.5TBS/4	7.5TBS/1	石美：粗・中多 赤色粒；中少	32.8	僅やかに折 り返した口縁部 は僅い。薄部 は丸く肥厚し て丸く折れる。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	口縁部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	よく張った 周部				
533		土輪器小形 丸底土器	口縁小片	5TBS/6	5TBS/6	5TBS/6	石美：粗・細普										
603		小皿	全1/4	7.5TBS/4	7.5TBS/4	7.5TBS/4	石美：粗・中少	5.8	底部肉厚。口 縁部は丸く 折れる。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	底部横ナ ハケ。底部下 半部ハケ有 り。底位皆オ クシ。	

編號	固版	堅種	弱程度	色調(外)	色調(内)	色調(断面)	黑色	粘土	口径	高さ	底径	口縫部形態	輪邊部形態	外面調整	内面調整	その他	備考
604	小皿	完符	7.5R8/6	7.5R8/6	7.5R8/6	石英:細少 赤色粒:細少	5.6	4.8	0.7	円盤から口縫部は小さく開き、輪辺部は大きく開き、成形はよく拘泥する。底部内厚	回転ナデ後 圓周無切 り痕	回転ナデ後 圓周無切 り痕					
605	小皿	全3/8	7.5R7/6	7.5R7/6	7.5R7/6	石英:細少 赤色粒:細少	6.3	0.9	6.0	口縫部は底部から上方立ち上がる。	底部回転輪 切り他は 回転ナデ	底部回転輪 切り他は 回転ナデ					
606	小皿	全1/5	10R8/2	10R8/2	10R8/2	石英:粗音	6.2	1.8	5.4	底部薄手。口縫部は丸く削める。	回転ナデ	回転ナデ					
607	杯	全1/7	2.5R8/2	2.5R8/2	2.5R8/2	石英:粗音 赤色粒:粗音	9.2		6.8	底輪部に開き、輪部は失る。	回転ナデ	回転ナデ					
608	土師質坏	口縫1/6	7.5R7/6	7.5R7/6	7.5R7/6	石英:中多 赤色粒:細少	10.2			壁間に内溝気味に開き、輪部は丸く削める。	13C代か						
609	杯	口縫1/10	10R8/2	10R8/2	10R8/2	石英:細少	11.4			やや内溝気味に開き、輪部はよく削れる。	回転ナデ	回転ナデ					
610	113 土質コネ	口縫小片	2.5R8/2	2.5R8/2	2.5R8/2	石英:中・粗音				口縫部は上下に突出して肥厚	回転ナデ	回転ナデ					
611	113 狹葉質コネ	口縫小片	7.5R5/1	7.5R5/1	7.5R5/1	石英:粗音				口縫部は上下に突出して肥厚	回転ナデ	回転ナデ					
612	土鍋	口縫小片	10R7/4	10R7/4	10R7/4	石英:粗 紫母:粗 赤色粒:細少 角閃石:少				口縫部は肥厚し、四角く削める。	地井II 2						
613	113 土質質コネ	口縫小片	10R8/2	7.5R7/2	2.5R8/8	石英:中音				口縫部はやや肥厚し、尖り、外側に直立する平坦面	地井II 3/5 C前半	地井II 3/5 C前半					

種別	版板	器種	質地度	色調(外)	色調(内)	黒灰	粘土	口径	器高	口沿部形状	脚部形状	外面輪郭	内面輪郭	その他	備考
614	111	瓦質コネ鉢	口縁体1/6	N4/0	7.5R6/1	石英・蛭・中多	27.8			口縁部は肥厚しつつ端部尖る。外面に直立する脚低い平底面。	口縁部焼ナメラタード、体部指ナメラタード。	脚ナメラタード4枚	脚ナメラタード4枚		瓦質コネ鉢
615		土器器小口縁附1/4	2.5T2/1	2.5T2/1	2.5V4/2	石英・蛭・普	5.0			口縁部は小さく折り返して端部尖る。	指オサエ頭指オサエ頭著			脚井Ⅰ並行か	
616	112	三足羽釜	口縁小片	10T8/2	10T8/4	石英・蛭・中普赤色斑・中少				口縁部は内傾してもよく熱めら。脚はやや反り気味で小振り。				脚井Ⅰ 非海井並？	
617	112	三足羽釜	口縁小片	5T8/6	7.5R7/4	石英・蛭・中多赤色斑・端少				口縁部は直立して尖る。脚は突出度高い三角形。		脚直下指ナメラタード		脚井Ⅰ～Ⅱ	
618		三足羽釜	口縁小片	10R2/4	10R2/4	石英・中普角脚石・端少				口縁部はやや内傾し水平にとりつく脚の突出度高い。		脚直下指ナメラタード			
619	112	三足羽釜	口縁L/14	10T8/4	10T8/4	石英・蛭・中・細普角脚石・端少				口縁部は強く内傾して端部尖る。脚は水平に取り付けられてい。		口縁部焼ナメラタード、以下横指ナメラタード			
620	112	三足羽釜	口縁附L/10	7.5R6/4	7.5R6/4	石英・蛭・中普赤色斑・中少	24.2			口縁部は強く内傾して端部尖る。小振りの脚は垂下気味		口縁部焼ナメラタード、脚直下指ナメラタード、体部指ナメラタード。			
621	111	三足羽釜	口縁体1/4	10T8/2	10R2/4	石英・蛭・普赤色斑・中少	20.0			口縁部は直立して脚が最も内側に突き出る。脚端部尖る。		脚上に指ナメラタード、脚直下指ナメラタード、体部指ナメラタード。		脚井Ⅰ 非海井並？	

種別	回数	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(漸)	黒度	粘土	口透	筋高	筋径	口縫部形態	脚部形態	外面調整	内面調整	その他	備考	
622	二足羽釜	脚部光洋	2,5786/8															
623	三足羽釜	脚部1/2	7,5786/2															
624	三足羽釜	脚部小片	10786/3	10786/4	7,5786/2	石英：粗・中多 赤色粒：中少												
625	111 七輪	口縫体1/6	10786/6	10786/6	10786/6	石英：粗・中多 赤色粒：中少	24.6					口縫部は緩や かに屈曲して 強く肥厚しつ つ円角く折れ る。						
626	111 七輪	口縫体1/4	7,5786/4	7,5786/4	7,5786/4	石英：粗・中多 角閃石：細少	25.8					口縫部は緩や かに屈曲して 強く肥厚しつ つ小さく折れ る。						
627	土鍋	口縫体1/8	10786/6	10786/6	10786/1	石英：粗・中多 角閃石：細少	29.6					口縫部は緩や かに折り返し て堅い。端部 は強く肥厚し て四角く折れ る。						
628	土鍋	口縫小片	7,5785/4	7,5785/4	10786/1	石英：粗・中多						口縫部は強く 折り返して堅 い。端部は大き く折れ上げる。						
629	土鍋	口縫小片	10786/4	10786/4	10786/1	石英：中・細多 赤色粒：細少						口縫部の折り 返しはやや與 く滑らか。				13°C 暖か		

井番	固版	岩種	残存後	色調(外)	色調(内)	色調断	周波	粘土	口径	口径	口径	口径部形態	断端部形態	外面部質	内面部質	その他	備考
630	土塊	口縫小片	5/5E/8	5/5E/8	5/5E/8	5/5E/8	石英：細骨 角閃石：細骨					強く折り返し て口縫部は堅 く閉く。端部 は四角く崩 れる。	横ナデ	口縫部内面 ハケ後縫 ナデ、端面 ハケ			
631	上層	口縫小片	7.5R/2/2	7.5R/7.6	7.5R/7.6	7.5R/7.6	石英：中・細多					口縫部は緩 かに折り返 して端部 は四角く崩 れる。	横ナデ	口縫部は横 ナデ、体形指 ナデ、体形指 ナデ			
632	土塊	口縫解1/16	7.5R/4/1	10R/7/3	10R/6/1	10R/6/1	石英：粗・中多 斜長石：細少 赤色斑：細少 角閃石：細少	40.6				緩やかに折り 返して口縫部 は直線的に崩 れる。端部は 軽く肥厚し、つ つ凹角く崩 れる。	口縫部横ナ デ、体形指 ナデ	口縫部は横 ナデ以下横ナ デ、体形指 ナデ			
																地井II 1 ~ 2 14 C 中 ~ 後00	
633	112	細粒砂岩	ツマミ1/6	5PBL/1	5PBL/1	5PBL/1	石英：中・細多					巻頭部に扁平 なオクタノ状構 造	回転ナデ	回転ナデ			
634	112	細粒砂岩	底部1/4	10E/4/1	10E/4/1	10E/4/1	石英：中・普 黑色滑脂紋					巻頭部に強 く張るが、 低い場合	下端回転 ナデ	下端回転 ナデ			8 C ~ 9 C 前半
635	細粒砂岩	底部1/8	2.5T/1	2.5T/1	2.5T/1	2.5T/1	石英：中普					下端回転 ナデ	回転ナデ				
636	瓦質透？	体形小片	5/5E/1	5/5E/1	5/5E/1	5/5E/1	石英：細少					細かい端子ナ デ	回転き目				
637	112	三足羽岩	口縫1/6	10R/7/6	10R/7/6	10R/7/6	石英：中多 角閃石：細少	31.4				口縫部は直立 して尖る。突 出端の弱い時 はやや垂下氣 味	横ナデ	口縫部・強 度Fに沿ナ デ			
638	112	三足羽岩	口縫1/8	10R/7/6	10R/7/6	10R/7/6	石英：中・細普 角閃石：細少	31.0				口縫部は薄 く内傾する。端 部は丸く崩 れる。	横ナデ、弱度D ナデ、指サエ	口縫部横ナ デ、以下横 ナデ			

種類	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断面)	原基	粘土	口径	口径高	直径	口縁部形態	周端部形態	外面調整	内面調整	その他の 特徴	備考
639	112	三足羽釜	口縁小片	7.5NS/3	10WE7/2	5WE7/6	石英：中骨 角閃石：細少					口縁部は強く 突出度の高い 骨は薄削四角 い。	口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨の突出度高 い。	縫上指オ サエ	縫ナダ		縫井Ⅱ2非 縫井施?
640	112	三足羽釜	1/10	7.5WE7/3	7.5WE7/3	2.5WE7/1	石英：粗・中骨 角閃石：細少		29.5			口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨の突出度高 い。	口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨の突出度高 い。	口縁部指ナ オサエ	口縁部指ナ オサエ		縫井Ⅱ2非 縫井施?
641	112	三足羽釜	口縁1/16	2.5NS/3	2.5NS/3	7.5NS/8	石英：粗・中骨 角閃石：細少		18.2			口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨はやや小振り	口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨はやや小振り	口縁部指ナ オサエ	口縁部指ナ オサエ		
642	112	三足羽釜	口縁1/16	10WE7/4	10WE7/4	10WE7/4	石英：中・細少 赤色斑		24.0			口縁部は弱く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨は向原でや や突出度高い	口縁部指ナ オサエ	口縁部指ナ オサエ			
643	112	三足羽釜	口縁厚1/12.7	5NS/4	7.5NS/4	7.5NS/4	赤色斑：細少 角閃石：細少		22.6			口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨は向原でや や突出度高い	口縁部指ナ オサエ	口縁部指ナ オサエ			
644	112	三足羽釜	口縁厚1/5	7.5NS/7/8	7.5NS/7/8	7.5NS/8/2	石英：粗・中骨 角閃石：細少		25.4			口縁部は強く 内削して薄削部 は丸く削める。 骨は水平に取 り付くが小振 り。	口縁部指ナ オサエ	口縁部施圧 オサエ			
645	112	三足羽釜	脚部完全	7.5NS/4		10NS/4	石英：中・細少 赤色斑：細少 角閃石：細少					脚部は直線 的に延び先 端尖る。	比較的丁寧 な面取り調 整				

種類	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	色調(外)	黒斑	粘土	口径	器高	基径	口径部形態	輪縫部形態	外面部鑑定	内面部鑑定	その他	備考
646	113 土燒	口縁小片		10%S/4	5%S/6	5%S/4	5%S/6	石英：粗・中多 赤色粒：中皆					口縫部横ナ デ。体部横 ナデ	横ナデ				梅井Ⅱ 315 C前葉
647	113 土燒	口縁小片		7.5%S/3	7.5%S/2	7.5%S/3	7.5%S/2	石英：粗・中多 赤色粒：中皆					縫面は横ナ デ。他指サ サエ。	縫面は横ナ デ。他指サ サエ。				梅井Ⅱ 315 C前葉
648	113 領底質コネ 錐	口縁小片		10%S/1	10%S/1	10%S/1	10%S/1	石英：細少					口縫部直下 に横み出 て肥厚	横ナデ				
650	111 コネ錐	口縁体1/8	2.5%T/3	2.5%T/3	2.5%T/1	2.5%T/3	2.5%T/1	石英：中・細多	27.2				口縫部直下凹 凸。体部横 ナデ	横ナデ				瓦質コネ錐
651	瓦質コネ錐	体下半2/8	N40/0	7.5%T/1	7.5%T/1	7.5%T/1	7.5%T/1	石英と黑色粒 ：細皆					口縫部直下凹 凸。体部横 ナデ	横ナデ				瓦質コネ錐
652	112 コネ錐	口縁小片	2.5%S/2	2.5%S/2	2.5%S/1	2.5%S/2	2.5%S/1	石英：粗・中多 角閃石：細少					口縫部は強 くつまみ上げ 輪広い平坦面 片口縫分	横ナデ				
653	土壤質坏	口縁1/8	5%R/8	5%R/8	5%R/8	5%R/8	5%R/8	石英：細少 赤色粒：細少	10.1				直線的に開き 縫部は厚厚氣 味に笑る。					
654	112 瓦	底盤1/4	10%R/3	10%R/3	10%R/3	10%R/3	10%R/3	石英：細少 赤色粒：細少					底面削除 切り痕					
655	三星羽茎	脚部3/4	10%R/3	10%R/3	10%R/3	10%R/3	10%R/3	石英：中多 角閃石：細少					輪縫は堅厚 的に張びる 凹凸が強著 に残りやや					

種名	固版	器種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(断)	底延	粘土	口径	縦溝	口縫部形態	縫端部形態	外面調整	内部調整	その性	備考	
656	112	須恵器杯B	高台1/8	5PB5/1	5PB5/1	5PB5/1	石英:中少						底部外縁に 底部内縁に やや内側に 低い高台貼 付	底部ナデ	底部外縁の 8°C後焼 折り返しき つい。底部 内厚		
657	112	須恵器台付	体下平1/14	5PB3/2	N4/0	10PB4/3	石英:中普						9.1			8°C	
658	112	須恵器平B	高台1/6	N6/0	2,5PB6/1								9.0			十駄山3 8°C後焼	
659		須恵器杯B	杯下小片	5PB4/1	5PB4/1	5PB4/1	石英:細少						底部外縁に 底部内縁に 低いが強く 張った高台 貼付	底部ナデ	底部ナデ		
660	112	三瓦羽釜	1/10	10PB7/4	7,5PB6/6	7,5PB6/6	石英:中普 赤色粒:毛面少 角閃石:細當	25.9			口縫部は内溝 して縫部は四 角く折める。 縫は突出度の 高い圭形	口縫前・側 横ナデ体部ナ ハケ	口縫前・側 横ナデ体部ナ ハケ				
661		三足深釜	脚部3/6	10PB5/3	10PB5/3	10PB5/3	石英:粗多 赤色粒:細少						脚部は直線 的に延び先 端尖る。	横ナデ	口縫前・側 横ナデ		
662		土瓶	口縫小片	7,5PB6/6	7,5PB6/6	7,5PB6/6	石英:中粗多										
663	112	杯	全1/2	10PB5/2	10PB5/2	10PB5/2	石英:中・細少 赤色粒:中・細當	10.0	2.5	6.4	縫やかに折り して口縫部 は広く開く。 縫部は四角く 折れる。	内溝深に立 ち上がり地部 は丸く折れる	底部回転 ナデ	底部回転 ナデ			
664		須恵器大瓶	1/2	10PB5/1	10PB5/1	10PB5/1	石英:中少	10.7			短いが外反氣 味に開き縫部 は内外に小さく 折み出す。	口縫部回転 ナデ、体部ナ ハケ上半部を 内側に折り 出し下半部 ナデ消し	口縫部回転 ナデ、体部ナ ハケ上半部以下 内側に折り 出し下半部 ナデ消し	口縫部回転 ナデ、体部ナ ハケ上半部以下 内側に折り 出し下半部 ナデ消し			

## 円筒遮輪駆動装置（円筒遮輪・円筒駆動）

拘束	回版	基準	拘束部位	口径	色調（外）	色調（内）	口輪部形状	透孔	突舌形態	外面調整	内面調整	その他	備考
6		口端部	47.0	7.5IK7/4	10IK7/4	5IK5/8	石英：板・中多 赤色板：板・中普 角陥石：細少 内1寸			タテハナ・ 指サエ			半嵌設台形 の可能性？
7	30	2 3 頭	口端部	36.4	2.5IK7/4	10IK7/6	5IK5/8	石英：板・中多 赤色板：中普 角陥石：細少	僅く外反気味 に伸びる。端 部四角く折 る。	ヨコハナデ	外板に縫制		
8	2 3 頭	口端部	41.0	5IK5/6	5IK5/6	5IK5/6	石英：板・中多 赤色板：細少			ヨコハナデ			
9	31	2 3 頭	中位段	34.0	5IK5/8	7.5IK6/3	7.5IK6/4	石英：板・中多 角陥石：細少		高台形	ヨコハナデ		
10	31	2 3 頭	中位段	34.6	5IK5/6	10IK7/6	10IK5/6	石英：板・中多 角陥石：細普		低台形・頂部 上端突出			
11	31	2 3 頭	中位段	37.2	10IK7/3	10IK7/3	7.5IK5/8	石英：板・中多 赤色板：中普 角陥石：細少		低台形・頂部 上端突出			
12	31	2 3 頭	中位段	35.6	2.5IK5/6	2.5IK5/6	2.5IK5/6	○ 石英：板・中多 角陥石：細普		台形・頂部凹 面			
13		口端部		10IK5/4	10IK5/6	10IK4/4				タテハナ			
14	31	2 3 頭	中位段		10IK5/3	10IK5/3	5IK5/4	石英：板・中多 赤色板：中少 角陥石：細板少	直線的に開き 漏應小さく屈 曲して四角く 折める。				
15	32	2 3 頭	中位段		10IK5/8	5IK5/6		石英：板・中多 赤色板：中普 角陥石：細板少	高台形・下端 の接合や板 端	ヨコハナデ	外板に縫制		

地図	図版	断層	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	黒斑	粘土	口縫形態	透孔	突起形態	外観調整	内面調整	その他	備考
16	31	2 a 級	中位段	10R7/4	10R7/4	5YR6/6	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 中普	?	高台形・下端 の張合やや粗 糙で垂下気味	三角形・小底	タテハケ	タテハケ	タテハケ		
20	30	2 a 級	中位段	31.0 10R7/6	5YR7/4	2.5Y4/2	石英: 錐・中普 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	?	高台形・下端 の張合やや粗 糙で垂下気味	三角形・小底	タテハケ	タテハケ	タテハケ		
21	2	2 a 級	基底部	24.4 10R6/4	10R6/4	5YR5/6	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 中普	?	高台形・下端 の張合やや粗 糙で垂下気味	?	指ササエ	内面下端の 粘土はみ出 し崩落			
24	2	2 a 級	口縫部	37.0 2.5Y7/2	2.5Y6/2	2.5Y5/1	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	?	錐か底力 強く外反して 角部四角 <折れ接觸解	?	タテハケ後 ヨコナデ	ヨコナデ後 ヨコナデ	ヨコナデ後 ヨコナデ	手	
25	40	2 a 級	口縫部・2 段	38.0 2.5Y7/3	35Y7/3	5Y7/3	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	?	錐か底力 強く外反して伸 形5 <折れ接觸解	?	タテハケ後 ヨコナデ	ヨコナデ後 ヨコナデ	ヨコナデ後 ヨコナデ	ヨコナデ後 ヨコナデ	ヨコナデ後 ヨコナデ
26	40	2 a 級	口縫部・3 段	42.0 2.5Y7/3 ~ 35Y7/8	2.5Y6/3	2.5Y7/2	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	○	錐か底力 強く外反して伸 形5 <折れ接觸解	?	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ
27	40	2 a 級	口縫部	37.4 2.5Y6/3		2.5Y6/2	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	?	錐か底力 強く外反して伸 形5 <折れ接觸解	?	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ
28	40	2 a 級	口縫部 段	35.0 5Y7/2		2.5Y4/1	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	?	錐か底力 強く外反して伸 形5 <折れ接觸解	?	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ
29	40	2 a 級	口縫部	35.3 2.5Y7/2		2.5Y7/2	石英: 錐・中多 角閃石: 錐少 赤色粒: 錐少	?	錐か底力 強く外反して伸 形5 <折れ接觸解	?	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ	タテハケ後 ヨコナデ

種別	固有	器種	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	黒邊	胎土	丁輪捺壓痕	達孔	突起部	外面部	内面部	その他の	備考
30	40	2 3 類	口縁部	576/2	577/2	2.574/1	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	外反気 半円に弱く開く。 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形や下端 の接合やや粗 糙。上面のヨ コナデ強く僅 かに垂下	ヨコナデ				
31	2 3 類	中位段		577/2	576/2	573/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗多 角閃石：細少		方形 ?	高台形	ヨコナデ			
32	2 3 類	中位段		2.577/2	577/2	576/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗昔 角閃石：細少		方形 ?	高台形	ヨコナデ			
33	42	2 3 類	中位段	2.576/2	2.576/1	2.575/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗多 角閃石：細少		方形 ?	高台形・縁身 の接合 ヨコナデ?	ヨコナデ			
34	42	2 3 類	中位段	577/2	576/1	575/1	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多		方形高台形・頂部 各段上端極かに突 出	ヨコナデ	ヨコナデ			
35	42	2 3 類	中位段		2.577/2	2.577/2	2.577/2	石英：粗・中多 赤色粒：粗昔 角閃石：細少		圓状・頂部上 部強く突出	ヨコナデ	指サエ後 ヨコナデ			
36	42	2 3 類	中位段		2.577/3	2.577/3	2.574/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗昔 角閃石：細少		方形 ?	ヨコナデ	指サエ後 ヨコナデ			
37	42	2 3 類	中位段		7.576/8	2.577/2	2.576/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少		方形高台形 各段 範例	ヨコナデ	ヨコナデ			
38		2 3 類	中位段		2.577/2	2.577/2	2.576/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少		方形 ?	高台形・下端 の接合や粗 糙	ヨコナデ	指サエ後 ヨコナデ		
39		2 3 類	中位段		52.0	2.576/2	2.576/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗少 角閃石：細少		方形	ヨコナデ	指サエ後 ヨコナデ			

標本	回数	器種	発育部位	口径	色調(外)	色調(内)	黒斑	胎土	口縁微形態	透孔	突起形態	外面調整	内面調整	その他	備考
40	42	2a類	中位段	44.4	2.57/2	5/5/2		石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	高台形・下端 の振合やや粗 糙	タテハケ後 ヨコナデ		ヨコナデ			
41	42	2a類	中位段	42.0	2.57/2	2.57/2		石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	高台形	タテハケ後 ヨコナデ		ヨコナデ			
42	41	2a類	中位段	41.0	2.57/2	2.57/1	○	石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	高台形・下端 の振合やや粗 糙	タテハケ後 ヨコナデ		ヨコナデ			
43	42	2a類	中位段	35.2	2.57/2	10/7/3		石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	方形	ヨコナデ	尖部部分指 コナデ				
44	41	2a類	中位段	29.0	2.57/2	2.57/2	○	石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	長方形	タテハケ後 ヨコナデ		尖部下断力 光触突			
45	2	2類	中位段	2.57/3	5/5/1	5/5/1		石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	不整 方形？						
46	41	2a類	中位段	44.6	2.57/2	5/5/2	○	石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	三角 形？			タテハケ後 ヨコナデ	内外面の複 合振動器		
47	41	2a類	中位段	32.5	10/8/2	2.57/2	○	石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	円形	タテハケ	タテハケ				
48	42	2a類	中位段	37.4	2.57/2	2.57/3	2.57/1	石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	長方形	高台形・下端 の振合やや粗 糙					
49	42	2a類	中位段	35.4	2.57/2	5/5/2		石系：粗・中多赤色粒；粗・中多角閃石；細少	方形	高台形・下端 各級の振合やや粗 糙	ヨコナデ	ヨコナデ			

種別	固有	層位	測定部位	口径	色調(外)	色調(内)	色調(新)	周長	底土	口縫部形態	通孔	突唇形態	外表面鑿	内表面鑿	その他の 特徴	参考
50	42	2 3 級	中位段	35.4	2.577/2	2.577/2	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多	高台形・下端 各段 縫隙	ヨコナデ						
51	42	2 3 級	中位段	33.4	2.576/2	2.576/1	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多	高台形・頂部 上端突出 各段 縫隙	タテハケ	突唇部分指 オサエ後日 コナデ					
52	41	2 3 級	中位段	31.8	2.576/2	2.577/2	2.574/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形	タテハケ後 ヨコナデ	突唇部分指 オサエ後日 コナデ					
53	42	2 3 級	中位段	30.0	2.576/3	2.576/3	2.574/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形	ヨコナデ	突唇部分指 オサエ後日 コナデ					
54	41	2 3 級	中位段	33.0	10756/3	2.576/2	2.575/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	長方 形4 各段 縫隙	タテハケ後 ヨコナデ	突唇部分指 オサエ後日 コナデ					
55	41	2 3 級	中位段	34.0	2.577/3	2.577/3	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形	ヨコナデ	突唇部分指 オサエ後日 コナデ					
56	42	2 3 級	中位段	34.6	10777/3	2.577/3	2.577/3	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形	タテハケ後 ヨコナデ	突唇部分指 オサエ後日 コナデ					
57	2	2 3 級	中位段		2.577/2	2.576/2	2.576/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形	ヨコナデ	ヨコナデ					
58	2	2 3 級	中位段		2.576/2		2.575/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・やや 縮身							
59	42	2 3 級	中位段		2.577/2	577/2	575/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	錐状・頂部や や丸い	ヨコナデ						

種別	図版	器種	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	底延	胎土	口縁部形態	通孔	突起形態	外面調査	内面調査	その他の 参考
60	42	2a類	中位段	7.577/2	2.578/2	2.578/2		石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	三角・短形・大	ヨコナデ	指オサエ後 ヨコナデ			
61	42	2a類	中位段	2.576/2	2.577/2	2.575/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	斜状・頂部上 端やや突出			指オサエ後 ヨコナデ		
62	42	2a類	中位段	35.8	2.577/2	2.575/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・下端 の接合や粗					
63	42	2a類	中位段	35.0	10787/3	2.577/3	2.575/1	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・下端 の接合粗					
64	42	2a類	中位段	30.4	2.576/2	2.575/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	台形	ヨコナデ				
65	47	2a類	基底部	27.9	10787/3	7.5786/6	10785/1	○ 石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少			下端指オサ エ	指ナデ・指 オサエ	底部調整無 い	
95	41	2a類	口縁部	43.8	2.576/3	2.576/3		石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・下端 の接合や粗			ヨコナデ		
96	44	2a類	口縁部	2.576/3	2.576/1	2.575/1	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高9.5cm・少し かに外反氣味 に開き端部は 内方に強く突 出。	ヨコナデ	タケハケ後 ヨコナデ	外圍に縦刻		
97	42	2a類	中心段	7.5786/6	7.5786/6	10785/1		石英：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	四角・斜く開き端部 は四角く折れ る。	?	高台形			

捕獲回数	回数	種類	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	色調(内)	色調(外)	粘土	口輪部形態	舌乳頭	突舌形態	外舌頭數	内舌頭數	その他	備考
98	42	2♂類	中位段	5196/8	5195/4	10196/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・下端 の接合や粗 縫	ヨコナデ							
99	42	2♂類	中位段	2.5177/2 5197/8	2.515/2	2.515/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・下端 の接合や粗 縫	ヨコナデ							
100	44	2♂類	中位段	29.8	2.5177/2	515/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	低い短形	タテハナ	タテハナ						
101	44	2♂類	基生部	32.0	5196/2	514/1	○ 石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	低形・上端の 角凹なし；粗縫少	タテハナ	タテハナ						
105	2♂類	口輪部		10197/2	10197/2	10197/2	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：中・粗 角閃石：細少	高4mm 舌端は 四角く折れる。	台形・頂端上 に伸びる 峰鋒が突出 する。	タテハナ	タテハナ					
107	2♂類	中位段		10197/2	10197/2	5196/6	石英：粗・中多 雲母：粗 赤色粒：中・粗 角閃石：細少	台形								
108	42	2♂類	中位段	2.5177/2	2.5177/2	2.515/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	高台形・下端 の接合や粗 縫								
109	2♂類	中位段		2.5177/3	2.5177/3	2.515/1	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	方形？								
110	43	2♂類	中位段	35.0	2.5177/2	2.514/1	○ 石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少	方形	ヨコナデ	ヨコナデ						
111	42	2♂類	中位段	36.0	2.5177/2	2.5177/2	7.5194/6	石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少								

折図	断面	基部	残存部位	口絞	色調(外)	色調(内)	黒斑	粘土	口縫節理	溝孔	突起形態	外観調整	内観調整	その他	備考
112	2a類	中位段	33.2 5TR6/6	5TR6/6	7.5TR6/1	石英:粗・中多 赤色粒:粗・中多 角閃石:細少					高台形	ヨコナデ	ヨコナデ		
113	42 2a類	中位段	25.4 7.5TR5/6	5TR5/6	?	石英:粗・中多 赤色粒:粗・中多 角閃石:細少					台形・頂部上 端突出	ヨコナデ	タテハチ		
114	42 2a類	中位段	10TR7/3		2.5TR5/1	石英:粗・中多 赤色粒:中皆 角閃石:細少					脣状・頂部丸 い				
115	2a類	中位段	2.5TR7/3	2.5TR6/2	2.5TR6/1	石英:粗・中多 赤色粒:中多 角閃石:細少					高台形				
116	43 2a類	中位段	7.5TR7/6	7.5TR6/6	7.5TR5/2	石英:粗・中多 赤色粒:中皆 角閃石:細少					方形容・頂部上 端突出		接合部指オ サエ後ヨコ ナデ		
117	2a類	中位段	10TR7/2	10TR7/2	10TR4/1	石英:粗・中多 赤色粒:粗多 角閃石:細少					高台形・下端 の接合やや粗 雰	ヨコナデ	ヨコナデ		
118	2a類	中位段	2.5TR5/2	2.5TR7/2	2.5TR5/1	石英:粗・中皆 赤色粒:粗皆 角閃石:細少					高台形・頂部 上端僅かに突 出	ヨコナデ			
125		口縫部			5TR5/1										
194	2a類	中位段	7.5TR7/4	7.5TR6/3	10TR3/1	石英:粗・中多 赤色粒:粗皆 角閃石:細少					脣状 小形	ヨコナデ	ヨコナデ		
209	101 3類	中位段		7.5TR8/2	7.5TR8/2	10TR6/1	石英:中皆					指サエ	下端に近接 して突奇		
349	35 2a類		35.7 10TR7/6	5TR5/6	7.5TR3/3	石英:中多 赤色粒:中細皆 角閃石:細少					高台形・下端 の接合やや粗 雰	ヨコナデ	ヨコナデ		

井名	層位	岩相	保存部位	口径	色調(外)	色調(内)	黒度	地土	口縫部形態	透視	突出形態	内面溝数	外面溝数	その他	備考
350	35 2 a 級			36.0	10TR7/4	5TR4/6	7.5TR3/3	石英：中基 赤色粒：細少 角閃石：細少			矩形・頂部上 端突出				
351	35 2 a 級	中位段		10TR7/6	5TR5/6	7.5TR4/3		石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細少			高台形・頂部 上海突出				
352	35 2 a 新	中位段		10TR5/4	10TR7/6	10TR5/4		石英：粗・中普 赤色粒：粗・中普 角閃石：細少			低台形・頂部 上海突出				
353	35 2 a 級	中位段		10TR6/4	5TR5/4	7.5TR5/4		石英：中普 角閃石：細普			矩形・頂部上 端突出				
354	35 2 a 級			10TR7/6	5TR4/6	5TR3/4		石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少			高台形・頂部 上海突出				
355	35 2 a 級	中位段		10TR6/8	7.5TR6/8	7.5TR4/4	○	石英：粗・中多 角閃石：細少 赤色粒：細普			最下地形 段半円形 2方長方形 1方長方形 4方			タテハケ	指ナア。下 端指サエ。 露着
361	62 2 b 級	基底部	24.0	5TR6/8	10TR7/4	5TR2/3									
382	62 2 b 級	中位段												タテハケ	ヨコナナ
459	2 b 級	口縫部	40.8	7.5TR6/6	7.5TR5/4	7.5TR5/4								ヨコナナ	ヨコナナ
490	57 2 b 級	口縫部	38.2	7.5TR6/6	7.5TR6/6	10TR5/1								タテハケ	ヨコナナ

種別	回数	番号	発育部位	口径	色調(外)	色調(内)	隔壁	胎土	口縁部形態	透孔	突起部形態	外面調整	内部調整	その他	備考
491	96	2 b 粧	口縁部～4 段	41.2 57RS/6	5RS/4	5RS/3	○	石英：粗・中少 赤色粒：中多 角閃石：細胞多	高13cm して端部は外反 前面に張り気味 に四角く斜め る。	長方形 口縁部は後 面に張り気味 や粗粒	下端のタテハケ・ 口縁部は後 面に張り気味 ヨコナデ	指オサエ	安寄間15cm		
492	97	2 b 粧	口縁部	35.0 57RS/6	5RS/6	10RS/1	○	石英：粗少 赤色粒：中・細 角閃石：細胞多	高8cm 反して開く。 前面外方に張 り気味に四角 く斜める。	台形・頂部下 面純く突出	台形・頂部下 面純ヨコナデ	指オサエ	口縫隙ヨコ ナデ		
493	97	2 b 粧	中位段	38.4 57RS/6	57RS/6	57RS/6	○	石英：中少 赤色粒：粗少 角閃石：細胞多	長方 形5接合や 角閃石？ で垂下傾斜	下端のタテハケ 5接合や 角閃石？ で垂下傾斜	指オサエ	安寄間15cm			
494	2	2 b 粧	中位段	36.0 7.57RS/3	7.57RS/6	10RS/1	○	石英：粗少 赤色粒：中少 角閃石：細胞多			タテハケ	指オサエ			
495	97	2 b 粧	中位段	37.0 7.57RS/6	7.57RS/6	2.5RS/2	○	石英：粗少 赤色粒：中少 角閃石：細胞多	方形 台形・頂部上 面やや突出						
496	97	2 b 粧	中位段	32.0 57RS/6	57RS/8		○	石英：粗少 赤色粒：中少 角閃石：細胞多	方形 台形下端の縫 合組織で垂下						
497	97	2 b 粧	中位段	31.0 57RS/6	57RS/6	10RS/1	○	石英：粗少 角閃石：細胞多	高台形						
498	97	2 b 粧	中位段	30.4 7.57RS/4	57RS/6		○	石英：中少 赤色粒：粗少 角閃石：細胞多	方 形？ 台形・頂部下 面突出			指オサエ			
499	97	2 b 粧	中位段	27.0 7.57RS/4	7.57RS/6	2.5RS/1	○	石英：粗少 赤色粒：中少 角閃石：細胞多	方 形？ 台形・頂部上 面突出			指オサエ			
500	2	2 b 粧	中位段	7.57RS/4	7.57RS/6		○	石英：中少 赤色粒：中少 角閃石：細胞多	方 形？ 台形・頂部 下端純く突出			タテハケ？	指オサエ ヨコハケ		
501	97	2 b 粧	中位段	7.57RS/4	2.57RS/6		○	石英：中 赤色粒：中・細 角閃石：細胞多	高台形・頂部 下端純く突出						

標号	回数	番号	発生部位	口径	色調(赤)	色調(青)	色調(緑)	黒斑	粘土	口輪部形態	透孔	突起形態	外側調整	内側調整	その他	備考
502	97	2 b 個	中位段	2.5TR/2	7.5TR/4			○	石英：粗少 赤色粒：中普 角閃石：細極多		方形	低台形				
503	97	2 b 個	中位段	5TR/6	5TR/6			5TR/1	石英：中少 赤色粒：細少 角閃石：細極多		方形	重影・聚合丁 2				
504	97	2 b 個	中位段	7.5TR/6	7.5TR/6			10TR/1	石英：細普 赤色粒：中・粗少 角閃石：細極多		台形・頂部上 端強く突出	タテハナ				
505	97	2 b 個	中位段	7.5TR/4	7.5TR/6			○	石英：粗：中少 赤色粒：中多 角閃石：細極多		矩形・突出既 大頂部上端突 出	タテハナ		ヨコハナ		
506	97	2 b 個	中位段	7.5TR/4	7.5TR/1			7.5TR/1	石英：中少 赤色粒：中普 角閃石：細極多		柱台形・小形	タテハナ		指サエ・ ヨコナデ		
537	101	3 個	口輪部・2 段	28.7	2.5TR/2	2.5TR/2		2.5TR/1	(石英：粗・中多 赤色粒：中多 角閃石：細極多)	高さ11cm 的にやや開きく れる	直線・重断	タテハナ		指オサエ後 口輪部ヨコ ハナ		
538	101	3 個	中位段	10TR/4	10TR/4			10TR/4	石英：中少		円形	低台形・小形				
539	101	3 個	中位段	10TR/4	7.5TR/6			2.5TR/1	石英：中普				三角形・小形			
540	101	3 個	中位段	2.5TR/2	2.5TR/2			2.5TR/1	石英：粗・中普 赤色粒：中少				二角形・小形			
541	101	3 個	中位段	10TR/4	10TR/4			2.5TR/1	石英：中少				高台形・下端 の接合や粗 謹			
542	101	3 個	中位段	21.0	7.5TR/6	7.5TR/6		2.5TR/1	石英：中普 赤色粒：中・粗少				低台形・小形	タテハナ	ヨコハナ	
543	101	3 個	中心段	21.2	10TR/3	10TR/3		10TR/1	石英：中少 赤色粒：中少				低台形・小形	タテハナ	ヨコハナ	
544	101	3 個	口輪部	24.0	10TR/4	10TR/4		10TR/1	石英：中・粗普	開き消量面角 く縮める				ヨコハナ		

種別	図版	器種	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	色調(底)	底質	給土	口縁部形態	造形	突堤形状	外縁調整	内面調整	その他の特徴	備考
545	101	3類側板	腹部	20.0	10YR5/2	10YR5/1	10YR5/1	石英：粗・中多 赤色粒：中少	田中多 半部強く外反	下半部タテ ハゲ	ヨコナデ	朝顔口縁部				
546	101	3類	中位段	20.2	2.0%2	2.5%1	2.5%1	石英：中音		三角形・小形						
547	101	3類	中位段	18.7	2.5%2	2.5%2	2.5%1	石英：粗・中多		円形	低台形・小形 頭部ヨコハゲ	タテハゲ				
548	101	3類	基底部	15.8	2.5%2	2.5%1	2.5%1	石英：粗・中多 赤色粒：中少		円形	三角形・小形	ヨコハゲ	指ナデ	見下段長 $f_{\text{ca}}$	朝顔口縁部	
550	101	3類側板	口縁部	36.0	10YR8/1	7.5%8/3	10YR8/1	石英：中少	油く外反して き縁部西角 <折める	上半ヨコナ デ	タテハゲ後 ヨコハゲ	朝顔口縁部				
551	101	3類側板	肩部	20.5	2.5%2	2.5%1	2.5%1	石英：中音 赤色粒：中少			ヨコハゲ	朝顔肩部				
552		3類側板	肩部		10YR8/2	10YR8/4	10YR8/1	石英：中多 赤色粒：細音				上端指ナデ	朝顔肩部			
553	101	3類	中位段		10YR8/2	10YR8/2	10YR8/2	石英：中・粗多					上端指ナデ			
554	101	3類	中位段		2.5%8/2	2.5%8/2	2.5%8/1	石英：中音				ヨコナデ				
555	101	3類	中位段			10YR7/3	10YR7/1	石英：粗・中多			三角形・小形					
556	102	2b類	口縁部		5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8	石英：粗・中多 赤色粒：中少			小形・台形	タテハゲ				
557	102	2b類	口縁部		5YR5/8	5YR5/8	7.5%4/1	○	石英：粗・中多 角内石：細音少 ね。	横く外反した 角内石：細音少 ね。						
558	102	2b類	口縁部		2.5%4/1	5YR5/8		○	石英：粗・中多 角内石：細音少 ね。	横筋を強く屈 曲し 出し						
559	102	2b類	口縁部		5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8	石英：粗・中多 赤色粒：細音少 ね。	石英：粗・中多 角内石：細音少 ね。	横筋をかかすかに 突出						
560	102	2b類	口縁部	23.6	5YR5.6	5YR5.6	5YR5.6	石英：粗・中多 角内石：細音少 ね。	中直立・薄部 外縁突起斜付	低台形	ヨコハゲ					

番号	固有	習慣	飛行部位	口径	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒度	胎土	口縫部形態	基孔	安靜形態	外面側壁	内面側壁	その他	備考
561	2 b 頸	口縫部	30.8	5TR7/8	5TR6/8	7.5TR7/6										
562	102 2 b 頸	中位段	31.8	5TR5/6	5TR5/6	2.5TR5/2			石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少 斜長石：無	口縫部に開き、 直線的外方側へ 突出しつつ四 角へ斜める	?	矩形・頂部上 端突出	ヨコナデ			
563	102 2 b 頸	中位段	5TR5/8	5TR5/8	2.5TR5/1			石美：粗・中多 赤色粒：粗・中普 角閃石：細少		方形 骨状・頂部上 端突出	?					
564	102 2 b 頸	中位段	34.0	5TR5/6	5TR6/6	2.5TR5/2			石美：粗・中多 赤色粒：粗・中普 角閃石：細少		矩形・頂部上 端突出					
565	2 b 頸	中位段		5TR6/6	7.5TR6/4	5TR5/2			石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：無少		高台形	ヨコナデ				
566	102 2 b 頸	中位段	25.2	5TR6/8	5TR7/8				石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：無少	方形 高台形・頂部 上端突出	?	高台形・頂部 上端突出	ヨコナデ			
567	102 2 b 頸	中位段		7.5TR5/6	7.5TR5/6	7.5TR5/6			石美：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少		高台形・細身					
568	102 2 b 頸	中位段		7.5TR6/6	7.5TR6/6	7.5TR5/8			石美：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：無少		矩形・頂部上 端やや突出					
569	102 2 b 頸	中位段		5TR5/8	5TR5/8	5TR5/8			石美：粗・中多 赤色粒：粗・中多 角閃石：細普		低台形・下端 の接合や粗 輪					
570	102 2 b 頸	中位段		5TR6/6	5TR6/6	5TR4/6			石美：粗・中多 赤色粒：細普 角閃石：無少		矩形・頂部上 端突出	ヨコナデ				
571	102 2 b 頸	中位段		5TR4/6	5TR4/6	5TR4/6			石美：中多 赤色粒：中少 角閃石：細普		矩形					

標題	回版	巻機	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	黒斑	粘土	口縫部形態	孔孔	突起形態	外観調整	内面調整	その他の参考
572	102	2 b 級	中位段	10785/3	7.5785/4	2.5785/2	石英：粗・中多 赤色粒：中少		高台形					
573	102	2 b 級	中位段	5785/8	2.5785/8	7.5785/8	石英：粗・中多 角閃石：細少		低台形・下端タチハケ様 の嵌合や粗粒	ヨコナデ				
574	102	2 b 級	中位段	5785/6	5785/6	5785/6	石英：粗・中多 角閃石：細少		高台形・頂部 上端突出	ヨコナデ				
575	102	2 b 級	中位段	5785/8	5785/8	7.5785/6	石英：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少		低台形・下端 の嵌合や粗 粒					
576	2 b 級	基底部	28.7	5785/8	5785/6	7.5785/4	○	石英：粗・中多 角閃石：細少		タチハケ	指ナデ・指 オサエ	指ナデ・指 オサエ	下端粘土は み出しきヨコ ナデ	
577	2 b 級	基底部	35.3	7.5785/6	5785/6	10785/2	○	石英：粗多 赤色粒：粗多 角閃石：細少	半円 形・ 靴下 袋			指オサエ	下端ヨコナ デ	
578	2 b 級	基底部?	33.6	5785/8	2.5785/8		石英：粗・中多 雲母：細少 赤色粒：粗・中多 角閃石：細少		一部にタチ ハケ残存	指オサエ 下端ヨコナデ				
599	110	3級	基底部?	19.1	2.5774	2.5781	2.5781	石英：中・細少	三角形・小形 下端ヨコナ デ	タチハケ・ 指オサエ	下端に近接 して突起			
600	101	3級	中位段	20.7	2.5783	10785/4	10785/1	石英・粗・中普	低台形・小形		指オサエ			

## 彫形埴輪

博物館	図版	器種	残存板	色調(外)	色調(内)	色調(内)	色調(外)	黒頭	胎土	口径	器高	直径	口縁部形態	脚部形態	外面調整	その他	備考
512	37	彫形埴輪	1/10	51RS/8	51RS/4			石美: 相 赤色粒: 細少	18.6				外反して強く 開き脚部は尖 る。	横ナデ	横ナデ		
513	99	彫形埴輪	1/3	7.5RS/2	2.5RS/6			石美: 相・中骨 角隣石: 細少	20.2				外反して強く 開き脚部は小 く曲げて丸 く曲める。	絆ハケ後焼 ナデ	横ナデ		
514	99	彫形埴輪	1/6	51RS/8	51RS/8			石美: 相・中骨 赤色粒: 相・中骨 角隣石: 細少	23.6				強く開き脚部 は小さく曲げ て丸く曲める。	横ハケ後焼 ナデ	横ナデ		
515	99	彫形埴輪	1/3	51RS/6	51RS/6	2.5RS/1		石美: 中骨 赤色粒: 中多	26.8				外反して強く 開き脚部は小 く曲げて丸 く曲める。	横ナデ	横ナデ		
516	37	彫形埴輪	1/6	51RS/4	51RS/6			石美: 相多 赤色粒: 中少 角隣石: 細少	23.6				外反して開き 脚部は尖る。	横ナデ	横ナデ		
517	37	彫形埴輪	小片	2.5RS/2	7.5RS/6			石美: 相・中多 赤色粒: 中少 角隣石: 細少	?				外反して開き 脚部は小さく 曲げ尖る。	横ナデ	横ナデ		
518	37	彫形埴輪	小片	51RS/6	51RS/6			石美: 中多 赤色粒: 中少 角隣石: 細少					強く開き脚部 は小さく曲げ て丸く曲める。	横ナデ	横ナデ		
519	37	彫形埴輪	小片	51/4/1	7.5RS/4			石美: 相・中多 赤色粒: 細少					脚部は僅かに 曲げて尖る。	横ナデ	横ナデ		
520	37	彫形埴輪	1/10	51RS/6	51RS/6			石美: 相・中骨 赤色粒: 中少						脚オサエ・ 長いが堅厚 に直さずる 脚部			
521	37	彫形埴輪	1/2	51RS/6	51RS/6			石美: 相・中多 赤色粒: 中少 角隣石: 細					肩下半幅ヶ 肩の張りは 程の張りは 程指サエ・草立 筋指サエが張 る筋筋				

種別	回数	基準	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒透	粘土	口径	壁厚	底径	口輪部形態	脚輪部形態	外面部性	内面部性	その他	備考
522	直形埴輪	1/5	5YR5/6	2.5YR5/8			○	石英：相中 赤色粒：粘少 角閃石：細極少						ナデ	脚ケズリ後 底の強りは 薄く円錐形 上端指さ サエ	合致す。	
523	直形埴輪	5/8	10YR5/4	10YR5/2	5YR4/4		○	石英：相 赤色粒：中少 角閃石：細極少						ナデ	周曲部以 下直線状 底に強 い。		
524	直形埴輪	体部2/3	2.5YR5/6	2.5YR5/8	7.5YR1/1		○	石英：相中 赤色粒：相少 角閃石：細少	32.5	5.0				ナデ	下半部強 度に上部 後方に伸 て強く円錐形 で肩の強り で横合軸開 き者。底 部は当物か ら剥離して いない。		
525	直形埴輪	体下半1/2	5YR5/8	2.5YR5/8	5YR4/2		○	石英：相中 赤色粒：相少 角閃石：細極少						ナデ	僅かに上部 強度に上部 後方に伸 て強く円錐形 で横合軸開 き者。底 部は当物か ら剥離して いない。		
526	直形埴輪	1/3	5YR6/8	5YR6/8	5YR4/2			石英：相多 赤色粒：相少 角閃石：細少						ナデ, 下滑 は指サエ	強度の体積 下面は未光 澤		
527	直形埴輪	1/5	5YR6/6	5YR6/8	2.5YR4/1			石英：相多 角閃石：細少						ナデ	脚ケズリ後 下端指サ エ	強度の体積 下面は未光澤	
528	直形埴輪	体下半2/3	2.5YR5/8	5YR5/8	2.5YR5/1		○	石英：相中 赤色粒：相少						ナデ。基部 指サエ	下半部強 度に上部 後方に伸 て強く円錐形 で横合軸開 き者。基部指 サエ	底部は当物	

種類	図版	岩種	残存度	色調(外)	色調(内)	色調(内)	周延	胎土	口径	器高	底径	口縁部切妻	脚端部形態	外面調整	内部調整	その他	備考
529	100	壺形埴輪	1/3	57RS/8	57RS/8	○	石英：粗多 赤色粒：中少 角閃石：細少									からが狭い。 匂状の体形、 下面は未光	
530	100	壺形埴輪	体下半 1/3	2, 57RS/8	7, 57RS/6	2, 57RS/2	○	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少		5.0				細いナデ 指ナデ・ケ ズリ、下端 は指	指ナデ・ケ ズリ、下端 は指ナデ	匂状の体形、 下面は未光	
531	100	壺形埴輪	1/4	2, 57RS/8	57RS/8	○	石英：粗多 角閃石：細少							ナデ。赤底 脇指ナデ・ケ ズリ。	ナデ。下半 脇指ナデ・ケ ズリ、下端 は指ナデ	匂状の体形、 下面は未光	
532	100	壺形埴輪	口縁小片	57RS/8	57RS/8	57RS/8	石英：粗・中多							ナデ、下端 は指ナデ	横ナデ	匂状の体形、 下面は未光	

### 器財形埴輪

種類	図版	岩種	残存部位	色調(外)	色調(内)	色調(内)	周延	胎土	口径	形 態	文様	調 整	備 考
17	32	壺形埴輪	蓋形・身り 板	10WRS/6	57RS/6	7, 57RS/3	○	石英：粗・中多 赤色粒：粗 角閃石：細少	外側縁に匂状の突起を 有し。中央に板形の透 孔	板は外形に沿った北緯 表裏面ヨコ溝開ハケ			
18	36	壺形埴輪	身り板	10WRS/3	10WRS/3	7, 57RS/6	石英：粗・中多 赤色粒：粗 角閃石：細少		割離外形に沿った並 行北緯と横の辻擦を 表裏面に刻む。	ヨコハケ			
19	36	壺形埴輪	身り板	10WRS/4	10WRS/4	57RS/6	石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細少		表裏面に辻擦	タチハケ			

種別	図版	器種	発祥部位	色調(外)	色調(内)	色調(内)	黒斑	胎土	形態	文様	調査	備考
65	45	半輪縫合形	完全形	5R7/8	7.5R7/3			石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	管状を輪縫に4分制。 管縫は切断面。 口縫端部は凹角・斜 2方。	外腹タテハゲ口縫部ヨ コハゲ、内面下半部指 オサエ・ヨコハゲ		
67	46	半輪縫合形	完全形	7.5R7/3	10R7/4	10R5/1		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	管状を輪縫に4分制。 管縫は切断面。 口縫端部は上 輪が張り気味に凹角く 折れる。	外腹タテハゲ、内面上 半部ヨコハゲ、下半部 指オサエ		
68	48	半輪縫合形	口縫～下縫	5R7/6	7.5R7/6	7.5R6/1		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	管状を輪縫に4分制。 管縫は切断面。 口縫端部は丸く折れる。	外腹タテハゲ、内面上 半部ヨコハゲ、下半部 ヨコナゲ・ヨコハゲ		
69	47	半輪縫合形	下半部	7.5R7/6	5R6/6	5R5/1		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	管状を輪縫に4分制。 口縫端部は尖る。	内面下縫指オサエ		
70	47	半輪縫合形	下半部	7.5R7/4	7.5R6/6	10R4/1	○	石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	管状を輪縫に4分制。 下縫・側縫は切断面。	外腹タテハゲ、内面下 半部ヨコハゲ		
71		半輪縫合形	下半部	7.5R6/8	2.5R6/6	5R4/1		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	管状を輪縫に4分制。 下縫・側縫は切断面。	外腹タテハゲ、内面下 縫指オサエ		
72		半輪縫合形	口縫部	7.5R7/4	7.5R7/4	7.5R2/2		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	外反し 側縫は上滑 で強く閉き端部は上滑 が張り気味に凹角く 折れる。	外腹タテハゲ、内面指 オサエ・ヨコハゲ		
73		半輪縫合形	下半部	10R7/2	7.5R7/4	10R4/1		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	下縫に凹痕面。小円孔 2段			
103	44	半輪縫合形	下半部	5R7/4	5R7/4	5R6/1		石英：粗・中多 赤鉄：暗・中等 角閃石：	おららく管形を輪縫に 4分制下縫・側縫は切 断面。中位に高角形突 起1条	安那の上下に小円孔。		

種類	固版	表面	斜面	色調(内)	色調(外)	色調(内)	色調(外)	底面	底上	形態	文様	調査	備考
119	43 不明形象埴 輪	不明形象埴 輪	不明形象埴 輪	7.5787/3	7.5787/1	7.5787/3	7.5787/1	石美：相・中多 赤色粒：相・中多 角閃石：相・中少	平坦な板状品。裏面に 滑らかな線彫文3列以上。				
139	不明形象埴 輪	不明形象埴 輪	不明形象埴 輪	5YR 7 / 6	10YR 6 / 2	10YR 6 / 1	10YR 6 / 1	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	一見、二重口輪並用 形態。ただし下面は別 材料で説明し田状不明。			外外面ヨコナデ	
182	畫形埴輪	畫形埴 輪	畫形埴輪	2.5717/3	2.5717/3	2.5717/3	2.5717/3	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	外側縁に輪状突起を有す 事。ねじれ形に沿つた歩行 足跡と軸位の歩行足跡				
193	畫形埴輪	畫形埴 輪	畫形埴輪	2.576/2	2.576/2	2.576/1	2.576/1	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	裏面に輪状突起を有す 事。ねじれ形に沿つた歩行 足跡と軸位の歩行足跡			ナヲ調査	
356	36 畫形埴輪	埴り板	埴形埴輪	7.5786/6	7.5786/6	7.5786/6	7.5786/6	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	裏面に「フ」字状記 号				
357	36 畫形埴輪	埴り板	埴形埴輪	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	10YR 7/6	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	輪縁の輪状突起下端か 一方の面に「フ」字状 記号				
358	36 畫形埴輪	埴り板	埴形埴輪	5786/6	10YR 7/6	5786/4	5786/4	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	外側縁に輪状突起下端か 中央は鋭く膨脹。輪部 に取り付く羽輪り系部 に付近片か。			ナヲ調査	
359	36 畫形埴輪	埴り板	埴形埴輪	5786/8	10YR 6/6	2.576/6	2.576/6	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	裏面に輪縁と並行す る沈痕				
360	36 畫形埴輪	埴り板	埴形埴輪	7.5787/4	7.5786/8	7.5786/6	7.5786/6	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	裏面に輪縁と並行す る沈痕				
361	36 畫形埴輪	埴形・埴 輪	埴形埴輪	5YR 6/8	5YR 6/8	5YR 6/1	5YR 6/1	石美：相・中多 赤色粒：相・中少 角閃石：相・中少	二重口輪並用形に羽 輪り系部を有す。文字 たたずみが下端まで及ぶ。 輪部外側ヨコハナハ、羽 輪りテナハナ				

編図	図版	器種	保存部位	色調(外)	色調(内)	色調(透)	黒透	粘土	形 素	文 横	調 整	備 考
363	36	直形埴輪	笠部	5YR5/8	10Y6/8	10Y5/4	石英：板・中多 赤色粒：板・中少 角閃石：板・中少	外表に風化の突起	突帯下部に垂下沈線	タテハケ		
364		直形埴輪	笠部	7.5TR6/8	5YR4/6	10Y4/6	石英：板・多 赤色粒：板・中少 角閃石：板・少	外表に風化の突起	突帯下部に垂下沈線	タテハケ		
363	63	直形埴輪	背面・円筒 部	10Y6/8	7.5TR5/4	7.5TR5/4	石英：板・中多 赤色粒：板・少 角閃石：板・少	平面・側面内溝・下傾水 平・上傾水 円筒：3段分存在。領蓋 は新面形で、圓筒の 下で外向する風化文。 傍合：円筒の側面に於 て構成される格子文	對角線上の沈線で斜傾で 深さ不明。全く4分割。 外縁二重沈線で内向。 腹裏面ヨコハケ風化文。 テハケ	円筒外表面・斜傾後 突帯斜面付後側面腰合後 横筋		
384	64	直形埴輪	背面	10Y6/8	7.5TR5/6	10Y6/6	石英：板・中多 赤色粒：板・中少 角閃石：板・少	平面の一部 強筋の一部	平面に二重沈線、外区 外縁タテハケ、内面ヨ コハケ			
385	64	直形埴輪	背面？	10Y6/7	10Y7/6	10Y7/6	石英：板・中多 赤色粒：板・中少 角閃石：板・少	背面の一部 強筋の一部	並行風化線からなる文跡。 横筋成不詳	外縁斜ハケ、内面タテ ハケ		
386	64	直形埴輪	背面？	10Y6/8	10Y6/8	10Y6/8	石英：板・中多 角閃石：板・少	背面の一部。	張筋孟調の文様。構成 不詳	外面ヨコハケ、裏面タ テハケ		
387	64	直形埴輪	背面？	7.5TR5/8	7.5TR5/1	7.5TR4/3	石英：板・中多 赤色粒：板・中少 角閃石：板・少	背面コナー一部片隅は やや張り出し裏面に複 数筋成不詳	文様部残存しない	外面斜ハケ		
388	64	直形埴輪	背面？	5TR4/6	7.5TR5/6	7.5TR2/3	石英：板・中多 赤色粒：板・中少 角閃石：板・少	平坦な土原地。筋筋 の一部か	複雑な沈線文。構成不 詳	外面斜ハケ		
389	64	直形埴輪	背面	7.5TR5/8	5YR6/8	5YR5/3	？	背面の一部	並行風線・直線からなる 文様。構成の詳細は 不明。	外縁斜ハケ		

標記	版版	器種	残存部位	色画(外)	色画(内)	色画(板)	馬達	胎土	形態	文様	測量	備考
390	64	磨形埴輪	盾形	5YR4/8	2.5YR1/8	7.5YR4/4 ~7.5YR4/4	石美: 盾・中多 赤色紋: 鮎多 角閃石: 細少	盾形の一部 胎土裏の墨合は土 外表面に格子状に交差する 外表面に格子状に交差する 外表面に格子状に交差する	並行環線を組み合わせ 文様らしいが書込不 詳	外面斜斜ハケ		
391	65	家形埴輪	屋根材	5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8	石美: 盾・中多 赤色紋: 鮎多 角閃石: 細少	胎土裏の墨合は土 外表面に格子状に交差する 外表面に格子状に交差する	外表面他のハケ後部 分的に交叉方向のハケ。 内面斜ナデ			
392	67	家形埴輪?	屋根材?	2.5YR4/2	5YR5/8		石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中普 角閃石: 細少	圓柱形頂部無部分か。 破風、模様表現はない。	頂部を抜んで横方向生 外表面方向ハケ、内面 ナデ			
393	66	家形埴輪	屋根材	7.5YR6/8	7.5YR4/4	7.5YR4/4	石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中普 角閃石: 細少	切妻形屋根、傾斜の坡 風を取付、頂部にはや や斜行して横状の板村 を付す。	外表面調整、内面ナ デ			
394	67	家形埴輪	板	5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8	石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中少 角閃石: 細少	[一]字状の破風版。 屋根本体は丸割溝。板 木表現はなし。	内面ハケ調整			
395	家形埴輪	屋根材下端	5YR4/6	2.5YR5/3			石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中少 角閃石: 細少	屋根断面下端、表面に実筋などの 下端に斜体接合部 表無し。	外表面方向のハケ、内 面ナデ調整			
396	67	家形埴輪	屋根材下端	7.5YR5/6	7.5YR5/6	2.5YR5/4	石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中普 角閃石: 細少	調節形状から切妻形と 規定。小さりの破風表 現を見ると内面に斜体接 合部分がある。	外表面方向のハケ、内 面ナデ調整			
397	67	家形埴輪	整体下部端	10YR5/6	10YR5/6	10YR5/6	石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中少 角閃石: 細少	整体下部の階段突出部。 やや下気味に取り付 く。	指サエ、整体斜面 にハケ調整ある。			
398	67	家形埴輪?	?	7.5YR5/6	10YR5/6	2.5YR5/4	石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中普 角閃石: 細少	板状片、下端に方形の 別込みがある	内外窓ハケ調整	家形埴輪體片か		
399	67	家形埴輪	收件下部端	5YR5/8	5YR5/8	5YR5/8	石美: 盾・中多 赤色紋: 盾・中普 角閃石: 細少	整体下部の階段突出部。 肩部分	ハケ調整とナデ			
400	62	不明象頭	体部	10YR6/6	7.5YR4/4	5YR3/6	石美: 盾・中普	不整円筒形でラッパ状 小形の円形切り込み に一方が開く	外表面斜き口目、内面 指サエ、接合部斜			

解説	図版	器種	保存部位	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒茎	粘土	文様	圖鑑	備考
401	62	不明形象埴 体部		7.5W5/6	10YR5/6	10YR5/3	石英：粗・中多 角閃石：細少	不整円筒形でラッパ状 に一方が開く	大型の円盤を描く切り込みがある。	外油無剥き目、内面 指サエ・横合頭顎	
402	62	不明形象埴 体部		7.5W8/4	5YR4/6	7.5YR5/4	石英：粗・中多 赤色粒：粗 角閃石：粗少	不整円筒形でラッパ状 に一方が開く	大型の円盤を描く切り込みがある。	外油無剥き目、内面 指サエ・横合頭顎	
403	62	不明形象埴 体部		7.6YR5/6	10YR5/6	10YR5/3	石英：粗・中多 角閃石：細少	不整円筒形でラッパ状 に一方が開く	大型の円盤を描く切り込みがある。	外油無剥き目、内面 指サエ・横合頭顎	
404	68	不明形象埴 ?		7.5W8/8	7.5YR6/6	7.5YR4/4	石英：粗・中多 角閃石：細少	小円盤に土板を見し て平坦面を作る。	円盤が面付で突出前に 小形彫形？	外油無剥き目、内面 指サエ・横合頭顎	
405	68	形象・不明 ?		5YR5/8	7.5YR6/8	?	石英：粗多 赤色粒：中少	圓盤形の粘土板。網溝 した跡跡か	一面圓面に沈線文。構成 不詳	ナデ圖鑑	
406	68	不明輪り板 ?		7.5YR6/8		10YR5/3	石英：粗・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少	毛状不詳 線身の状況 判別困難	一面圓面に並行地縞	ナデ圖鑑	
407	68	形象・不明 ?		5YR5/8		10YR5/6	石英：粗多 赤色粒：中少	繊く縦を描く棒状品。	一面圓面に並行地縞	ナデ圖鑑	
408	36	形象・不明 ?		5YR6/8	10YR5/4	2.5Y4/4	石英：粗多 赤色粒：粗少 角閃石：細少	刺状の粘土板。剥落し た部分か	一面圓面に沈線文	ナデ圖鑑	
409	68	形象・不明 ?		5YR5/8	7.5YR6/8	5YR5/8 ~ 7.5YR6/8	石英：粗多 赤色粒：中少	刺状の粘土板。剥落し た部分か	一面圓面に沈線文	ナデ圖鑑	
410	70	形象・不明 ?		5YR5/8		10YR7/4	石英：粗多 赤色粒：中少	刺状を呈する肉厚の粘 土板。基部は剥落上板。	一面圓面に斜方向に穿った 小孔跡。	ナデ 圖鑑	
411	70	輪状変形 ?		10YR5/8		5YR6/8	石英：粗多 角閃石：細少	山形を呈するやや中央 部は剥落	一面圓面に斜方向に穿った 小孔跡。	ナデ 圖鑑	
412	70	形象・不明 ?		5YR5/8		2.5Y6/3	石英：粗・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少	山形を呈するやや中央 部は剥落	一面圓面に斜方向に穿った 小孔跡。	ナデ 圖鑑	
413	70	輪状変形 ?		5YR5/8		7.5YR5/4	石英：粗多 赤色粒：粗少	形状不明の粘土板 - 滑 面に筋力向に穿った	一面圓面に斜方向に穿った 小孔跡。	ナデ 圖鑑	

序号	断面	断面	残存部位	色調(外)	色調(内)	周延	粘土	形状	文様	測量	備考
414	68 構造把手	輪	?	7.5TR6/8	7.5TR6/8	角門石：細少 角門石：細少	角門石：細少 角門石：細少	構状把手形。頂部に小 円孔穿つ。		指オサエ調査	
415	不明形象埴輪	体部	?	7.5TR6/8	5TR6/6	10TR4/3	石英：粗、中多 赤色：粗、中少	不要円前形でラッハは灰 に一方が強く	外表面無刻印き口、内面 指オサエ、長台痕著		
416	69 形象・不明飾り板	輪	2.5TR5/8	5TR6/8	5TR6/2	石英：粗、多 赤色：粗、多 角門石：細少	巴形ないしは三輪玉形 の粘土板で、突起部分 同心円状の沈線文 に弱材との別離痕	円形部中心に小円孔と 同心円状の沈線文	ハケ調整		
417	69 形象・不明飾り板	輪	?	7.5TR6/8	5TR6/3	石英：粗、中多 赤色：粗、多 角門石：細少	巴形ないしは三輪玉形 の粘土板で、突起部分 同心円状の沈線文 純く把手	円形部中心に小円孔と 同心円状の沈線文	ハケ調整		
418	69 形象・不明飾り板	輪	5TR6/8		5TR6/3	石英：粗、多 赤色：粗、多 角門石：細少	巴形粘土板。尾部は大 きく突出。頭部は削離 を析り曲げて肥厚。下 縁に弱材との別離痕	円形部中心に小円孔、 表面に浅い沈線文残る	ハケ調整		
419	69 形象・不明飾り板	輪	?	7.5TR6/8	7.5TR4/2	石英：粗、中細多 赤色：粗、多 角門石：細少	形状不明の粘土板側縁 の一方は粘土板を貼付 して把手	表面に浅い沈線文残る が留め不確			
420	形象・不明	輪	?	2.5TR5/8	2.5TR5/3	石英：粗、多 赤色：粗、多					
421		輪	?	7.5TR6/8	7.5TR6/6	石英：粗、中多 角門石：細少					
422	68 不明形象埴輪	輪	?	10TR6/8	5TR6/6	10TR6/6	石英：粗、中多 角門石：細少	423同様の根くカーブ する粘土板片	ハケ調整		
423	不明形象埴輪	輪	?	5TR6/8			石英：粗、中多 赤色：粗、中少 角門石：細少	横かに消すする粘土帶 の一端			
549	102 家形埴輪	屋根部	?	5TR7/6	7.5TR7/6	10TR5/1	石英：粗、中少 赤色：粗、中少	コナー付近か。壁面 窓状の透かし			
579	103 屋形埴輪	輪	?	10TR6/8	7.5TR5/4		石英：粗、中多 赤色：粗、中少	面の一部でコナー はやや張り出す。裏面 に塵垢付。外区 に塵垢付後は平行	外表面に粘土を貼り足し 軒を表現か		
									外表面テバケ、内面 383と同一個体か		

種別	固有名	器種	残存部位	色調(外)	色調(内)	黒鑿	粘土	花 磨	文 槌	圓 壱	備 考
581	103 不明形象埴輪?	口輪部?	2.57T7/6	10T6S/6	2.57S/6	○	石英:組:中少 赤色粒:角閃石:組少	角閃石:組少 に貼付用接着材の末端 が取り付く。	外表面 花磨	ハケ調整	
582	105 家形埴輪 ・106 体	壁根材・壁 体	5T6S/6	5T6S/6	5T6S/6		石英:組:中多 赤色粒:角閃石:組少	美術品板~體体の一端。 最初型式で後原板と同 頭部に三角形板の接合 部を表現。體体には櫛持 柱・支柱を洋き影 り状に表現。體以下の 體体部分は支柱以外を 大きく窓状にくり抜く。 下縁に斜状露出を付す。	外表面及び裏面 ハケ調整、内面ナデ開 拓。		
583	106 家形埴輪	體体支柱	5T6S/6	5T6S/6	7.5T6S/8	10T6S/8	石英:組:中少 角閃石:組少	粘土帶を貼付して全 體起表現。兩側は大き く窓状にくり込まれる。			
584	106 家形埴輪	體体支柱	5T6S/6	5T6S/6	5T6S/4		石英:組:中多 角閃石:組少	粘土帶を貼付して柱を 貼付表現。兩側は大き く窓状にくり込まれる。			
585	106 家形埴輪	壁根材棒木	5T6S/6	5T6S/6	2.5T6/3		石英:組:中多 赤色粒:角閃石:組少	家風頂部に三角形様の 突起で壁木端部を表現 する。			
586	103 家形埴輪	體体下部棒 部?	5T6S/6	5T6S/6	7.5T6S/6	7.5T6S/6	石英:組:中多 赤色粒:角閃石:組少	體体下部に骨状突出部 はやや垂下気味に取り 付く。下縁は水平。	突出部貼付前ハケ調整, 後ナデ		
587	家形埴輪	體体下部棒 部?	7.5T6S/6	7.5T6S/6	5T6/8		石英:組:中多 角閃石:組少	断面形がL字状に屈曲 する構造品。	ナデ調整		
588	104 家形埴輪	體体	5T6S/6	5T6S/6	5T6/6		石英:組:中多 赤色粒:角閃石:組少	體体下縁の張出部付か ず。	體体下縁の張出部付か ず	外表面ハケ調整・内面ナ デ	

補註	図版	番種	現存部位	色調(外)	色調(内)	黒面	粘土	形態	文様	測量	備考
589	107	舟形埴輪	船体部中央	2.5 V3 / 2.7 SKR7/8	2.5/5/1	石英：粗・中少 赤色粒：中少 角閃石：細少	台盤、端部を少くが、 船体部中央部をねじり組 合せ：中少 赤色粒：中少 角閃石：細少	内面側前方：ナガ。外 側面正面方向：ハサキ 部オサエ。			
	108			10W7/3							
590	108	舟形埴輪	側腹部尖部	7.5SKR7/8	7.5RK4/1	石英：粗・中多 赤色粒：細少 角閃石：細少	側面部が一 段低くなるが明確なビ ボット表現。木足には 残らない。前半部に圓 錐表現の跡と中央の 突起下部に小穴孔を保 つ。			589と同一個体の可 能性	
591	108	舟形埴輪	側腹部片	2.5R7/3	7.5RK7/8	石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	石英側面片か。絨面に 沿って側面落しがあ る。下部に小円孔。上 部の尖端はビボット表 現が。			589と同一個体の可 能性	

### 第5形・割竹形土製管

補註	図版	番種	現存部位	色調(外)	色調(内)	黒面	粘土	形態	形態上の特徴等
23	33 - 34	船形埴輪	蓋付舟形	7.5RN6/4 （元件）	5RN6/8	7.SKR4/2	石英：粗・中多 赤色粒：粗・中少 角閃石：細少	圓錐形の直筒材。2枚組の1枚。合わせ口は底方に突出してやや前傾い。小口と側斜面は芯芯接觸。 後者は前面三角形で隔壁状接触材先端。外側は把手等を把手状に取付。内面ハサキ調節後指オサエ・ナア	
133	134	船形棺？	蓋付舟形	10R7/4 部？	10R7/4	10R7/4	石英：粗・中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	直筒材側壁？背斜部の前面三角形空心接觸部の一部か。隔壁式内部指オサエ者。	
				5RN6/8	7.5RN7/3		石英：粗・中多 赤色粒：中少	隔壁材側壁？隔壁部の前面三角形空心接觸部の一部か。外側に圓平安符	

種別	回数	器種	保存部位	色調(外)	色調(内)	粘土	形態との特徴等
135	61	棺形棺?	蓋材 側板 2, 5TR7/3 底?	2, 5TR7/3	2, 5TR4/1	角閃石：無鉻少 石英：相・中多 赤色紋粒：無 角閃石：無少	棺蓋材側板？葬儀部の前面三角形空部が棺構造の一端か。蓋面側断方向に溝状の流れ1条。
136		棺形棺?	蓋材 側板 10TR7/3 部?		10TR4/1	石英：相・中多 赤色紋粒：無 角閃石：無少	棺蓋材側板？葬儀部の前面三角形空部が棺構造の一端か。外ハケ、棺構造内凹指オサエ顯著。
137	61	棺形棺?	蓋材 側板 5TR6/8 部?	2, 5TR7/2		石英：相・中多 赤色紋粒：無 角閃石：無少	棺蓋材側板？葬儀部の前面三角形空部が棺構造の一端か。外ハケ、棺構造内凹指オサエ顯著。
138		上腹棺	外表突管	5TR7/6	7, 5TR7/4	石英：相・中多 赤色紋粒：無 角閃石：無少	棺体外表の大形突管か。蓋状側板で指ナテ調整。
366		棺形棺?	蓋材 側板 7, 5TR6/8 部?	7, 5TR5/6		石英：相・中多 赤色紋粒：中少 角閃石：無少	棺蓋材側板？葬儀部の前面三角形空部が棺構造の一端か。外表側部に突管
367		土製管	外表突管	5TR6/6	5TR6/6	石英：相・中多 赤色紋粒：中少 角閃石：無少	棺体外表の大形突管か。蓋状側板で指ナテ調整。
368		土製管	外表突管	7, 5TR6/6	7, 5TR6/6	石英：相・中多 赤色紋粒：中少 角閃石：無少	棺体外表の大形突管か。やや粗糲な板ナテ調整。
369		棺形棺	蓋材 構造	7, 5TR6/8	5TR6/3	石英：相・中多 赤色紋粒：中少 角閃石：無少	棺縫は運やかな風状をなし、やや肥厚。表裏面指オサエ顯著。
424	70 - 71	棺形棺	身材側板下 部	7, 5TR5/6	2, 5TR6/8	5TR4/6	石英：相・中多 赤色紋粒：無 角閃石：無少
425	72	棺形棺	身材側板	7, 5TR5/6	5TR4/6	7, 5TR4/3	棺身材側板。空芯輪構造。合わせ口無小口開口。底面中央に円孔。横断方向5 ~ 7 cm 間隔接合 底。外水輪方向外主軸方向ハケ、内水輪方向指ナテ
							石英：相・中多 赤色紋粒：相・中少 角閃石：無少
							棺身材側板。空芯輪構造。小口舌状突起は合わせ口側。横断方向5 ~ 10 cm 間隔に接合部。外主軸方 向ハケ、内指オサエ。

特徴	因版	器種	残存部位	色調(赤)	色調(青)	色調(白)	色調(黒)	粘土	光鏡上の特徴等	
									表面	裏面
426	73	箱形棺	身材側板	5.5RS6/8	2.5RS5/6	10RS4/2	石英：塊・中多 赤色粒：少 角閃石：極少	粘土材側板。空芯結構。小口舌状突起は合わせ口層。横断方向10cm間隔に接合痕。外横断方向ハケ。		
427	74	箱形棺	身材側板?	7.5RS6/6	7.5RS6/6	2.5RS4/4	石英：細・中多 角閃石：極少	粘土材側板部。空芯結構。底面円孔。外主軸方向ハケ。内指オサエ。		
428	70	箱形棺	身材側板	7.5RS5/6	7.5RS5/6	2.5RS4/4	石英：粗・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板底部。空芯結構。底面円孔。横断方向に接合痕。外主軸方向ハケ。内同方向指ナデ		
429	70	箱形棺	身材側板	7.5RS6/6	7.5RS6/6	2.5RS4/4	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板底部。空芯結構。底面円孔。横断方向に接合痕。外主軸方向ハケ。内同方向指ナデ		
430	70	箱形棺	身材側板	10RS5/6	7.5RS4/4	2.5RS5/3	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板底部。空芯結構。底面円孔。外不明。内指オサエ		
431		箱形棺	身材側板	7.5RS6/8	7.5RS6/8	2.5RS5/3	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板底部。空芯結構。外主軸方向ハケ。内指オサエ		
432	74	箱形棺	身材側板	7.5RS6/8	7.5RS5/4	2.5RS5/3	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板底部。空芯結構。外ハケ。内指オサエ		
433		箱形棺	身材	7.5RS6/6	10RS6/4	7.5RS5/6	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材。空芯結構。外ハケ。内指オサエ		
434	74	箱形棺	身材側板	7.5RS5/6	10RS6/6	7.5RS5/2	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板底部。空芯結構。底面円孔。側面斜面板。突舌付か。横断方向5cm内外の隙縫で接合痕。外主軸方向ハケ。内同方向指ナデ		
435	74	箱形棺	身材	7.5RS4/2	2.5RS6/8	2.5RS4/2	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材。空芯結構。外ハケ。内ナデ		
436	75	箱形棺	身材側板	7.5RS5/6	7.5RS5/4	2.5RS5/3	石英：塊・中多 赤色粒：粗 角閃石：無	粘土材側板？空芯結構。外表に水平方向欠刻。横断方向に接合痕。外尖削點付前後に異方向ハケ。		

種別	開版	器種	残存部位	色調(外)	色調(内)	色調(断)	胎土	形態上の特徴等
437	75	箱形棺	身材板?	7.5TR5/6	7.5TR5/3		赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	内指ナデ
							棺身材側板? 平板な材の外表に突起。内指ナデ	
438	75	箱形棺	身材板	7.5TR5/6	7.5TR5/3		石英:板:中多 赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	外ハケ、内指ナデ
							棺身材側板? 空芯結構。外表に突起。點付前に削付端。横断方向に5cm間隔の剥離痕。外ハケ。	
439	75	箱形棺	身材板?	7.5TR5/6	5TR4/6		石英:板:中多 赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	内指ナデ
							棺身材側板? 平板な材の外表に突起。外ハケ、内指ナデ	
440	75	箱形棺	身材板?	7.5TR5/6	7.5TR5/3		石英:板:中多 赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	内指ナデ
							棺身材側板? 平板な材の外表に突起。外ハケ、内指ナデ	
441		箱形棺	舟材					
442	75	箱形棺	身材板	7.5TR5/6	7.5TR6/6	7.5TR4/4	石英:板:中多 赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	内指ナデ
							棺身材側板。空芯結構。外表に突起剥離。點付前に削付端。外主軸點付前後に異方向ハケ、内指ナデ	
443	75	箱形棺	身材板	7.5TR5/6	7.5TR6/6	7.5TR4/2	石英:板:中多 赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	外ハケ
							棺身材側板。空芯結構。内面に削張剥離造。新澤世進交方向に5cm間隔の接合部。外ハケ、内指ナデ	
444	81	箱形棺	身材小口板	7.5TR5/6	7.5TR6/6		石英:板:中多 赤色粒:板:中少 角閃石:繊維少	内指ナデ
							棺身材側板。空芯結構。直線的な二側縁に剥離痕。内面強張剥離。外不明。内指ナデと一部ハ	
445	81	箱形棺	舟材		7.5TR5/8	10TR7/8		外ハケ。
							内指ナデ	
446		箱形棺	舟材 小口板?		10TR6/6	7.5TR5/4	石英:板:中多 赤色粒:板:中少	棺身材小口板? 空芯結構。關口部外表の帶状隆起から小口板と解定。外ハケ、内指ナデ

掲題	図版	番号	検査部位	色調(外)	色調(内)	色調(筋)	粘土	角閃石：緑色少	形態上の特徴等
447	76	箱形棺	木材糊板?	7.5R5/4	7.5R5/6		石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺材糊板外側面部？空芯糊構造。一方の端部は材縫部か、外表面形状の狭窄部。外主軸方向ハケ、内ナデ	
448	81	箱形棺	木材糊板	5T5/6			石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	木材糊板材。長方形版。先端舌状。側縁の棺身接合部凹厚。中央に円孔。表裏指ナデ。
449	82	箱形棺	木材糊強材	7.5R5/6			石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺身材糊強材。長方形版。先端舌状。側縁の棺身接合部を凹厚。表裏指ナデ	
450	82	箱形棺	木材糊強材	10T5/6	5T5/6	7.5R5/2	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺身材糊強材。長方形版。先端舌状。側縁の棺身接合部は毛土断続付で凹厚。中央に円孔。表裏指ナデ	
451	82	箱形棺	木材糊強材	10T5/4	10T5/2	7.5R4/4	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺身材糊強材。長方形版。先端舌状。側縁の棺身接合部凹厚。中央に円孔。表裏指ナデ。	
452	81	箱形棺	木材糊強材	10T5/6	10T5/4	10T5/6	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺身材糊強材。長方形版。先端舌状。側縁の棺身接合部凹厚。中央に円孔。表裏指ナデ。	
453	82	箱形棺	木材糊強材	10T5/6	7.5R5/6	7.5R5/3	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺身材糊強材。長方形版。先端舌状。側縁の棺身接合部凹厚。表裏指ナデ	
454	83	箱形棺?	蓋材糊強材?			7.5R5/6	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	糊強材？棒状粘土を繋ぎ足して柱形に成形。上下部は平坦。側面は指サエの凹凸顯著。	
455	77	箱形棺	木材小口板	7.5R5/8	7.5R5/6	7.5R5/1	石英：粗：中多 赤母：細少 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺材小口板。空芯糊構造。上部開口、底面脱落。一方の端部は二重。内外方向矢張り糊強材剥落 と目印の刺突。水平方向5cm開口に接着部。外水平方向添合部。内面ナデと部分的にハケ	
456	82	箱形棺	木材小口板	10R5/8	7.5R5/6	7.5R3/4	石英：粗：中多 赤色粒：粗：中 角閃石：細少	棺材小口板。空芯糊構造。上面開口？開口部外表は帯状に純く急品。内面中盤に水平方向に糊強材剥落 と目印の刺突。外ハケ、内指ナデ	

番号	図版	器種	残存部位	色調(外)	色調(内)	色調断	粘土	形態上の特徴等
457	78・摄影板 80	骨材 小口 板?	7.5TBS/6	7.5TBS/6	10TBS/3	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	小口凹形板。半円形板の「直標面」。外板下層に帶状土製品(458)接着。内外 ハケ調整。上部は蓋材(459)と接合。	
458	79	骨材 小口板 部材	7.5TBS/6	7.5TBS/6	10TBS/3	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	小口板接着部材。骨材土製品。蓋部中央の円孔に蓋装着。	
459	79	骨材 小口端 部	7.5TBS/6	7.5TBS/6	10TBS/3	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	断面半円形の蓋材小口端。外側に大形突起筋子端記載か。内部側面部に小口板(457)外板材合。内 外ハケ調整。	
460	82	骨材 小 板?	5TBS/8	5TBS/8	10TBS/4	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	小口板上部材？上端は弧狀。上端から切取。外ハケ。内 不明	
461	79	骨強化 材？	7.5TBS/6	7.5TBS/6	10TBS/4	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	強化材？弓形板の直材。下端に削込み目。表面指ナメ。	
462	79	骨材 小口板 部材	7.5TBS/6	7.5TBS/6	10TBS/4	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	小口板接着部材。骨材土製品。蓋部中央。先端欠損。小口板上部中央の円孔に蓋装着。	
463	79	骨強化 材？	7.5TBS/6	7.5TBS/6	5TBS/8	石美：相：中多 赤色粒：細少	小口板接着部材。骨材土製品。蓋部中央。笠部欠損。小口板上部中央の円孔に蓋装着。	
464	84	円筒棺？	5TBS/6	5TBS/8	5TBS/8	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	半球形の小口端。横部より以上、連続山形帯。外斜ハケ。連続山形帯は棒状粘土を斜面単位で貼付。 5 cm 間隔で水平方向接合部。	
465	86	新竹棺	小口蓋 部久く	2.5TBS/8	2.5TBS/8	2.5TBS/2	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	円形板に二重円十放射線状に突帯貼付。中心部十文字。内外引開は八方向。突き上面ハケ
466	89	新竹棺	棺体中一端 部	2.5TBS/6	2.5TBS/6	2.5TBS/2	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	断面半円形の棺身材。外表に櫛型+山形帯貼付。小口部には口金状の内面突出。側壁断面追「t」状 内厚原。棺体に横断方向3~10 cm 間隔で接合部。芯厚帯は棒状粘土を斜面単位で貼付し成形。内外ハケ した大形分割構造。
467	90	新竹棺	棺体中一端 部	2.5TBS/8	7.5TBS/8	石美：相：中多 赤色粒：中少 角閃石：細少	断面半円形の棺身材。外表に櫛型+山形帯貼付。小口部には口金状の内面突出。側壁断面追「t」状 内厚原。棺体に横断方向3~10 cm 間隔で接合部。芯厚帯は棒状粘土を斜面単位で貼付し成形。内外ハケ した大形分割構造。	
468	87	新竹棺	棺体中位	2.5TBS/8	10TBS/8	石美：相：中多	断面半円形の棺身材。外表に櫛型+山形帯貼付。側壁に棺土板を貼付して記厚原。棺体に横断方向	

地層	岩層	岩種	標本部位	色調(外)	色調(内)	色調(断)	粘土
469	88	鶴竹棺	棺体中位	2.57R5/8	2.57R5/8	赤色粒：礁少 内石：礁少	10cm 割面に礁塊に連結し成る。尖部は山形帶幅が広い。
470	88	鶴竹棺	棺体側縁部 板	57R5/6	57R5/6	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	断面半円形の横骨架材。横断方向の空洞 1 条残存。相間部、板上部断面で隔壁。棺耳部は棺土板を駆使して成る。
471	88	鶴竹棺	棺体側縁部 板	57R5/8	57R5/8	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	棺身材側縫部鶴耳部材。断面左「1」状隔壁等の一部か。上縁に外表突起部が残る。
472	91	鶴竹棺	棺体側縁部 板	57R6/8	57R6/8	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	棺身材側縫部鶴耳部材。外ハケ。内面体試粘土を連結した複合構造者。上縁に外表突起部が残る。
473	93	鶴竹棺？	棺体中位	2.57R5/6	2.57R6/8	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	横断方向に僅かに弓曲する棺材。外表に新帶、内面に横断する。内面文帯は棺列より大きく大形。
474	93	鶴竹棺？	棺体中位	57R5/6	57R5/6	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	横断方向に僅かに弓曲する棺材。外表に新帶、内面に横断する。外ハケ片不明。
475	93	鶴竹棺？	棺体中位	2.57R5/8	2.57R6/8	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	横断方向で弧状にカーブする棺材。外表に横帶 + 滑動山形帶。山形帶は新帶裏位に露出して太い。内 部内石：礁：少
476	93	鶴竹棺？	棺体中位	7.57R5/2	57R5/8	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	横断方向で弧状にカーブする棺材。外表に横帶 + 滑動山形帶。山形帶は新帶裏位に露出。棒状粘土 2 本を立てて横ばい。外ハケハケ。内調整不明。
477	93	鶴竹棺？	棺体中位	57R5/8	7.57R4/4	石英：礁：中多 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少 赤色粒：礁：中 角閃石：礁：少	横断方向で弧状にカーブする棺材。外表に横帶 + 滑動山形帶。外不規、内ハケ
478	85	円筒棺？	蓋材口縁部	2.57R6/8	2.57R5/6	石英：礁：中多 赤色粒：礁：少	小口蓋。口縁部に横帶。横帶 + 滑動山形帶か。外斜ハケ。5 cm 間隔で水平方向混合層。

番号	医歴	器種	残存部位	色調(外)	色調(内)	粘土	形態上の特徴等
479	竹管？	柏木中位	57R5/6		57R4/1	角閃石：量極少 石英：量多 赤色粒：量少 角閃石：量少	粘土帶を貼り合わせた棒状品。僅かに背面、小口部剥離。
480	91	竹管	柏木小口部 材	2.57R4/8	2.57R4/8	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	断面半円形の椎骨材小口付近。突出度の無い内部突起。米湯筋ではない。
481	91	竹管	柏木小口部 材	2.57R5/8	2.57R5/8	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	断面半円形の椎骨材小口付近。突出度の強いV型突起。米湯筋ではない。
482	92	竹管	柏木小口部 材	57R5/8	57R5/8	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	断面半円形の前き材小口部。小口内面粘土帶貼付で更厚。記原部内側に内面突起。柏身材466等の小 角閃石：量：少
483	92	竹管	柏木小口部 材	57R5/8	57R5/8	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	断面半円形の椎骨材小口部。小口内面粘土帶貼付で更厚。記原部内側に内面突起。柏身材466等の小 角閃石：量：少
580	110	柏形管	蓋材？	57R5/8	57R5/8	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	横断方向に僅かな溝曲。外表の大尖端子缺。裏蓋がやや太い。外ヨコハケ。内斜ハケ
601	110	柏形管	蓋材？	10V4/1 ~ 10V6/8	10V4/1	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	外表の次第配列不鮮。格子状か。外ハケ調整
602	110	柏形管	蓋材？	57R5/8	7.57R7/4	石英：量：中多 赤色粒：量：中多 角閃石：量：少	横断方向に僅かな溝曲を見るが、ほぼ平坦。外表の大尖端は格子状か縦帯剥離缺い。調整不明

## 円筒形土製管

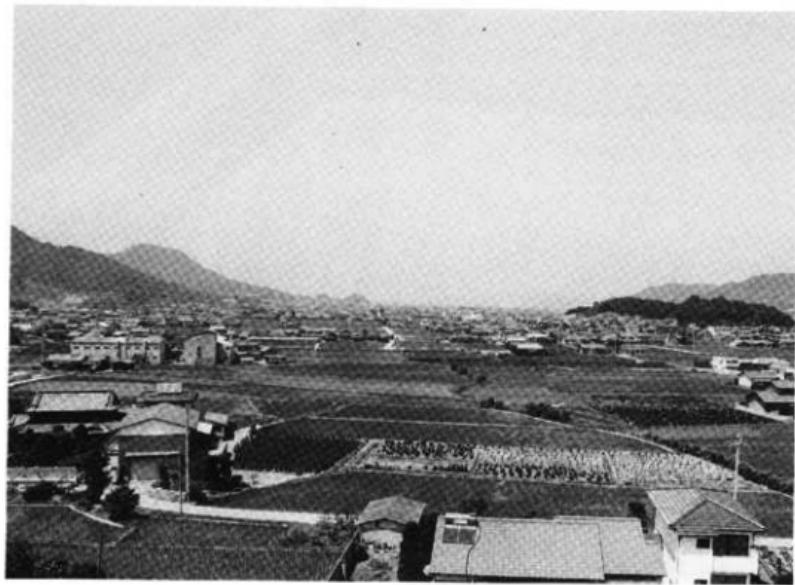
種別	品種	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒斑	粘土	端部形状	外面調整	内面調整	その他	備考
132	43 円筒形土製 中位 棒?		57K6/6	10K7/2				石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	突出度の高 い台形突部				
365	45 円筒形土製 残部 棒?		57K6/6	5YR5/6	10YR5/3			石英：粗・中多 赤色粒：粗・中普 角閃石：細少	尖端貼付し 大形扁平尖 端斜行				
484	94 円筒形土製 小口部蓋材 棒?		57K6/8	7.5YR6/8	7.5YR6/8			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	高台形・大形 帶	ヨコハケ			小口蓋か
485	94 円筒形土製 小口部蓋? 棒?		57K6/8	7.5YR6/8	7.5YR6/8			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	大形台形突 帶	タテハケ			傾きから小 口蓋と判定
486	94 円筒形土製 中位 棒?		7.5YR6/8	7.5YR6/8	7.5YR6/8			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	大形台形突 帶	タテハケ			
487	94 円筒形土製 小口部蓋材 棒?		10YR6/8	10YR6/8	10YR6/8			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	瓶形・大形突 出度大	ヨコナデ	タテハケ後 ヨコハケ		小口蓋か
488	94 円筒形土製 中位 棒?		10YR6/6	5YR5/8	7.5YR5/6			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	高台形・大形 斜ハケ	タテハケ		本体	
562	109 円筒形土製 小口部蓋材 棒		57K5/6	10K7/6	10YR5/6			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	大形台形	タテハケ後 ヨコハケ			半球形小口 蓋か
583	109 円筒形土製 小口部蓋材 棒?		7.5YR6/8	7.5YR6/8	10YR6/2			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	大形台形	タテハケ後 ヨコハケ			半球形小口 蓋か
584	109 円筒形土製 小口部蓋材 棒		72.8	2.5Y7/4	2.5Y7/1			石英：粗・中多 赤色粒：中普 角閃石：細少	體側部は 斜めに落と し、外張に 傾いていた	ヨコハケ		小口蓋	

地圖	図版	器種	残存部位	口径	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒茎	胎土	滑部形態	突部形態	外面部	内面部	その他の特徴	備考
595	109	円筒形土製	小口溝無	56.0	57R6/8	57R6/8	7.57R5/4		粘土舌			ヨコハケ後 毛土帯貼付	ヨコハケ後 滑面ヨコナラ	ヨコハケ後 焼きかられ 体小口と斜 断	
596	109	円筒形土製	小口溝無	64.8	57R6/8	57R6/6	2.57S5/2		石英：粗多 赤色粒：粗多 角閃石：細少	外邊に暗紅 い層平粘土 帶貼付。下 端の接合部 に薄削れ に落とす				焼きかられ 体小口と斜 断	
597	110	円筒形土製	中位			7.57R6/6	7.57R5/4		石英：粗多 赤色粒：粗多 角閃石：細少	大形台形、突 出度大		タチハナゲ 部ヨコハケ		本体	
598	110	円筒形土製	中位			57R6/8	57R6/8	2.57S5/3	石英：粗多 赤色粒：粗多 角閃石：細少	大形台形	タチハナゲ	タチハナゲ	タチハナゲ	本体	

地圖	図版	器種	残存部位	色調(外)	色調(内)	色調(断)	黒茎	胎土	滑部形態	文様	同 型	備考	
342	39	關東状土製品	先存	10R7/3	57R5/8			石英：中多 角閃石：細少	不整円錐状土製品断面 レンズ形。			手づくね成形	
343	39	關東状土製品	先存		57R5/8			石英：中多 角閃石：細少	不整圓狀土製品一見 施模状。			手づくね成形	
345	39	勾玉状土製品	先存		57R7/8			石英：粗多 赤色粒：粗多 角閃石：粗少	勾玉状土製品			手づくね成形。 尾部は薄く貴す。 尾部相当部 分に貫通なし。	
346	39	勾玉状土製品	先存		57R5/8			石英：粗少	勾玉状土製品。細身で 内側は緩く凹面。			頭部に小貫通孔	

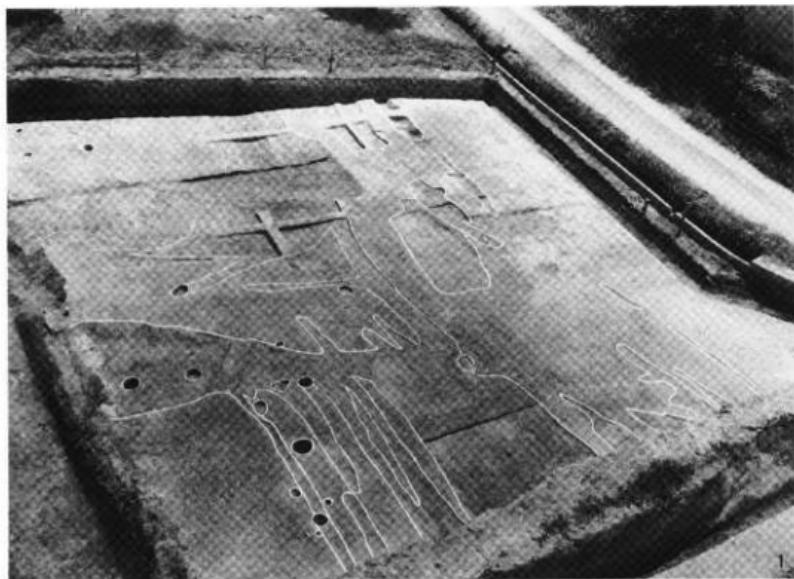
種別	断面	器種	残存部位	色調(外)	色調(内)	色調(新)	黒斑	施土	形 素	文様	調 整	備考
347	39	分 形 土 器 品?	ほぼ完存	10φ87/6	7.5φ66/6	7.5φ66/6	石突・底・中苔 角閃石・繊少	平面木彫形、断面U字 型。			内が面掛け要素	
348	39	ボタン伏土 器品	完存	10φ85/4			石突・底・中多 少余色斑 角閃石・繊少	中多 少余色斑 角閃石・繊少	平面木彫形、断面U字 型の裏面に短 い幅部を付す棒心～円 形の小穴溝。	指ササエと指ナナデでや く出地。	組み合わせ土製粘小口 瓶身に焼似するがは るかに小形。	

# 図 版

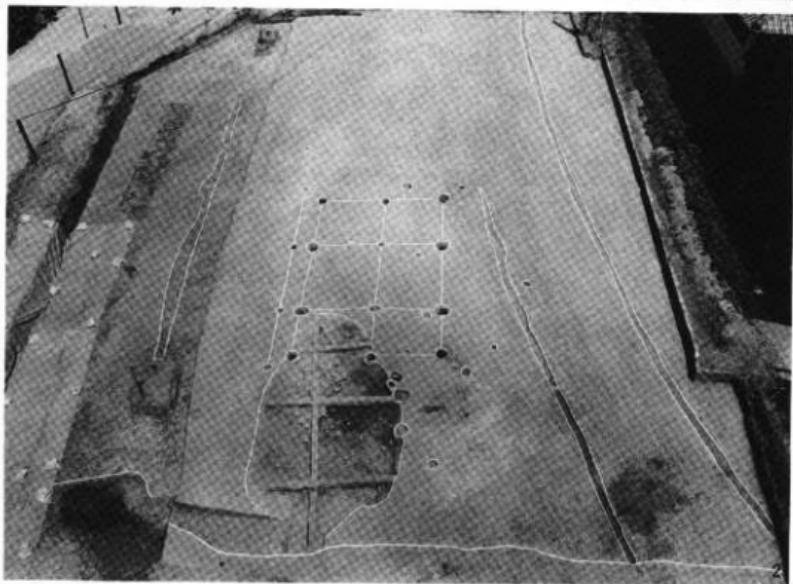
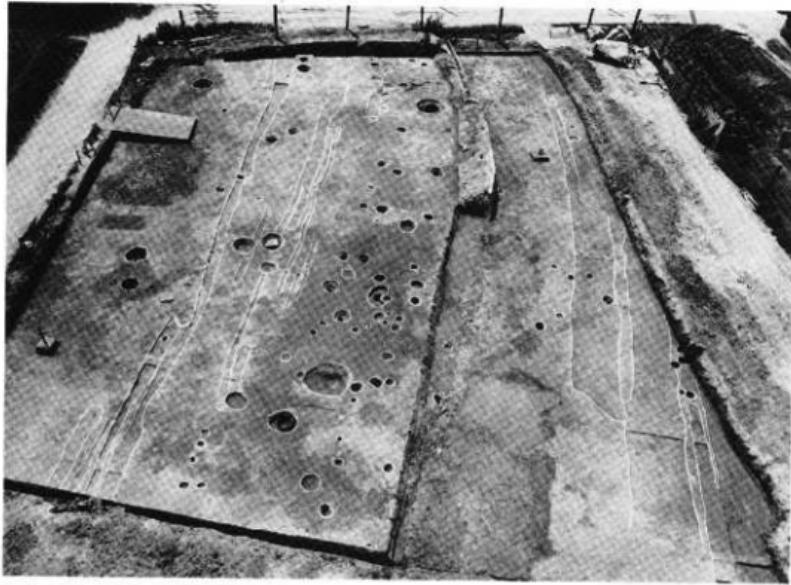


1. 中間西井坪遺跡から見た本津川下流域、2. 雲の中間西井坪遺跡

図版2

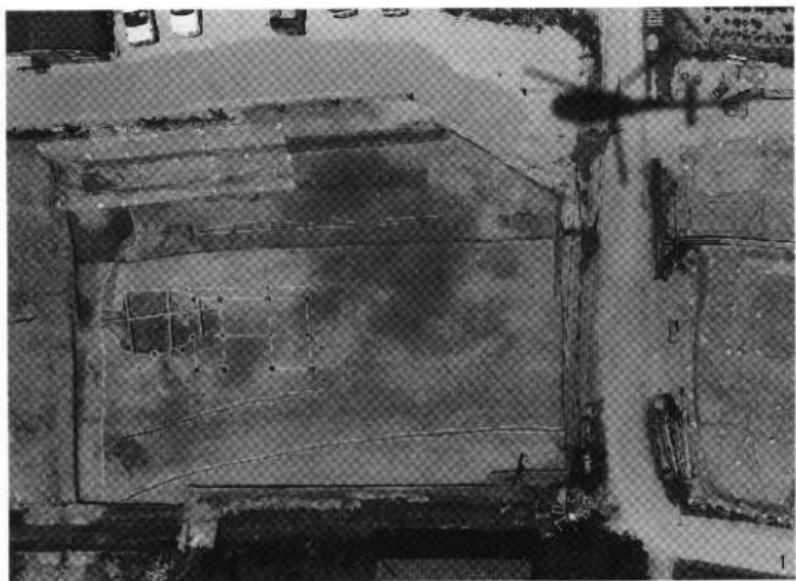


1. 1 b 区南半部（西から）, 2. 1 b 区北半部（西から）

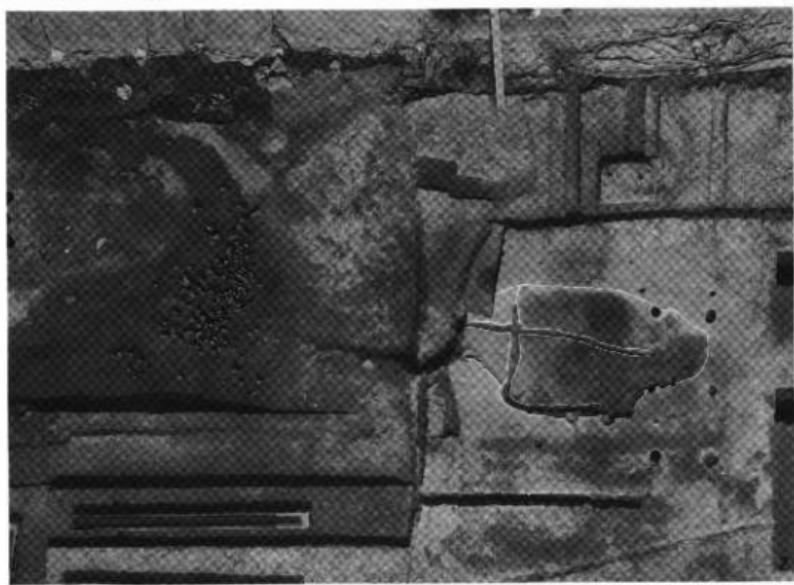


1. 2区 (西から), 2. 3a区 (西から)

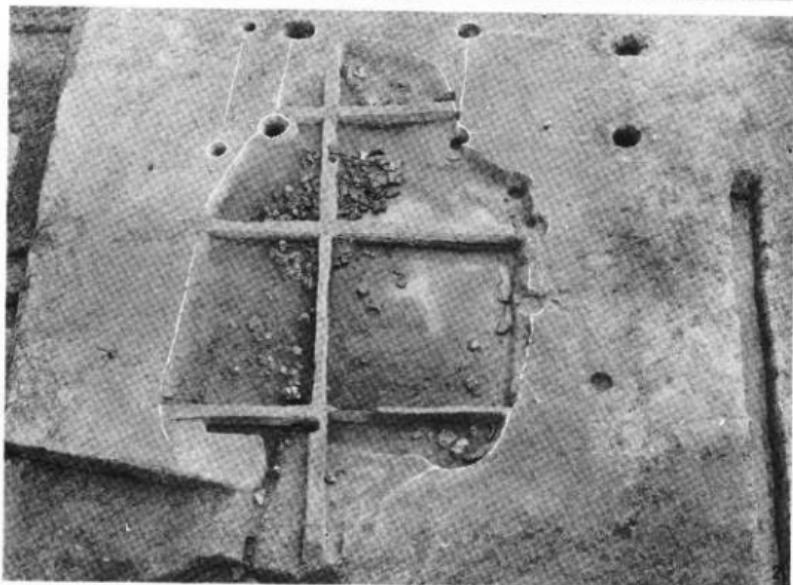
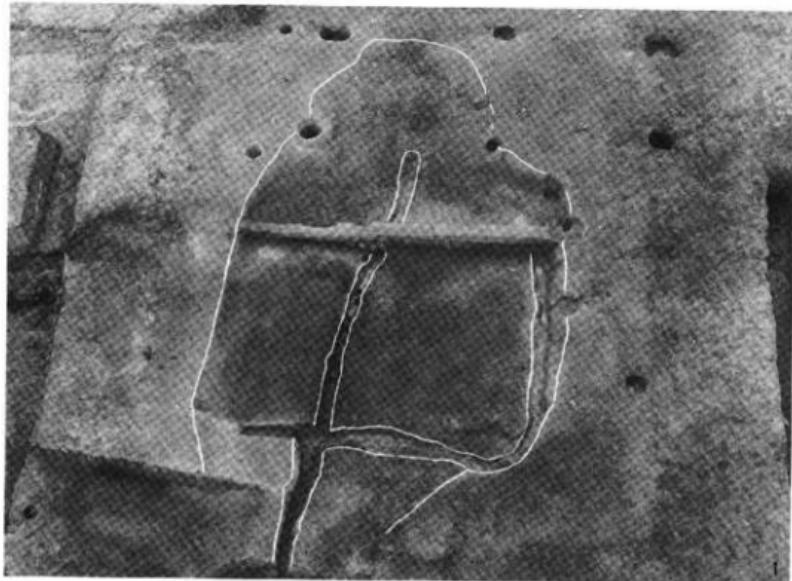
図版 4



1

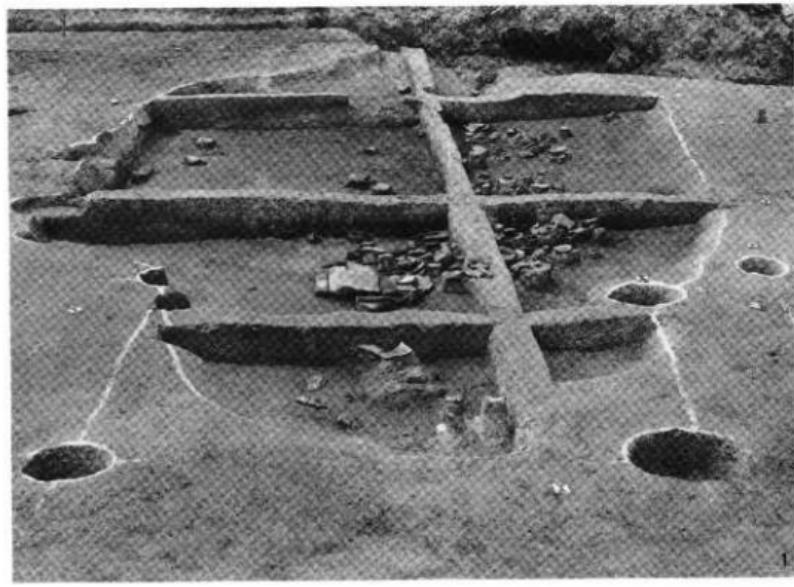


1. 3 a 区全景, 2. 焼成土坑・谷 3 塗輪溜まり



1. 焼成土坑完掘（西から）, 2. 焼成土坑遺物出土状態全景（西から）

圖版 6

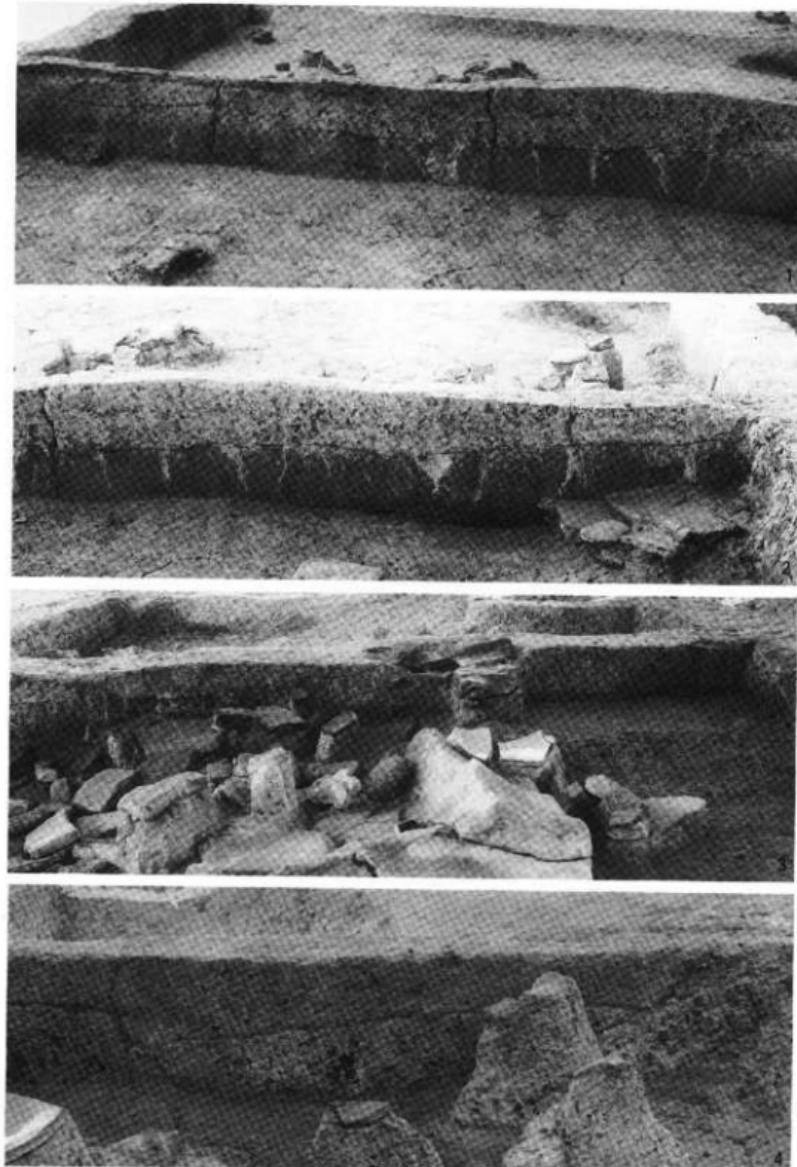


1



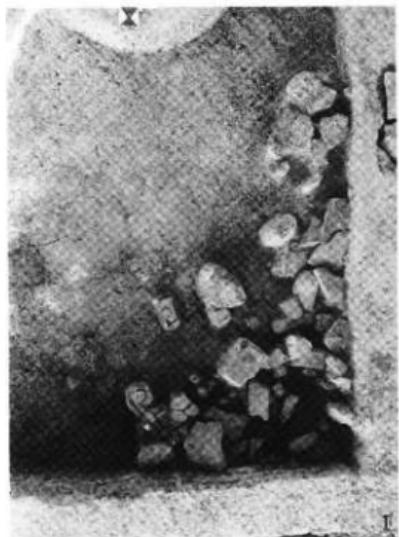
2

1. 烧成土坑遺物出土状態（東から）, 2. 烧成土坑土製棺蓋出土状態

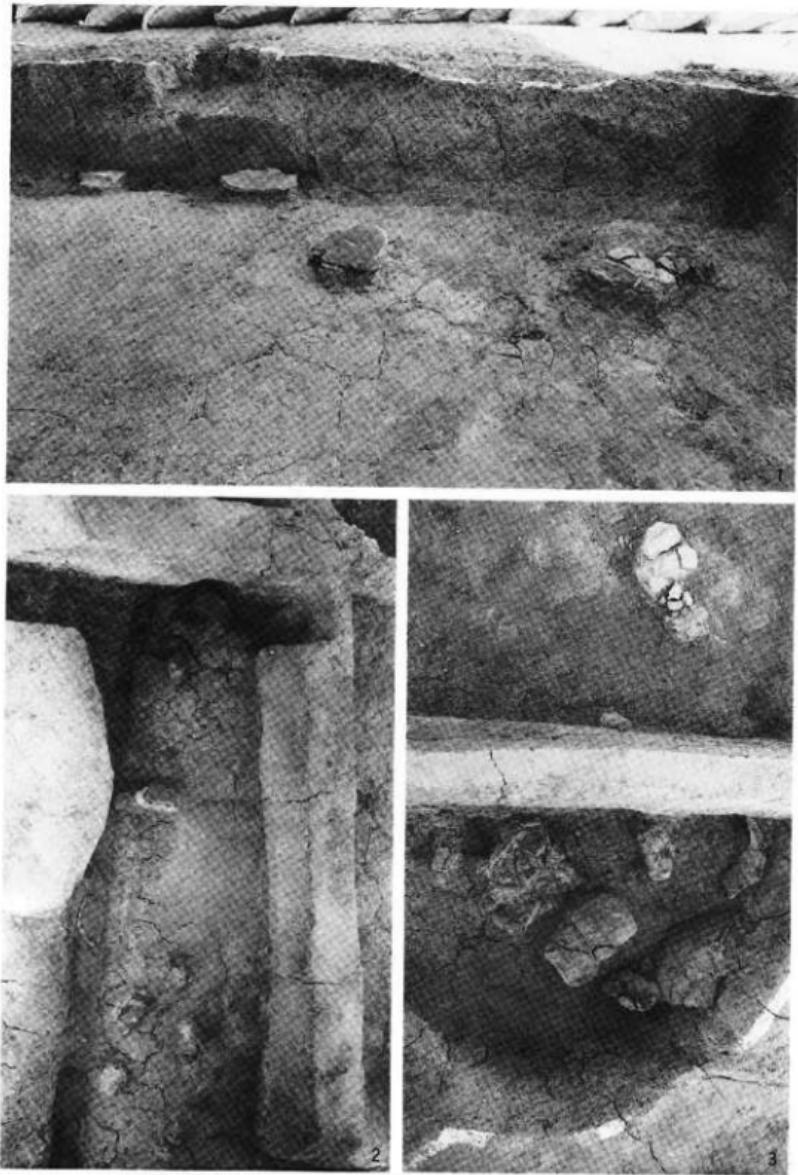


1. 焼成土坑主軸方向断面（西端）、2. 焼成土坑主軸方向断面（中央西）  
3. 焼成土坑主軸方向断面（中央）、4. 焼成土坑主軸方向断面（中央東）

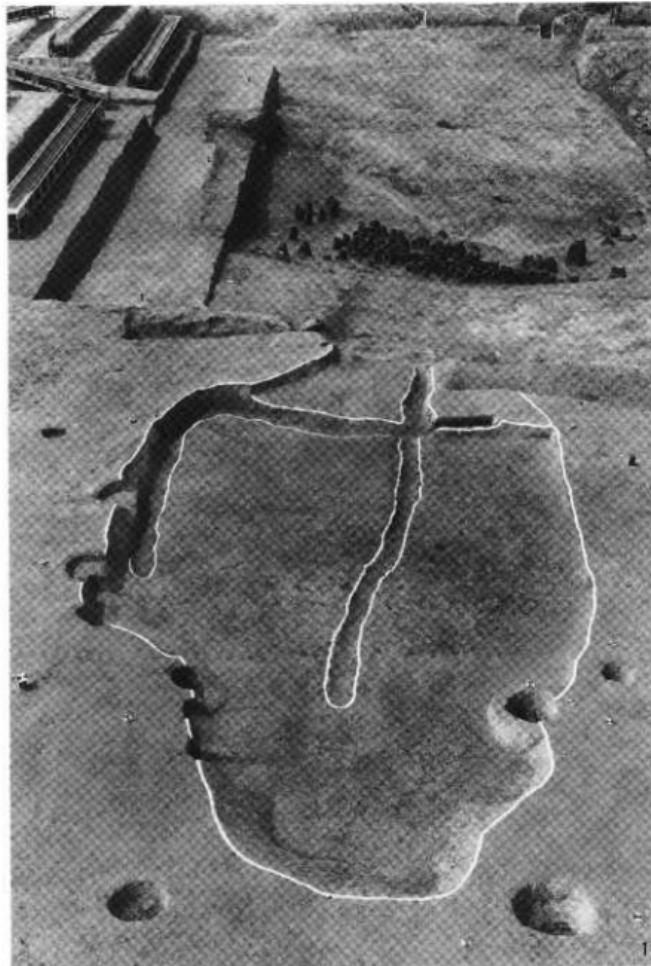
図版 8



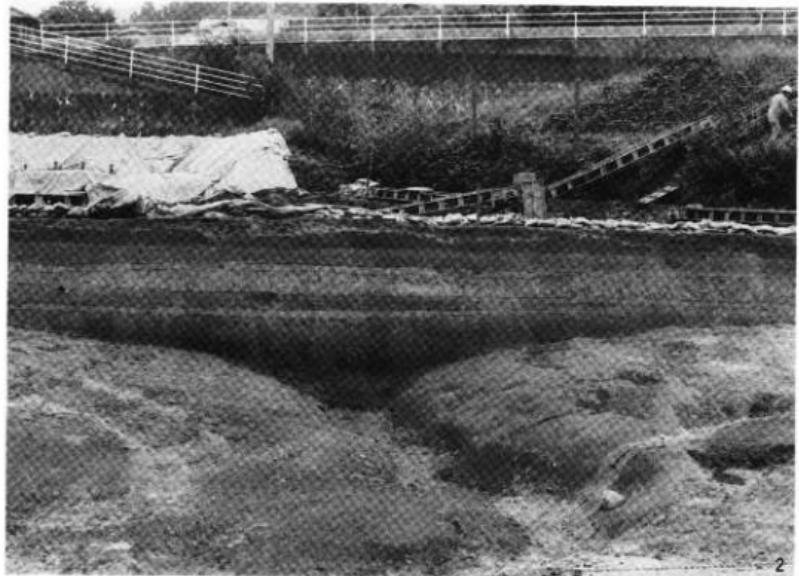
1. 焼成土坑遺物出土状態（中央北）、2. 焼成土坑遺物出土状態（中央南）  
3. 焼成土坑遺物出土状態（中央西）



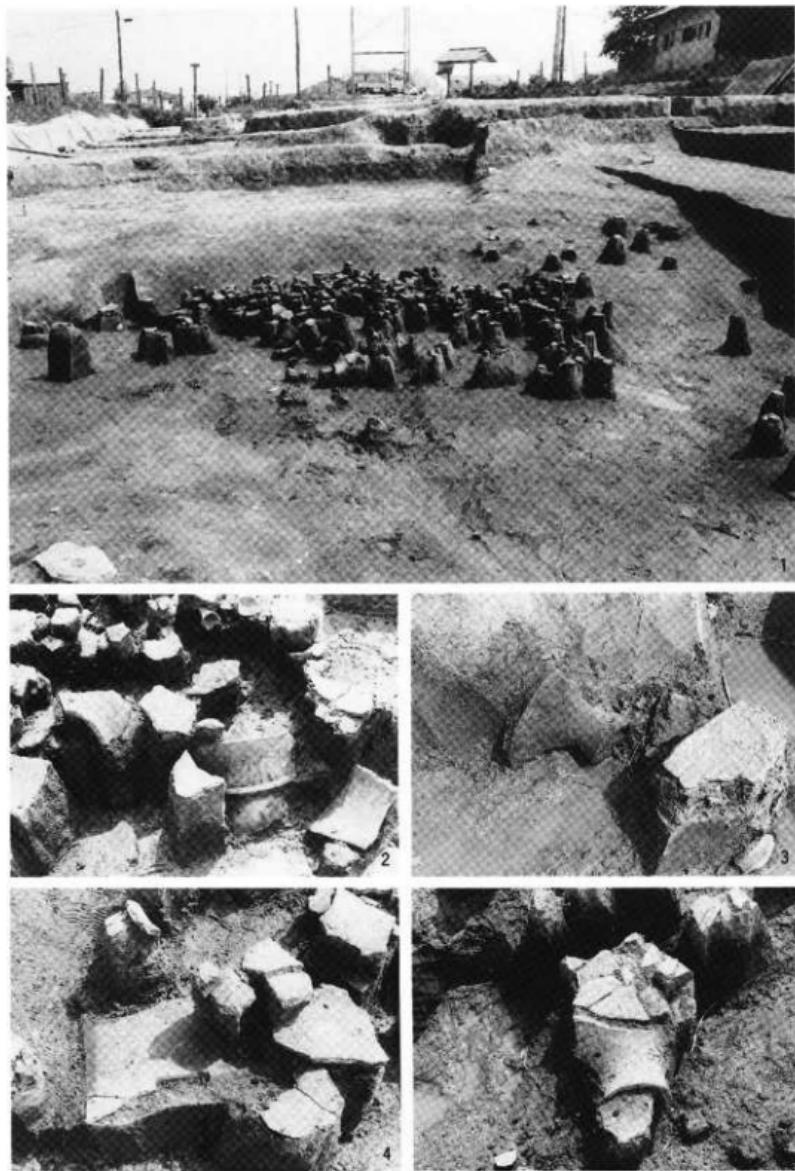
燒成土坑遺物出土狀態 1. 南邊中央, 2. 排水溝西部, 3. 南西隅



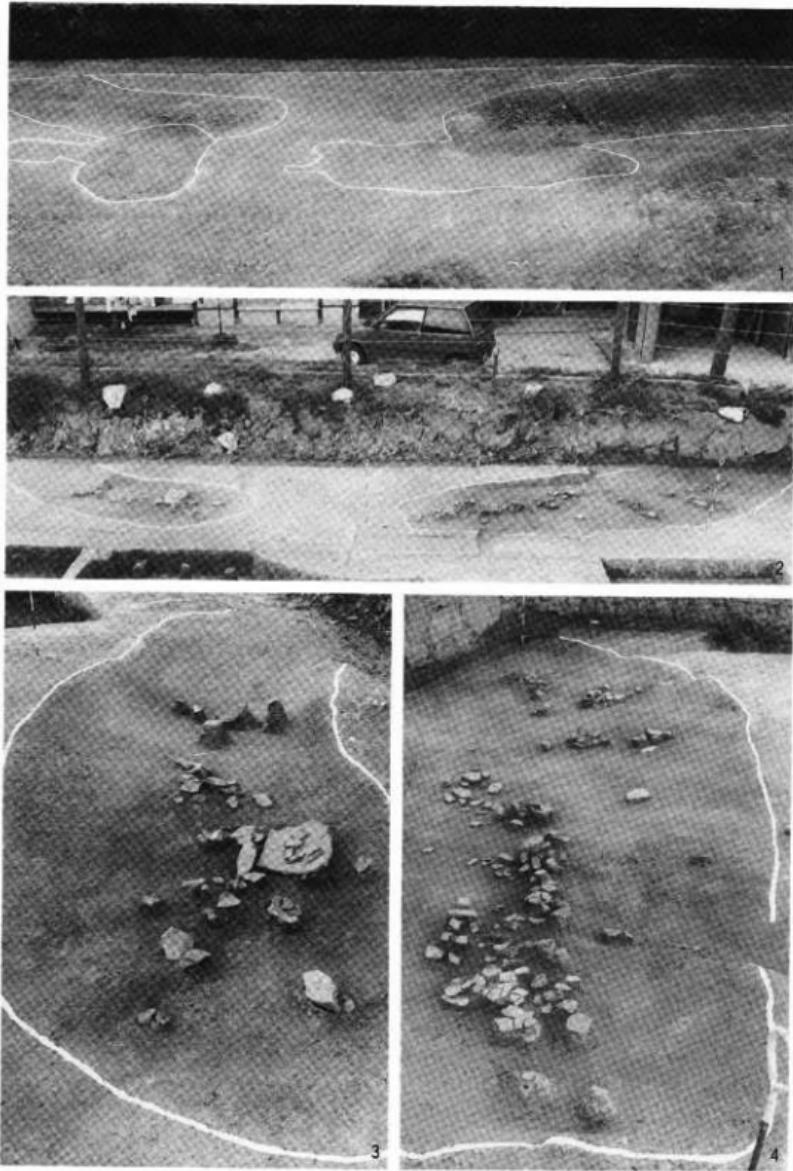
1. 焼成土坑・谷3埴輪溜まり（東から）



1. 谷3埴輪溜まり（北から）, 2. 谷3堆積状態（S R O 3断面2北から）

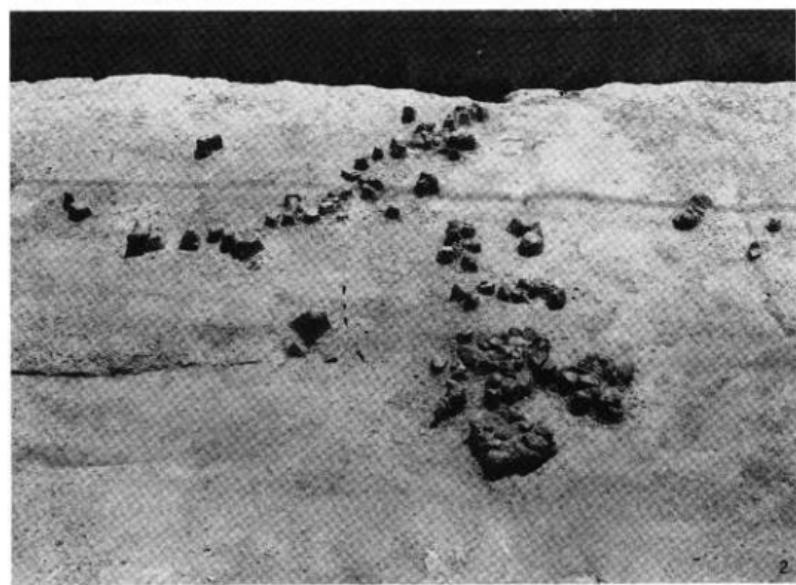


谷3遺物1群 1. 全体（西から）、2. 円筒埴輪、3. 半裁器台形  
4. 円筒埴輪、5. 半裁器台形



1. 3b区 SX01検出状態（南から）。2. 3b区 SX01遺物出土状態（南から）  
3. SX01西部遺物出土状態（東から）。4. SX01東部遺物出土状態（西から）

図版14



1. 3a区SX02埴輪出土状態（西から）, 2. 3a区SX02埴輪出土状態（西から）